別添資料３

足立区文化・読書・スポーツ推進委員会
令和４年度　評価反映結果
（令和３年度事業実施分）

令　和　５　年　２　月

地域のちから推進部

文化芸術部会の評価総括

１　対象施策

施策 1-1 文化芸術の魅力や楽しさに「気づく」機会を創出する　…10 事業
施策 1-2 子どもの成長に応じた文化芸術事業を提供する　… 9 事業
施策 2-1 活動の継続を促す参加・体験の機会を増やす　… 3 事業
施策 2-2 個人や団体の活動の継続を支援する　…11 事業
施策 2-3 活動の成果を発揮できるイベントを開催する　… 6 事業
施策 3-1 文化財・文化遺産を調査し、保存・活用する　… 5 事業
施策 3-2 次世代につなげる地域の伝統文化の継承・活性化を行う　… 3 事業
施策 4-1 足立区の文化的な魅力を効果的に情報発信する　… 4 事業
施策 4-2 連携及び交流の機会を充実し、文化芸術の推進を図る　… 4 事業

２　令和４年度文化芸術部会からの評価

計画の改定に向けて、本部会では、「リアルとオンラインの文化芸術」「生活の中で触れる文化芸術と芸術性の高い公演の体験」を掲げ検討してきた。その中で挙がった論点を中心に評価を総括する。

（１）子どもたちへ、文化芸術の「楽しさ」「面白さ」体験の機会を創出する

コロナ禍で大型施設の休館、利用制限があったが、デジタルを活用した取り組みによる文化芸術に触れる機会を創出したことを評価したい。日常生活の中で、親子や友だちとの「こころに残る芸術文化の体験」、「芸術性の高い一生の財産となる感動体験」など、これまでのリアルイベントの継続は重要である。

ア　評価の高かった「芸術性の高い公演を子どもたちに提供する事業」の継続を期待する。

イ　どのような芸術を子ども達に届けていきたいのか、単に「幅広いものを届ける」ことだけでなく、区がリーダーシップをとって具体的に進めていくことが求められる。

《評価に対する区の考え方》

足立区 文化・読書・スポーツに関するアンケート調査では、コロナ禍以前と比べ「過去１年間に文化芸術鑑賞をした子どもの割合」が３１．４ポイント減少し、５７．６％となった。高い評価を得たデジタル活用とともに子どもたちのこころに残るような文化芸術の体験機会など、リアルイベント等を実施していく。

ア　「芸術鑑賞体験事業」や「文化のちから体験会」など、芸術性の高い公演を子どもたちに提供する事業を継続実施し、子どもたちへ文化芸術の「楽しさ」「面白さ」を体験する機会を創出していく。

イ　３計画アンケート結果では、児童生徒が興味のある分野として「映画・アニメ」、「音楽」、「絵」であった。それを踏まえるとともに、学校現場の声を聴きとり具体的

な取り組みの方向性を検討していく。

（２）生きがいの一つとなるような定期的・継続的な活動を支援できる事業

文化芸術に関心を持っている区民は多いが、足立区の文化芸術事業への評価は低い。「あだちエンターテインメントチャレンジャー支援事業」のような、ニーズの把握から企画された事業や区民の自発的な文化事業の創出への支援が求められる。

ア　「日常の生活の中で触れる文化芸術の事業」を継続することも必要である。

イ　活動の成果をコンテンツとして区外に積極的にアピールすることや、新しい文化芸術への支援は、足立区独自のスタイルに発展する可能性もある。

ウ　足立区独自の文化芸術の創出と継続のために、文化芸術の産業化発展[※1]に期待する。

《評価に対する区の考え方》

足立区 文化・読書・スポーツに関するアンケート調査では、コロナ禍以前の平成３０年度と比べ、文化への無関心が１９．０％から２４．７％へ約６ポイント上昇し、関心があり、かつ文化芸術を鑑賞した層も４５．１％から２７．２％へ約１８ポイント減少している。コロナ等により活動の機会が減少していると推察されることから、利用者のニーズを把握した企画や「日常の生活の中で触れる文化芸術の事業」を実施することで、新たな関心を生み出すきっかけを創出していく。

ア　ギャラクシティで実施しているストリートピアノや、藝大連携事業コンサートの公共施設でのアウトリーチ（令和４年度は中央図書館・郷土博物館）など、「日常の生活の中で触れる文化芸術の事業」を継続展開していく。

イ　障がい者アート展のデジタルアートミュージアム開催の際に行ったプレスリリースや、地域の伝統行事「じんがんなわ」を動画等での発信など、積極的に活動の成果を区内外へ発信していく。また、区外からも広く募っているエンターテイメントチャレンジャー事業無料公演の共催など、区民の自発的な文化事業の創出につなげていく。

ウ　千住を中心に活動している「音まちあだち」や民間文化施設での個性を活かしたコンサートや様々なパフォーマンスが展開されている。今後も、文化芸術の創出が図れるよう、広報や後援などの支援を実施していく。

※1 区内の文化芸術市場が活性化し発展すること。

（３）文化財・文化遺産・伝統文化の保存、継承と活用・活性化

生活スタイルが変わり、さらにコロナ禍で地域の繋がりが希薄化していく中、地域の伝統芸能や行事の保存・継承は非常に重要かつ難しくなっていく。

「ビビビ美アダチ」「おうちミュージアム」などの取り組みが委員から高く評価された。これらのサイトから、実際の博物館や美術館への興味に自然につながり、入場者増加に貢献できたと思われる。

ア　単に過去の文化を保存するだけでなく、住民が主体的に関わる斬新な取り組みや「新たな郷土芸能の創作・育成」などの活動が期待される。

イ　インタラクティブなデジタル技術の活用、リアルとオンラインの融合による新たな可能性の追求を期待する。

ウ　若い人達が、デジタルの情報から実物の足立区の伝統的な文化に接することで、それらを元に新たな文化、芸術、芸能の創作に発展することを期待する。

《評価に対する区の考え方》

「ビビビ美アダチ」は区ホームページへの掲載だけでなくＳＮＳを活用して広く周知されている。また、「おうちミュージアム」は令和３年度末時点で１万３千回以上の閲覧数であり、これらのデジタル活用の取り組みは文化財への新たな興味創出に効果をあげたと言える。今後も、デジタルとリアル双方の利点を勘案し、有形・無形ともに文化への振興を期待して事業展開を行っていく。

ア　地域の伝統行事「じんがんなわ」の東京都指定無形民俗文化財指定に伴い、活動の映像化を行い区内外に発信し、後進育成のきっかけづくりを行った。映像化による保存は、伝統文化をより正確に継承できるものであり、また、継承者の不足を補えるものであると考える。今後についても、郷土芸能を撮影し映像化することによって、保存と技術の継承を行い、後進育成につなげていく。

イ　郷土博物館での音声ガイドや、特別展開催に伴う特設サイトによる、伝統文化鑑賞の体験などにより、リアルとデジタルを活用した事業展開を行っている。今後も、それらの成果を文化財や伝統文化に活かしていく。

ウ　若者が伝統文化を知ることによって新しい発想が起こり、新たな文化芸術の創作につながることも文化芸術の活性化に寄与すると考える。若者が興味を示しやすいマンガを活用した「ビビビ美アダチ」のようにデジタルをきっかけに実物を見てもらえるような機会を増やしていく。

（４）幅広い世代への情報発信と活動支援

３分野計画アンケートによる区民の文化芸術事業への評価は低く、目標値との隔たりが大きい。原因を調査し、文化芸術への興味関心を高める取り組みの検討が必要である。

ア　足立区は文化芸術のための多くの施設を持っているが、区民の活動が土、日、祝日に集中することで、稼働率が悪い印象がある。現在の民間を含めた施設のさらに詳細な調査と分析によって、利用の提案を情報として発信し、区民の文化芸術活動へのニーズに応えられる施設利用の仕組みに期待する。

イ　さまざまな事業の提供、支援、施設の運営などが、一貫した区の文化芸術推進計画であることをロゴ、キャラクター、スローガンなどで具体的に周知することが必要である。

ウ　若い世代の芸術文化活動への支援が拡大されることを期待する。

《評価に対する区の考え方》

評価指標の達成度は外部要因によるところが大きく、区の活動だけでは成果を得ることができないものもあるが、原因分析を進め、文化芸術への興味関心を高める取り組みについて検討する。

ア　ホールについては、土日祝日への利用が集中している状況である。現在の利用実績を分析するとともに、土日祝日の「活動の場」の選択肢を増やせるよう民間施設の利用提案を情報として発信する。

イ　区の文化芸術推進計画であることを示したロゴなどの使用については、区制９０周年事業のロゴ使用の状況も踏まえて検討する。

ウ　「東京藝大アーツプロジェクト実習」では、地域のアーツプロジェクト要望に対応するための講座を開設し、文化芸術の若手コーディネーターの育成を行っていることから、今後、東京藝術大学からアドバイスを得ながら若い世代への支援策を検討する。

（５）指標に関すること

リアルイベントが前提の企画ではコロナ禍の大きな影響を受けたが、担当者の工夫と努力、デジタルの活用などで大きな成果が得られた事業もある。このような事業の中には、現在の「指標の定義」では実績値がカウントされないものもあるので再考が必要である。また、ゲーム等のこれまで文化芸術の領域になかった新しい分野についても、今後は視野に入れる必要がある。

《評価に対する区の考え方》

ホームページアクセス数などの事業実績は高いものの、成果指標が「文化芸術に関する情報発信に満足している区民の割合」となっているため、達成度としては反映されていない。今後、事業実績の結果が確認できる指標の追加を検討する。

なお、これまで文化芸術の領域になかった新しい分野を、文化芸術の領域に含めるかについては、調査研究していく。

文化芸術計画　施策評価シート（令和３年度実施事業分）

施策の柱	１	生涯を通じて文化芸術との出会いを創出する
施策名	１－１	文化芸術の魅力や楽しさに「気づく」機会を創出する
担当部・課		地域のちから推進部　生涯学習支援室　地域文化課
担当部：１～３、６を記入　　庁内検討委員会：４を記入　　推進委員会：５を記入		

１　施策の方向性

文化芸術との出会いは、実際に触れ感じることから始まる。文化ホールや劇場での舞台鑑賞、イベントや地域ごとの文化施設での取り組みなどを拡充することにより、誰もがいつでも文化芸術を楽しめる機会を創出する。

２　成果指標　　※R7は目標値

指標名①	足立区は文化芸術に親しめるまちと感じている区民の割合								
指標の定義	区政モニター及び３計画アンケートによる調査を実施 「足立区は文化芸術に親しめるまちであると思うか」という質問を、５段階評価で行い、４と５を回答した人の割合（１：そう思わない ～ ５：そう思う）								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	新規	－	30.3%				(80.0%)
目標値（R7）	80.0%			－	37.9%				

指標名②	足立区の文化芸術事業を評価している区民の割合								
指標の定義	区政モニター及び３計画アンケートによる調査を実施 「足立区の文化芸術事業を評価できると思うか」という質問を、５段階評価で行い、４と５を回答した人の割合（１：そう思わない ～ ５：そう思う）								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	新規	－	25.8%				(80.0%)
目標値（R7）	80.0%	達成率	－	－	32.3%				

指標名③	文化芸術に関心を持っている区民の割合								
指標の定義	３計画アンケートによる調査を実施 文化芸術（観たり、聴いたり、創作すること）に関心がある区民の割合								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	65.6%	実績値	65.6%	－	67.0%				(80.0%)
目標値（R7）	80.0%	達成率	－	－	83.8%				

指標名④	過去１年間に文化芸術鑑賞をした区民の割合								
指標の定義	３計画アンケートによる調査を実施 過去１年間に、文化ホールや美術館、博物館、劇場、映画館などに出かけて、鑑賞した区民の割合								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	54.5%	実績値	54.5%	－	30.3%				(80.0%)
目標値（R7）	70.0%	達成率	－	－	43.3%				

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	4	1	2	0	0	3	10
%	40%	10%	20%	0%	0%	30%	100%

３　担当部における評価

＜現在の達成状況＞R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①、指標②は新規の指標であり、R3年度はそれぞれ30.3%、25.8%となった。

指標③（65.6%→67.0%）はH30年度とほぼ横ばいだが、R7年度の目標値（80.0%）を大幅に下回った。

指標④（54.5%→30.3%）はH30年度から24.2ポイント減少し、R7年度の目標値（80.0%）を大幅に下回った。

【要因分析】

- 「過去１年間に文化芸術鑑賞をした区民の割合」は、施設休館等の影響により減少したと考えられる。
- コロナ禍の影響により、区民が舞台芸術に直接触れ合う機会は西新井文化ホール及びシアター1010の公演中止、公演延期や定員制限などにより大幅に減少した。
- 子どもたちに文化芸術に触れる機会を提供するギャラクシティ「Japan Festa in ADACHI」など来場者の多いイベントの中止により、気軽に文化芸術に触れる機会の提供が減少した。

【新しい生活様式への対応やその他実績等】

- 「文化のちから体験会」では複数公演でチケット買取方式を採用し、コロナ禍の公演中止等のリスク分散を図るとともにR2年度と同程度の費用で457人増の1,186人の区民を無料招待することで、「子ども」「若者」「大人」向けの舞台芸術を提供した。
- コロナ禍の影響による公演の中止を選択することなく、できる限り他の日程に切り替えることで、文化芸術鑑賞の機会を提供した。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

- コロナ対策を徹底し、気軽に文化芸術に触れる機会を提供していく。
- バラエティ豊かな公演のラインナップで、老若男女にバランスよく文化芸術と出会う機会を創出するために、文化芸術に携わる芸術団体や事業者との連携を検討する。

【中長期の取り組み】

- ウィズコロナを念頭におきつつ芸術鑑賞体験事業を継続することで、より多くの区民に文化芸術の魅力や楽しさに「気づく」機会を提供していく。

＜助言の反映状況＞助言の反映有無、その理由

※　令和3年度に委員会の助言を受けていない施策（重点項目外の施策）は、令和4年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて評価を受けるため、空欄となります。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
3	3	4	ー

4　庁内検討委員会による評価（２次評価）

(1)「現在の達成状況」への評価

・「Japan Festa in ADACHI」や音楽団体等のコンサートなど、気軽に文化芸術に触れる機会の提供ができなかったことは非常に残念である。
・チケット買取方式に変更し鑑賞の機会を拡充したことや、デジタルを活用した事業の小規模実施など、工夫を凝らした企画実施は評価できる。
・公演を中止にせず他の日程に切り替えるなど、粘り強く優れた文化芸術に触れる機会を提供したことは評価できる。

(2)「今後の方向性」への評価

・公演のラインナップの拡充、幅広い世代へのバランスを取った事業展開や芸術団体等との連携を模索するなど、当面の方向性として妥当であり評価できる。
・今後もウィズコロナを念頭において、誰もがいつでも文化芸術を楽しめる機会を創出してほしい。

(3)「助言の反映状況」への評価

※　令和3年度に委員会の助言を受けていない施策（重点項目外の施策）は、令和4年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて評価を受けるため、空欄となります。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
3	3	3	ー

5　推進委員会による評価（令和４年８月記載）

(1)「現在の達成状況」への評価

ア　コロナ禍の影響によりホールを使用する事業の状況が思わしくなかったが、「音まち千住の縁」が目標値の２倍の集客、「文化のちから体験会」無料招待の実施、「日本文化再発見」、「ワークショップ」も堅調で評価できる。
イ　区は様々な文化行事を実施していてそのラインナップは豊富だが、区として文化芸術の政策的な方向性を示すことも必要ではないか。
ウ　「文化芸術に親しめるまちと感じている区民の割合」「足立区の文化芸術事業を認識している区民の割合」のいずれも目標値と比べて実績値が大幅に低いので、要因を明らかにする必要がある。

(2)「今後の方向性」への評価

ア　「気軽に文化芸術に触れる機会の提供」「バラエティ豊かな公演のラインナップ」などの方向性は良いが、それだけでは不十分。指標の達成率向上のためには３計画アンケート結果を元にした、もう少し具体的な取り組み、独自の対応策が必要ではないか。
イ　文化芸術に関心を持っている区民への確実なアプローチ、コンテンツの制作も必要と思われる。

(3)「助言の反映状況」への評価

※　令和3年度に委員会の助言を受けていない施策（重点項目外の施策）は、令和4年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて評価を受けるため、空欄となります。

6　推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「５　推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和５年２月記載）

(1)「現在の達成状況」への評価に対する区の考え方

［イについて（成果指標③）］
3計画アンケート調査では、区民が興味のある文化芸術のジャンルは「音楽」63.6%、「メディア（映画、漫画、アニメなど）」47.8%、「美術」35.1%となった。これらのニーズと過去に実施したジャンルなどを分析し、文化芸術推進計画の見直しの中で、区として今後の具体的な取り組みや独自の施策の方向性を検討していく。

［ウについて（成果指標①②③④）］
成果指標の評価が低く、目標値との隔たりが大きい。指標の達成度は外部要因によるところが大きく、区の活動だけでは成果を得ることができないものもあるが、庁内検討委員会で原因分析を進め、文化芸術への興味関心を高める取り組みについて検討する。

(2)「今後の方向性」への評価に対する考え方

［アについて（成果指標③）］
(1)イと同様に、3計画アンケート調査の結果を分析し、今後の具体的な取り組みや独自の対応策について検討していく。

［イについて（成果指標④）］
郷土博物館の特別展で行った「デジタル美術館」「360°動画」などのデジタル活用と斬新なデザインのパンフレットとしおりの図書館配付、区内書店配付等、博物館展示との相乗効果を踏まえて、文化芸術に関心を持っている区民へのアプローチを工夫していく。

文化芸術計画　施策評価シート（令和３年度実施事業分）

施策の柱	１	生涯を通じて文化芸術との出会いを創出する
施策名	１－２	子どもの成長に応じた文化芸術事業を提供する
担当部・課		地域のちから推進部　生涯学習支援室　地域文化課
担当部：１～３、６を記入　　庁内検討委員会：４を記入　　推進委員会：５を記入		

１　施策の方向性

未来ある子どもたちが人生を楽しく心豊かに生きていくために、より多くの文化芸術に触れる機会が必要である。子どもの成長に応じた効果的な文化芸術のアプローチについて、新たに指針を策定し、「楽しさ」や「面白さ」といった心を動かす体験を数多く、かつ継続的に経験してもらう事業を提供していく。

創造力・想像力、思考力、コミュニケーション能力など現代社会で生きていくために必要な力を育むとともに、文化芸術の新たな担い手の育成にもつながることから、長期的な展望を持って取り組んでいく。

２　成果指標

※R7は目標値

指標名①	足立区は子どもたちが文化芸術を楽しめるまちと感じている区民の割合								
指標の定義	区政モニター及び３計画アンケートによる調査を実施 「足立区は子どもたちが文化芸術を楽しめるまちであると思うか」という質問を、５段階評価で行い、４と５を回答した人の割合（１：そう思わない ～ ５：そう思う）								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	新規	－	35.2%				(90.0%)
目標値（R7）	90.0%	達成率	－	－	39.1%				

指標名②	足立区の子どもに対する文化芸術事業を評価している区民の割合								
指標の定義	区政モニター及び３計画アンケートによる調査を実施 「足立区の子どもに対する文化芸術事業を評価できると思うか」という質問を、５段階評価で行い、４と５を回答した人の割合（１：そう思わない ～ ５：そう思う）								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	新規	－	30.8%				(90.0%)
目標値（R7）	90.0%	達成率	－	－	34.2%				

指標名③	過去１年間に文化芸術鑑賞をした子どもの割合								
指標の定義	３計画アンケートによる調査を実施 過去１年間に、学校行事以外で文化ホールや美術館、映画館などに出かけて、鑑賞した子どもの割合								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	89.0%	実績値	89.0%	－	57.6%				(100.0%)
目標値（R7）	100.0%	達成率	－	－	57.6%				

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	1	4	0	1	2	1	9
%	11%	44%	0%	11%	22%	11%	100%

３　担当部における評価

＜現在の達成状況＞R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①、②は新規の指標であり、R3年度はそれぞれ35.2%、30.8%となった。

指標③（89.0%→57.6%）はH30年度を30ポイント以上減少し、R7年度はの目標値（100.0%）を大幅に下回った。

【要因分析】

- コロナ禍の影響により、ギャラクシティ、劇場、ホール、映画館など、文化施設の休館や一部休館など、利用制限があったことなどから、子どもたちが文化に触れ楽しめる機会が失われたと思われる。
- 子どもの貧困対策の視点から比較的芸術体験が少ない子ども向けに、音楽鑑賞の機会を提供する「子どもの未来応援アウトリーチコンサート」が3回開催予定のところ2回の実施となった。

【新しい生活様式への対応やその他実績等】

- コロナ禍により対面型の活動は少なくなる中、ギャラクシティでは親子で楽しめるような動画配信等のデジタル事業、ブランドブック（小冊子）の作成を行った。地域学習センターではZoomを活用したオンライン講座の開催など、デジタルを活用して文化へ触れる機会を提供した。
- ジュニア吹奏楽団では、集団練習ができない期間、動画を見ながらの個別練習やリモートレッスンを行い、活動を継続した。
- 東京藝術大学連携事業・音楽教育支援事業では、例年の「訪問型音楽指導」に加え、授業や部活動で活用できる動画を作成し希望校へのＤＶＤ配付により、参加学校数がR2年度と比べて6校増加し、R3年度は42校の参加となった。
- 文化芸術に苦手意識を持つ子どものためにボイストレーニングやデスクトップミュージックを体験できる地域文化倶楽部をギャラクシティに創設し、成功体験を重ねることで自己肯定感を育む事業を開始した。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

- コロナ対策を徹底し、文化芸術に直接触れられる体験型の講座等（囲碁・将棋や落語等）を開催する。
- 文科省が実施した「青少年の体験活動に関する調査研究(R2年度)」では、小学生の頃の文化体験や社会体験が多いほど自尊感情や自己肯定感を育むなど、子どもたちの成長に良い影響を与えるとの結果があることからも、今後とも子どもたちの心に残る文化芸術体験の機会を提供する。

【中長期の取り組み】

- 事業の工夫を行いながら、子どもたちがより多くの文化芸術に触れる機会を提供していくことで、文化芸術の新たな担い手の育成に努めていく。

＜助言の反映状況＞助言の反映有無、その理由

※　令和3年度に委員会の助言を受けていない施策（重点項目外の施策）は、令和4年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて評価を受けるため、空欄となります。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	4	4	―

4　庁内検討委員会による評価（２次評価）

(1)「現在の達成状況」への評価

・　コロナ禍の影響により、ギャラクシティの休館や一部休館があり、来館者数はコロナ禍以前であるH30年度は約140万人であったが、R3年度は約55万人（約60%減）へ減少した。また、民間の文化施設の休館など、子どもへの事業提供の機会が減少したことは非常に残念である。

・　コロナ禍の影響がありながらも、感染症対策を徹底して積極的に対面式の事業を実施し、実績を積み上げたことは評価できる。

・　音楽に苦手意識を持つ子どもたち、特に歌に苦手意識を持つ子どもが発声練習などを行うボイストレーニングや楽器ができなくてもタブレット1つで作曲できる事業を開始し、音楽を通して自己肯定感を育むことに着手したことは評価できる。

(2)「今後の方向性」への評価

・　コロナ禍においても、子どもたちが心豊かに育っていくために、より多くの文化芸術を体験できる機会を提供することを期待する。

・　子どもたちにとって成長過程の一定期間に文化芸術に触れ合うことは重要である。今後とも、子どもたちの文化芸術を鑑賞する機会を創出することで心に残る事業を実施してほしい。

・　人気の高い地域文化倶楽部は、小学生だけでなく中学生を対象とした事業の拡大を検討してほしい。

(3)「助言の反映状況」への評価

※　令和3年度に委員会の助言を受けていない施策（重点項目外の施策）は、令和4年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて評価を受けるため、空欄となります。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
3	3	3	―

5　推進委員会による評価（令和４年８月記載）

(1)「現在の達成状況」への評価

ア　デジタルを通じた取り組みやブランドブックの提供など、コロナ禍でも極力子どもたちが文化芸術に触れる機会を提供したことは評価できる。

イ　動画配信などの視聴者数を参考数値として評価に加えてもよいのではないか。

ウ　指標①②とも実績値が低い。１０万人近い１５歳までの子どもの数に見合った事業規模になっていないことが原因ではないか検証する必要がある。

エ　東京藝大連携事業、音楽教育支援事業は、多くの子どもたちにプラスになる好事例だが、区の独自の文化事業として認知されていないので、保護者に十分に周知されていないのではないか。

(2)「今後の方向性」への評価

ア　多くの子どもたちが新しい文化・芸術に触れるために、充実したデジタルコンテンツの活用を期待する。

イ　「幅広いものを届ける」だけでなく、どのような芸術を子どもたちに届けていくのか、そのためのアーティストの選定など、区がリーダーシップをとって進めていくことが求められる。

ウ　足立区の文化芸術政策として区外にアピールできるような芸術性の高い鑑賞の企画を継続することで子どもたちの貴重な経験になる。

エ　子どもの成長に応じた文化芸術事業を提供するには、学校関連の事業へ教育委員会のさらなる協力・連携が必要である。

(3)「助言の反映状況」への評価

※　令和3年度に委員会の助言を受けていない施策（重点項目外の施策）は、令和4年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて評価を受けるため、空欄となります。

6　推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「５　推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和５年２月記載）

(1)「現在の達成状況」への評価に対する区の考え方

［イウについて（成果指標①②③）］

動画配信は文化芸術をPRする重要なコンテンツになりつつあるので、評価の参考値として把握していく。R4年度から全区立小学校5年生に全員（約5,000人）を対象に劇団四季鑑賞を実施するので、事前及び事後のアンケートの内容を分析し、さらなる事業展開に向け検討していく。

［エについて（成果指標②）］

音楽教育支援事業による演奏会等実施は「学校だより」等により足立区主催の文化事業であることを保護者等へ周知していく。

(2)「今後の方向性」への評価に対する考え方

［イについて（成果指標③）］

3計画アンケート調査では、コロナ禍以前と比べ「過去１年間に文化芸術鑑賞をした子どもの割合」が31.4ポイント減少し、57.6%となった。高い評価を得たデジタル活用とともにアーティストの選定などリーダシップをとって、子どもたちのこころに残るような文化芸術の体験機会の創出し、リアルイベント等を実施していく。

［ウエについて（成果指標②）］

R4年度から開始した芸術鑑賞体験事業により、全区立小学校の5年生を対象に「芸術性の高い鑑賞」へ触れる機会を創出した。今後、より効果的な事業を展開するために、学校現場の声を聴きながら教育委員会と地域文化課の連携を強化していく。

文化芸術計画　施策評価シート（令和３年度実施事業分）

施策の柱	２	区民の活発な文化芸術活動を促進する
施策名	２－１	活動の継続を促す参加・体験の機会を増やす
担当部・課		地域のちから推進部　生涯学習支援室　地域文化課
担当部：１～３、６を記入　　庁内検討委員会：４を記入　　推進委員会：５を記入		

１　施策の方向性

文化芸術に関する様々な体験や創作活動などを、区民が生きがいの一つとして継続的に行えるように、機会の提供や活動の支援を行っていく。

また、各学習センターにおいて、複合施設という特色を活かし、読書や運動・スポーツ分野の事業と連携することで相互の活動を促進していく。

２　成果指標

※R7は目標値

指標名①	文化芸術関連事業への参加・活動を行った区民の割合								
指標の定義	３計画アンケートによる調査を実施 これまで文化芸術に関する創作や表現などを体験するイベントや講座に参加したことがある区民の割合								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	15.7%	実績値	15.7%	－	22.9%				(30.0%)
目標値（R7）	30.0%	達成率	－	－	76.3%				

指標名②	足立区は参加･体験型の文化芸術事業が多いと感じる区民の割合								
指標の定義	区政モニター及び３計画アンケートによる調査を実施 「足立区は参加・体験型の事業が多いと思うか」という質問を、５段階評価で行い、４と５を回答した人の割合（１：そう思わない ～ ５：そう思う）								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	新規	－	22.2%				(70.0%)
目標値（R7）	70.0%	達成率	－	－	31.7%				

指標名③	足立区の文化芸術事業を評価している区民の割合【再掲】								
指標の定義	区政モニター及び３計画アンケートによる調査を実施 「足立区の文化芸術事業を評価できると思うか」という質問を、５段階評価で行い、４と５を回答した人の割合（１：そう思わない ～ ５：そう思う）								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	新規	－	25.8%				(80.0%)
目標値（R7）	80.0%	達成率	－	－	32.3%				

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	2	1	0	0	0	0	3
%	67%	33%	0%	0%	0%	0%	100%

３　担当部における評価

＜現在の達成状況＞R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①（15.7%→22.9%）は、H30年度より上回り、R7年度の目標値（15.7%）は下回った。

指標②は新規の指標であり、R3年度は22.2%となった。

【要因分析】

- 各学習センターは利用時間の制限やイベント自粛等により対象講座の多くが中止となり、R3年度2,650回の開催を予定していたところ、1,795回（約30%減）となったことで、区民の文化芸術に関する様々な体験や創作活動が減少した。
- 3分野連携事業(読書及びスポーツ分野と連携した協創推進事業）において、コロナ禍の影響があったものの、事業実施を15施設に拡大し、対象分野も「読書×スポーツ」に「読書×文化」「スポーツ×文化」を加えたことで、多くの区民の参加・活動機会の提供につながった。

【新しい生活様式への対応やその他実績等】

- 各学習センター事業は、定員制限等の工夫で実施できたもののほかに、Zoomを活用したオンライン講座などの開催を行った。
- 3分野連携事業において、LINE登録者に対する事業の定期配信や対面での声掛けなどにより、文化・読書・スポーツへの気づきや定期的な活動への誘導に努めた。
- アートアクセスあだち「音まち千住の縁」では、オンラインで事業を実施しアートに触れる機会を継続して提供した。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

- 各学習センター事業では、登録団体によるふれあいまつりなど、区制90周年関連事業として区民に元気や活力を感じてもらえるような事業を実施していく。
- 3分野連携事業では、引き続きLINE等による積極的な周知や、「読む団地」などとの連携によるアウトリーチ講座も視野に入れるなど、文化芸術に親しむ区民を増やしていく。

【中長期の取り組み】

- ウィズコロナを念頭に、3分野連携事業の「読書×文化」「スポーツ×文化」などの事業手法を用いながら、文化芸術活動への関心喚起や行動変容につながる事業を実施していく。

＜助言の反映状況＞助言の反映有無、その理由

※　令和3年度に委員会の助言を受けていない施策(重点項目外の施策)は、令和4年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて評価を受けるため、空欄となります。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	4	4	―

4　庁内検討委員会による評価（２次評価）

(1)「現在の達成状況」への評価

・　コロナ禍の影響により各学習センター事業の講座の多くが中止になり、体験事業が大幅に減少したことは残念である。
・　3分野連携事業は、指定管理者との連携により対象施設や対象分野の拡充を行い、多くの方の参加、活動の機会の提供につながったことは評価する。
・　コロナ禍の中、LINE登録者への配信やZoomを活用したオンライン講座の開催など、デジタルを活用し、文化芸術に触れる機会の提供に努めたことは評価できる。

(2)「今後の方向性」への評価

・　3分野連携事業を継続的に実施し、新たな文化芸術活動者のさらなる増加に期待する。その中でも「読書×文化」「スポーツ×文化」をわかりやすく周知していく必要性がある。
・　区制90周年関連事業として実施する各学習センター事業は、区民に元気や活力を感じてもらいながら、その後の継続的な活動にもつなげてほしい。

(3)「助言の反映状況」への評価

※　令和3年度に委員会の助言を受けていない施策(重点項目外の施策)は、令和4年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて評価を受けるため、空欄となります。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
3	3	3	―

5　推進委員会による評価（令和４年８月記載）

(1)「現在の達成状況」への評価

ア　各学習センター事業の講座は、H30=目標値との対比で７割の達成率は評価できる。区民の文化・芸術活動はコロナ禍でも衰えていない。
イ　3分野連携事業は目標を上回っており各地域学習センターでの活動は活発で「ちょいカル」の事業手法での関心喚起や行動変容につながる事業実施は評価できる。
ウ　3分野連携事業の拡大やＬＩＮＥ登録者への周知、コロナ対応としてのオンラインでの事業実施は評価できるが、各指標の数値が他の施策と比べて低い。

(2)「今後の方向性」への評価

ア　学習センターなどの施設で行なっている体験イベントの利用者は、ある一定層にとどまってしまっているように思われる。情報が区民に届いているか等の分析が必要である。
イ　実績値をあげるためにも、通勤や買い物など日常的に芸術に触れる機会を増やし、斬新かつ具体的なアイデアを取り入れていくことが求められる。
ウ　文化芸術鑑賞時に区民が実施している様々なサークル等を紹介することで、「鑑賞者」から「主体者」になるような方向性も必要である。

(3)「助言の反映状況」への評価

※　令和3年度に委員会の助言を受けていない施策(重点項目外の施策)は、令和4年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて評価を受けるため、空欄となります。

6　推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「５　推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和５年２月記載）

(1)「現在の達成状況」への評価に対する区の考え方

［ウについて（成果指標①②③）］

成果指標①②③ともに20%台であり、数値の低さはイベントや講座の中止が大きく影響したと考えている。オンラインでの事業実施継続などにより区民参加を促していく。

(2)「今後の方向性」への評価に対する考え方

［アについて（成果指標①）］

学習センター等の利用者へ実施したアンケートでは、施設情報を知った媒体として「口コミ」が最も多く35.6%、次いで「あだち広報」が30.9%であった。これらのアンケートの結果を分析し情報が届いているかを確認する。引き続き利用者へのスタッフからの声かけと配付物、SNS等による情報発信により広く周知していく。

［イについて（成果指標②）］

令和４年度は民間施設でストリートピアノや藝大連携事業コンサートのアウトリーチ（中央図書館・郷土博物館）を実施した。引き続き日常的に文化に触れる機会を増やしつつ斬新なアイデアを取り入れていく。

［ウについて（成果指標①）］

アートアクセスあだち「音まち千住の縁」のような区民参加型のイベントを継続し、「鑑賞者」として気軽に参加・体験して「主体者」の動機付けが行われる機会を引き続き創出する。

文化芸術計画　施策評価シート（令和３年度実施事業分）

施策の柱	２	区民の活発な文化芸術活動を促進する
施策名	２－２	個人や団体の活動の継続を支援する
担当部・課		地域のちから推進部　生涯学習支援室　地域文化課
担当部：１～３、６を記入　　庁内検討委員会：４を記入　　推進委員会：５を記入		

１　施策の方向性

個人や団体が定期的に、また継続して活動できるよう、区のサポート機能を強化していく。例えば、区内文化団体との共催・後援により文化活動の活性化を図ることや文化芸術事業への文化芸術振興基金の効果的な活用を進めていく。

また、文化芸術の次代の担い手となる若者や団体が、将来活躍するための最初の一歩となるよう、経験を積む機会を提供していく。

２　成果指標　　※R7は目標値

指標名①	足立区は文化芸術活動を行いやすいまちと感じている区民の割合								
指標の定義	区政モニター及び３計画アンケートによる調査を実施 「足立区は文化芸術活動を行いやすいまちと思うか」という質問を、５段階評価で行い、４と５を回答した人の割合（１：そう思わない ～ ５：そう思う）								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	新規	－	21.4%				(80.0%)
目標値（R7）	80.0%	達成率	－	－	26.8%				

指標名②	足立区は文化芸術活動への支援を十分にできていると感じている区民の割合								
指標の定義	区政モニター及び３計画アンケートによる調査を実施 「足立区は文化芸術活動への支援を十分にできていると思うか」という質問を、５段階評価で行い、４と５を回答した人の割合（１：そう思わない ～ ５：そう思う）								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	新規	－	16.3%				(80.0%)
目標値（R7）	80.0%	達成率	－	－	20.4%				

指標名③	文化芸術に関わる活動をおこなっている区民の割合								
指標の定義	３計画アンケートによる調査を実施 文化芸術に関わる活動をおこなっている区民の割合								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	12.4%	実績値	12.4%	－	12.1%				(30.0%)
目標値（R7）	30.0%	達成率	－	－	40.3%				

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	6	2	1	0	1	0	10
%	60%	20%	10%	0%	10%	0%	100%

３　担当部における評価

＜現在の達成状況＞R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①、②は新規の指標であり、R3年度はそれぞれ21.4%、16.3%となった。

指標③実績値（12.4%→12.1%）はH30年度とほぼ横ばいだが、R7年度の目標値（30.0%）を下回った。

【要因分析】

- コロナ禍の影響により活動拠点の施設休館や一部休止のため多くの活動が縮小し、音楽3団体が開催できた演奏会は1つで、H30年度4,100人に対しR3年度は60人と大幅に文化芸術活動の機会が減少した。
- 各学習センター団体登録数は、R2年度383団体からR3年度353団体と、30団体の減少となり、指標の数値減少の要因になっていると考えられる。

【新しい生活様式への対応やその他実績等】

- コロナ禍の影響の中でも、区民や団体が安全に文化芸術活動が実施できるよう、区から主催者や出演者等に対して、会場での入退場や消毒等の実施方法など、きめ細かな助言を実施した。
- 将来メジャーでの活躍を目指すアーティストを支援する「エンターテーメントチャレンジャー事業」は申込チラシを区施設のほか、駅や民間施設に設置し、加えてＳＮＳでのＰＲを行った結果、4団体の新たなチャレンジャーの登録に繋がり、合計9団体に増加した。
- 講師派遣事業では、生涯学習センターホームページの「学び情報提供サービス」講師情報等を、一括掲載からジャンルごとに区分けすることで、見やすくするなどの一部改修を行った。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

- コロナ禍の影響の中でも、区民や団体が安全に文化芸術活動が実施できるよう、今後とも主催者や出演者等に対して決め細かな助言を行っていく。
- 各学習センターの登録団体の活動を促進するため、自らが講座やイベント等を企画運営できるようミニコミ紙へ事業や参加者募集の掲載などの支援を行っていく。

【中長期の取り組み】

- ウィズコロナを念頭に、文化芸術活動の流れを絶やさないよう引き続き適切な支援をしていく。

＜助言の反映状況＞助言の反映有無、その理由

※　令和3年度に委員会の助言を受けていない施策（重点項目外の施策）は、令和4年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて評価を受けるため、空欄となります。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
3	3	3	―

4　庁内検討委員会による評価（２次評価）

(1)　「現在の達成状況」への評価

・　コロナ禍で利用施設の休館や一部休止など活動が制限され、団体登録数が30団体（9%程度）の減少となったことは残念である。今後、文化芸術の活動者や活動団体の増加向けた取り組みに期待する。
・　「えんチャレ」は申込チラシの配布先の工夫や、ＳＮＳでのＰＲなどの努力が功奏し、R2年比4団体増の9団体という結果につながったことは評価できる。
・　講師情報（学び情報サービス）の一部改善を行ったことは評価できる。今後、講師派遣の増加に繋がる事業の取り組みに期待する。

(2)　「今後の方向性」への評価

・　コロナ禍の中で縮小した区民の文化芸術活動のさらなる活性化に期待する。
・　コロナ禍に不安を抱える文化芸術の区民や団体が、安心して活動を再開できるよう、各施設のコロナ対策を徹底して行うことを期待する。

(3)　「助言の反映状況」への評価

※　令和3年度に委員会の助言を受けていない施策(重点項目外の施策)は、令和4年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて評価を受けるため、空欄となります。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
3	3	2	―

5　推進委員会による評価（令和４年８月記載）

(1)　「現在の達成状況」への評価

ア　指標の達成率が低くなってしまっているのが残念であるが、コロナ禍の中でも文化芸術活動が継続できるようきめ細やかな対応がなされたことは評価できる。
イ　「あだちエンターテイメントチャレンジャー支援事業」の増加は評価できる。
ウ　区民の文化活動が比較的活発なのに対して、講師派遣の減少、登録団体数の減少、サークル情報登録は変化なしなど、全体に消極的であった。
エ　「足立区は文化芸術活動を行いやすいまち」と感じている区民の割合が低いことは残念だが、足立区の文化芸術活動の環境や支援が、区民に理解されていない現状もあるのではないか。

(2)　「今後の方向性」への評価

ア　さまざまな団体の活動があるが、区の方針としてどのようなジャンルや考え方の芸術をサポートしていくのか、具体的な方針がほしい。
イ　団体が生き生きと活動できるように、各学習センターの「教室」「和室」「多目的室」の稼働率の把握と空き情報の提供、施設使用料等の 検討など、行政としての支援策が必要である。
ウ　ミニコミ紙やＷＥＢのそれぞれの特性を活かしたさらなる取り組みに期待する。

(3)　「助言の反映状況」への評価

※　令和3年度に委員会の助言を受けていない施策(重点項目外の施策)は、令和4年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて評価を受けるため、空欄となります。

6　推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「５　推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和５年２月記載）

(1)　「現在の達成状況」への評価に対する区の考え方

［エについて（成果指標①）］

「足立区は文化芸術活動が行いやすいまちと感じている区民の割合」は21.4%と低いが、コロナ禍でコンサートやイベントなどが中止となったことも影響していると考える。区民の理解を得られるよう、区の活動支援についてホームページなどを活用しわかりやすく周知していく。

(2)　「今後の方向性」への評価に対する考え方

［アについて（成果指標①）］

3計画アンケート調査では、区民が興味のある文化芸術のジャンルは「音楽」63.6%、「メディア（映画、漫画、アニメなど）」47.8%、「美術」35.1%となった。これらのニーズと過去に実施したジャンルなどを分析し、今後の具体的な取り組みや独自の施策を検討していく。

［イについて（成果指標③）］

区民の活動を支援するため施設の空き情報を確認する方法の周知を検討する。施設利用料は全庁で見直しが生じた場合に検討する。

［ウについて（成果指標①）］

ミニコミ紙については、引き続きホームページにも掲載し、リアルとデジタル双方の利点を活かした取り組みを行っていく。

文化芸術計画　施策評価シート（令和３年度実施事業分）

施策の柱	２	区民の活発な文化芸術活動を促進する
施策名	２－３	活動の成果を発揮できるイベントを開催する
担当部・課		地域のちから推進部　生涯学習支援室　地域文化課
担当部：１～３、６を記入　　庁内検討委員会：４を記入　　推進委員会：５を記入		

１　施策の方向性

個人または仲間と共に作り上げてきた作品を発表する場を設けることは、活動を継続する上での糧となる。目標を持つことで充実した活動を行う動機付けとなるように、区民との協創を図りつつ、区民のニーズに合った発表の場を作っていく。

２　成果指標　　※R7は目標値

指標名①	足立区は活動の成果を発揮できる機会が十分にあると感じている区民の割合								
指標の定義	区政モニター及び３計画アンケートによる調査を実施 「足立区は文化芸術活動の成果を発揮できる機会が十分にあると思うか」という質問を、５段階評価で行い、４と５を回答した人の割合（１：そう思わない ～ ５：そう思う）								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	新規	－	20.2%				(70.0%)
目標値（R7）	70.0%	達成率	－	－	28.9%				

指標名②	足立区の文化芸術事業を評価している区民の割合【再掲】								
指標の定義	区政モニター及び３計画アンケートによる調査を実施 「足立区の文化芸術事業を評価できると思うか」という質問を、５段階評価で行い、４と５を回答した人の割合（１：そう思わない ～ ５：そう思う）								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	新規	－	25.8%				(80.0%)
目標値（R7）	80.0%	達成率	－	－	32.3%				

指標名③									
指標の定義									
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）		実績値							
目標値（R7）		達成率							

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	1	0	1	0	1	2	5
%	20%	0%	20%	0%	20%	40%	100%

３　担当部における評価

＜現在の達成状況＞R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①は新規の指標であり、R3年度は20.2%となった。

指標②は新規の指標であり、R3年度は25.8%となった。

【要因分析】

・　足立区文化団体連合会全19事業中、足立区展など11事業はコロナ対策を徹底して開催できたが、その他民謡大会など8事業は感染対策を行っても施設の休館などの影響を受けて実施できなかった。また、開催できたイベントでも参加団体数減などの規模縮小があり、大きな影響を受けた。

【新しい生活様式への対応やその他実績等】

・　足立区展は実際の展示とともに、区ホームページにも受賞作品をデジタル展示した。

・　障がい者アート展は、参加や鑑賞する方から「現場に来場することが難しい」との声を踏まえ、初の試みとして「デジタルアートミュージアム」や「巨大アート展示」をオンラインで開催した。その際、広報にＱＲコードを載せるなど、閲覧数を増やす工夫も実施した。

・　「デジタルアートミュージアム」では、プレスリリースを行い、足立よみうり新聞（11月5日）、朝日新聞（11月17日）、東京新聞（12月8日）に記事が記載された。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

・　今後も対面・非対面型の取り組みを併せて効果的に運用し、継続的に発表の場を提供するとともに、より多くの区民に文化芸術に触れあう機会を創出する。

・　ホームページでのデジタル展示については、より多くの方が見られるよう、ＱＲコードの活用やＳＮＳによるＰＲなど、企画に合わせた効果的な情報発信を検討していく。

【中長期の取り組み】

・　ウィズコロナを念頭に、今後も活動の場や発表の場を創出し、より多くの区民に文化芸術の魅力や楽しさを「深める」機会を提供していく。

＜助言の反映状況＞助言の反映有無、その理由

※　令和3年度に委員会の助言を受けていない施策（重点項目外の施策）は、令和4年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて評価を受けるため、空欄となります。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
3	3	3	―

4　庁内検討委員会による評価（２次評価）

（1）「現在の達成状況」への評価

・　発表の場であるイベントの8事業（約42%）が中止となったが、区のホームページでの展示に切り替えるなど、発表の機会を提供したことは高く評価できる。
・　障がい者アート展「デジタルアートミュージアム」や「巨大アート展」は、参加者等の声を踏まえ、オンラインで初めて開催したことは評価できる。
・　あだち広報にＱＲコードを掲載しアクセス数の増加に努めたことや、プレスリリースにより多数の新聞に記事が掲載されたことなどの広報戦略は評価できる。

（2）「今後の方向性」への評価

・　対面での開催と併せて、ＳＮＳや区ホームページを活用した新たな事業展開により、活動や発表の場を創出し、区民や団体の活動継続に繋がることを期待する。

（3）「助言の反映状況」への評価

※　令和3年度に委員会の助言を受けていない施策（重点項目外の施策）は、令和4年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて評価を受けるため、空欄となります。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
2	2	2	―

5　推進委員会による評価（令和４年８月記載）

（1）「現在の達成状況」への評価

ア　コロナ禍の影響により区民の活動成果を発表する機会が減ってしまったことは残念であるが、プレスリリース含めメディアも巻き込んで施策を展開できたことは評価できる。
イ　デジタル展示を中心にイベントを開催したことは評価できる。
ウ　「土、日、祝日に発表できるホールは争奪戦」「足立区には気軽に展示できるギャラリーがない」など、文化芸術活動の成果を発揮できる機会が十分とは言えない。施設はあるが集中する利用に対応できていないこと、区の新たな取り組みや民間施設などの周知が充分でないことが原因ではないか。

（2）「今後の方向性」への評価

ア　機会の創出と情報発信、その両面での活動が必要である。
イ　リアルイベントとデジタルの融合を期待する。
ウ　各地域学習センターでの「ふれあいまつり」などが大幅に減少したのは残念である。コロナ対策との両立に知恵を絞ってほしい。
エ　利用しやすい中小のホールが少ない、今後、区のホールや文化施設と民間施設の利用条件のデータ、新しい利用方法の提案などが必要ではないか。

（3）「助言の反映状況」への評価

※　令和3年度に委員会の助言を受けていない施策（重点項目外の施策）は、令和4年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて評価を受けるため、空欄となります。

6　推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「５　推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和５年２月記載）

（1）「現在の達成状況」への評価に対する区の考え方

［ウについて（成果指標①）］

区のホールについては、庁舎ホールがワクチン接種で使用できないことから、土日祝日に利用が集中していた。土日祝日への集中が少しでも緩和するよう施設の予約状況を分析し、施設の分散利用を促していく。なお民間の施設利用についても、施設管理者と協議の上、周知の方法等を検討する。

（2）「今後の方向性」への評価に対する考え方

［アイウエについて（成果指標①）］

活動の成果を発揮できる機会としてイベントを開催していく。その際には、企画に合わせて配信を取り入れるなど工夫するとともに効果的な情報発信を検討していく。なお、ホール利用については、（1）と同様である。

文化芸術計画　施策評価シート（令和３年度実施事業分）

施策の柱	３	足立区の文化資源を次世代に継承する
施策名	３－１	文化財・文化遺産を調査し、保存・活用する
担当部・課		地域のちから推進部　生涯学習支援室　地域文化課
担当部：１～３、６を記入　　庁内検討委員会：４を記入　　推進委員会：５を記入		

１　施策の方向性

有形・無形を問わず、文化財・文化遺産を保護し、次の世代へ残していくための取り組みを行う。区に残る貴重な文化資源が消失してしまわぬように、区民や歴史研究者、郷土博物館協働グループなどの協力を得ながら、調査・収集・保存に努める。また、区内外を問わず人々の関心を引くPR方法を取り入れながら、積極的に活用していく。

２　成果指標　　※R7は目標値

指標名①	足立区の文化財や伝統芸能に触れたことのある区民の割合								
指標の定義	３計画アンケートによる調査を実施 足立区内や住む地域の伝統芸能や文化財などを鑑賞したことがある区民の割合								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	40.8%	実績値	40.8%	－	37.7%				(70.0%)
目標値（R7）	70.0%	達成率	－	－	53.9%				

指標名②	足立区の文化財・文化遺産・伝統文化を誇りに思う区民の割合								
指標の定義	３計画アンケートによる調査を実施 足立区の文化財・文化遺産・伝統文化を誇りに思う区民の割合								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	新規	－	31.6%				(50.0%)
目標値（R7）	50.0%	達成率	－	－	63.2%				

指標名③									
指標の定義									
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）		実績値							
目標値（R7）		達成率							

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	1	1	0	0	2	1	5
%	20%	20%	0%	0%	40%	20%	100%

３　担当部における評価

＜現在の達成状況＞R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①実績値（40.8%→37.7%）はH30年度を下回り、R7年度の目標値（70.0%）も下回った。

指標②実績値（31.6%）は新規の指標であり。R7年度目標値（50.0%）を下回った。

【要因分析】

・　郷土博物館は「ビビビ美アダチ」「おうちミュージアム」など、ＳＮＳやホームページを活用した事業展開を実施したが、コロナ対策のための臨時休館や入場制限の影響により、入館者数は7,123人（R2年度比17%減）となった。コロナ禍以前であるH30年度の入館者数は20,770人であり、三分の一程に減少している。

【新しい生活様式への対応やその他実績等】

・　区政80年をきっかけに文化遺産調査事業を始め、2,000点を超える貴重な美術資料が新たに発見された。美術資料の発見は、過去の足立区の文化水準の高さを示す材料である。R3年度はその文化遺産調査特別展として「谷文晁の末裔-二世文一と谷派の絵師たち-」を開催し、区民に広く足立区の文化遺産を周知することができた。

・　郷土博物館では、多くの方の興味や関心を引く仕掛けとして漫画で区文化遺産を紹介する「ビビビ美アダチ」をホームページやTwitterで情報発信するなど、文化遺産をよりわかりやすくＰＲすることで、区の誇れる歴史を伝えている。

・　区ホームページの「おうちミュージアム」に博物館が所蔵する文化財を題材とした2022年年賀状デザインを掲載し区民に提供することで、博物館事業のＰＲを行った。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

・　4コマ漫画で区文化遺産を紹介する「ビビビ美アダチ」を1冊の本にまとめ刊行することで、さらに多くの方へ区の文化遺産調査結果と歴史を周知する。

・　郷土博物館来館のきっかけとなるような電子展覧会を実施し、区内外に区文化遺産調査結果を周知する。

【中長期の取り組み】

・　文化遺産調査事業により新たに発見された「地域に伝来する貴重な美術資料」を次世代に残していくための保存・継承に努めるとともに、文化遺産をわかりやすくPRしながら積極的に活用していく。

＜助言の反映状況＞助言の反映有無、その理由

※　令和3年度に委員会の助言を受けていない施策（重点項目外の施策）は、令和4年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて評価を受けるため、空欄となります。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	4	4	―

4　庁内検討委員会による評価（２次評価）

(1)　「現在の達成状況」への評価

・　文化遺産調査で発見された新たな美術資料の特別展実施により、過去の足立区の文化芸術水準の高さを区民に周知できたことは評価できる。
・　「ビビビ美アダチ」「おうちミュージアム」など、ＳＮＳやホームページを活用した事業展開は新聞などのマスコミにも取り上げられ、区のシティプロモーションにも貢献しており高く評価できる。
・　コロナ対策を図りながら、施設運営や企画展を開催し、様々な方法で足立の魅力や歴史の発信を続けており評価できる。

(2)　「今後の方向性」への評価

・　文化遺産調査を4コマ漫画で紹介するなど、今まで関心がなかった層や若い世代が興味を引く情報発信は評価できる。
・　伊興遺跡公園への社会科見学受入れや小学校等への出前授業など、コロナ禍の影響により実施できなかった事業の積極的な実施に期待する。

(3)　「助言の反映状況」への評価

※　令和3年度に委員会の助言を受けていない施策（重点項目外の施策）は、令和4年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて評価を受けるため、空欄となります。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	4	3	―

5　推進委員会による評価（令和４年８月記載）

(1)　「現在の達成状況」への評価

ア　他の施策と比べ、成果指標の達成度が比較的高い点は評価できる。
イ　コロナの影響を受けつつも、美術展示、郷土博物館でのイベント等、積極的な取り組みを行ったことは評価できる。
ウ　郷土博物館のＳＮＳの取り組み、文化遺産調査で区民にＰＲできた事は評価できる。今後の入場者増加に期待する。
エ　「ビビビ美アダチ」「おうちミュージアム」共に素晴らしい取り組みである。実作品への鑑賞を巧みに誘導している。サイトの更新が少ないことが残念である。

(2)　「今後の方向性」への評価

ア　文化の継承、保存はもちろんのこと、それを元にした「新たな郷土芸能の創作・育成」活動によって、より多くの区民を”主体的”に巻き込んでいくことができる。斬新な取り組み、発信を期待する。
イ　郷土博物館の企画展と常設展の来場者数を分けて分析することで、さらなる来場者数増に寄与するのではないか。
ウ　足立区の歴史や東郊の特徴が現在の発展や生活・文化を形づくっている。それらを積極的にアピールすることで区民の共通認識をつくるべきではないか。

(3)　「助言の反映状況」への評価

※　令和3年度に委員会の助言を受けていない施策（重点項目外の施策）は、令和4年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて評価を受けるため、空欄となります。

6　推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「５　推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和５年２月記載）

(1)　「現在の達成状況」への評価に対する区の考え方

［エについて（成果指標②）］

若者が興味を示しやすいマンガを活用した「ビビビ美アダチ」のようにデジタルをきっかけに実物を見てもらえるような機会を増やしていく。「ビビビ美アダチ」は２年間で27の話数を更新しており、連載終了後は本として発刊し、さらに周知をしていく。なおサイトの更新を増やし実作品鑑賞への誘導を行っていく。

(2)　「今後の方向性」への評価に対する考え方

［アウについて（成果指標②）］

地域の伝統行事「じんがんなわ」の東京都指定無形民俗文化財指定に伴い、活動の映像化を行い区内外に発信し、後進育成のきっかけづくりを行った。映像化による保存は、伝統文化をより正確に継承できるものであり、また、継承者の不足を補えるものであると考える。今後についても、郷土芸能を撮影し映像化することによって、保存と技術の継承を行い、後進育成につなげていく。

［イについて（成果指標①）］

R5年1月から大規模改修に伴い休館となるなかで、展示別の分析を進めていく。なお、リニューアルオープン後も来場者数を維持できるようアウトリーチや、情報発信に取り組んでいく。

文化芸術計画　施策評価シート（令和３年度実施事業分）

施策の柱	３	足立区の文化資源を次世代に継承する
施策名	３－２	次世代につなげる地域の伝統文化の継承・活性化を行う
担当部・課		地域のちから推進部　生涯学習支援室　地域文化課
担当部：１～３、６を記入　　庁内検討委員会：４を記入　　推進委員会：５を記入		

１　施策の方向性

地域で受け継がれてきた伝統文化を知ることは、地域への愛着や誇りの醸成につながる。文化芸術団体の活動や地域のお祭り・お囃子など、足立区に根付いている魅力的な伝統文化の継承・活性化を支援していく。

２　成果指標　　※R7は目標値

指標名①	足立区の文化財や伝統芸能に触れたことのある区民の割合【再掲】（施策3-1）								
指標の定義	３計画アンケートによる調査を実施 足立区内や住む地域の伝統芸能や文化財などを鑑賞したことがある区民の割合								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	40.8%	実績値	40.8%	－	37.7%				(70.0%)
目標値（R7）	70.0%	達成率	－	－	53.9%				

指標名②	足立区の文化財・文化遺産・伝統文化を誇りに思う区民の割合【再掲】（施策3-1）								
指標の定義	３計画アンケートによる調査を実施 足立区の文化財・文化遺産・伝統文化を誇りに思う区民の割合								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	新規	－	31.6%				(50.0%)
目標値（R7）	50.0%	達成率	－	－	63.2%				

指標名③									
指標の定義									
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）		実績値							
目標値（R7）		達成率							

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	1	0	1	0	0	1	3
%	33%	0%	33%	0%	0%	33%	100%

３　担当部における評価

＜現在の達成状況＞R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①実績値（40.8%→37.7%）はH30年度を下回り、R7年度目標値（70.0%）も下回った。

指標②実績値（31.6%）は新規の指標であり、R7年度目標値（50.0%）を下回った。

【要因分析】

- 郷土芸能鑑賞会や郷土芸能大会はコロナ禍の影響により、会場確保などが困難なため中止となった。
- 文化芸術を担う人材の育成事業は158人の参加であり、R2年度と比較して15人減少となった。
- 足立区文化芸術推進計画の施策3-2に位置付けられている藝大連携事業においては、コロナ禍の影響によりコンサート３つの内の1つを中止しており、区民の文化芸術に触れる機会が減少した。

【新しい生活様式への対応やその他実績等】

- 地域の伝統行事である「じんがんなわ」の東京都指定無形民俗文化財指定に伴い、本年に開催された祭りを映像撮影し、区ホームページで紹介することで、区の貴重な伝統行事を区内外に周知した。
- 足立区文化芸術推進計画の施策3-2に位置付けられている藝大連携事業ではコンサートのほかに動画配信「music at home」を実施した。演奏風景だけでなく演奏者の分かり易い解説や、演奏者とのトークセッションを加える工夫を行い、計12回の動画で5,000回以上の閲覧数を獲得した。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

- 地域の伝統行事や伝統芸能の継承・活性化に向けて広報活動などの支援を展開していく。
- 足立区文化芸術推進計画の施策3-2に位置付けられている藝大連携事業においては、区制90周年事業のひとつとして、郷土博物館とのアウトリーチコンサートを行い、質の高い音楽を楽しみながら文化遺産に親しむ機会を提供していく。

【中長期の取り組み】

- 地域事業や連携事業の開催や映像配信などのデジタル技術の活用については、それぞれの良い部分を効果的に活用または組み合わせながら、伝統文化等の継承・活性化を支援していく。

＜助言の反映状況＞助言の反映有無、その理由

※　令和3年度に委員会の助言を受けていない施策（重点項目外の施策）は、令和4年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて評価を受けるため、空欄となります。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	4	4	―

4　庁内検討委員会による評価（２次評価）

(1)　「現在の達成状況」への評価

・　文化芸術を担う人材の育成については、コロナ禍の影響で参加人数が減少した。今後とも地域への愛着や誇りの醸成に繋げるため、一層の努力に努めてもらいたい。

・　「じんがんなわ」などの伝統行事を映像やプレスリリースにより周知したことは評価できる。地域に根付いている伝統文化の後継者づくりのためにも、様々な周知を行い広く区民に知ってもらえることに期待する。

・　東京藝術大学との連携事業は、コロナ禍の影響により中止になったコンサートがあったものの、昨年に引き続き、演奏動画を配信したことにより、誰もが身近に質の高い音楽を聴くきっかけにづくりになったことは評価できる。

(2)　「今後の方向性」への評価

・　コロナ禍の影響により地域の伝統行事や伝統芸能の活動が縮小しているため。団体との連携を密に取り、保存・継承だけではなく活性化につながる支援や事業の展開に期待する。

・　足立区文化芸術推進計画では施策3-2に藝大連携事業が位置付けられているが、事業目的に沿う適切な施策に位置付けを変更するべきと考える。

(3)　「助言の反映状況」への評価

※　令和3年度に委員会の助言を受けていない施策（重点項目外の施策）は、令和4年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて評価を受けるため、空欄となります。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	4	3	―

5　推進委員会による評価（令和４年８月記載）

(1)　「現在の達成状況」への評価

ア　東京藝大連携事業中止の代替策として動画配信を行い、リアル開催を大幅に上回るアクセスを確保できたことは評価できる。

イ　「じんがんなわ」の映像化とあだち公報の発信の連携は大変効果的だと感じた。

ウ　「次世代につなげる地域の伝統文化の継承・活性化」という施策群に藝大連携事業を入れていることは、見直すべきではないか。

(2)　「今後の方向性」への評価

ア　コロナ禍の影響により地域の繋がりが希薄化していく中、伝統芸能や行事の保存・継承は非常に重要かつ難しくなっていくので積極的なサポートを期待する。

イ　伝統的な行事や芸能の中から「足立区らしさとは何か」を言語化していく必要がある。それを提示しプロモーションしていくことが、数年後の成果指標達成につながると考える。

ウ　伝統行事や伝統芸能は区民が支えてこそ意義がある。育成の成果が上がらなかったのは運営方法に問題がなかったか、振り返りが必要である。

エ　「じんがんなわ」だけでなく足立の伝統文化事業を映像化し、ホームページでマップ上に配置することで関心を広げられるのではないか。

(3)　「助言の反映状況」への評価

※　令和3年度に委員会の助言を受けていない施策（重点項目外の施策）は、令和4年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて評価を受けるため、空欄となります。

6　推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「５　推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和５年２月記載）

(1)　「現在の達成状況」への評価に対する区の考え方

［ウについて（成果指標①）］

東京藝大連携事業を、施策1-1へ移動する。

(2)　「今後の方向性」への評価に対する考え方

［アについて（成果指標①）］

コロナ禍により伝統芸能の活動機会が減少していたことからも、新たな取り組みとして「じんがんなわ」のYouTube配信などを行っている。これにより、区民が郷土芸術に関心を持ち、新たな活動につながっていくことを期待し、伝統芸能の情報発信を継続していく。

［イエについて（成果指標①）］

若者が古きを知ることによって新しい発想につながれるよう、文化遺産調査で発見された足立区特有の歴史と文化財のつながりを足立区らしさとして言語化する。そのため、デジタルを活用した郷土博物館の「ビビビ美アダチ」「バーチャルツアー」「音声ガイド」や、足立区ホームページに今後掲載を予定している「文化財デジタルマップ」などで情報発信していく。

［ウについて（成果指標②）］

伝統行事の後進育成の成果が上がらなかったのは地域の祭りが３年間開催できなかったことが大きく影響している。今後とも、地域の子どもたちが伝統芸能に興味を持つきっかけとなるよう、「ジャパンフェスタ」や「大ひょうげん」などへの参加を促していく。

文化芸術計画　施策評価シート（令和３年度実施事業分）

施策の柱	４	文化芸術の輪を広げるプラットフォームを形成する
施策名	４－１	足立区の文化的な魅力を効果的に情報発信する
担当部・課		地域のちから推進部　生涯学習支援室　地域文化課
担当部：１～３、６を記入　　庁内検討委員会：４を記入　　推進委員会：５を記入		

１　施策の方向性

文化芸術を身近に感じるためには、文化芸術に関する情報の充実も重要な要素となる。区民が必要な情報を得られるよう調査・検討を続けていくとともに、区内外の文化芸術に関連する情報の集約を図りながら、広報紙やＩＣＴの活用により人々の関心を引く効果的な情報発信を行う。

また、各学習センターにおいて、複合施設の特徴を活かし、3分野の情報を一体的に分かりやすく提供する。さらに、区内の文化施設やイベントを通して、文化芸術の楽しさをより広く知ってもらう普及活動を行う。

２　成果指標

※R7は目標値

指標名①	文化芸術に関する情報発信に満足している区民の割合								
指標の定義	施設利用者アンケート及びイベント参加者アンケートにより実施 「文化芸術に関する区の情報発信に満足しているか」という質問を、５段階評価で行い、４と５を回答した人の割合（１：満足でない ～ ５：満足である）								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	新規	－	18.8%				(80.0%)
目標値（R7）	80.0%	達成率	－	－	23.5%				

指標名②	足立区は文化芸術に親しめるまちと感じている区民の割合【再掲】（施策1-1）								
指標の定義	区政モニター及び３計画アンケートによる調査を実施 「足立区は文化芸術に親しめるまちであると思うか」という質問を、５段階評価で行い、４と５を回答した人の割合（１：そう思わない ～ ５：そう思う）								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	新規	－	30.3%				(80.0%)
目標値（R7）	80.0%	達成率	－	－	37.9%				

指標名③									
指標の定義									
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）		実績値							
目標値（R7）		達成率							

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	4	0	0	0	0	0	4
%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	100%

３　担当部における評価

＜現在の達成状況＞R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①実績値（18.8%）は新規の指標であり、R7年度の目標値（80.0%）を下回った。

指標②実績値（30.3%）は新規の指標であり、R7年度の目標値（80.0%）を下回った。

【要因分析】

- 指標②について、「親しめるまちと感じると思わない」と回答した割合は、男女ともに19歳以下が最も多く、若い世代への情報発信が足りなかった。

【新しい生活様式への対応やその他実績等】

- 感染症対策を徹底したうえで「『ちょいスポ』『ちょいカル』『ちょい読み』キャンペーン」を実施した。各学習センターの指定管理者から文化芸術に関するLINEによるプッシュ通知を強化し、R3年度目標として27回を設定していた「ちょいカル」情報発信は66回に達した。
- 文化芸術に関連する足立区ホームページの閲覧数は41,583回であり、R2年度の47,400回と比較して減少した。
- ＪＯＢＡＮアートライン事業のＰＲ動画を、各学習センターやスポーツ施設などのデジタルサイネージに放映した。ＰＲ動画アクセス数は2,030回に上り、目標値としていた2,000回を上回った。
- 生涯学習センター及び地域学習センターからのお知らせや役立つ情報を掲載した「ミニコミ紙」を、配色等の見やすさに努めながら各センターが作成し、年間で514,800部配布した。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

- 地域学習センターなどが発行する「ミニコミ紙」を見やすくし、区民が講座等に参加するきっかけに繋げる。また、ＬＩＮＥによるプッシュ通知の成果を横展開するための可能性を検証する。
- 地域学習センターやギャラクシティ、シアター1010などで開催するイベントを区ホームページのイベント情報に掲載し、区民が必要な情報を得やすくする。

【中長期の取り組み】

- 広報紙やホームページに加え、ＳＮＳ等の情報発信の手法を広げ活用し、人々の関心を引く効果的な情報発信を行う。

＜助言の反映状況＞助言の反映有無、その理由

- 「３分野連携事業の継続実施」への助言に対しては、地域学習センターを6施設から15施設に拡大した。情報発信については、LINEでのプッシュ通知回数を増やし、各センター職員から区民への声掛けを実施した。
- 「効果的な情報発信」への助言に対しては、ミニコミ紙を見やすくするための取り組みに着手している。また、ギャラクシティ、シアター１０１０などの文化イベント情報を区ホームページのイベント情報欄に掲載を始めるなど、より効果的な情報発信に努めた。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	4	4	4

4　庁内検討委員会による評価（２次評価）

(1)「現在の達成状況」への評価
- ホームページアクセス数は昨年度より減少したが、依然として高い数値であり、効果的な情報発信の継続に期待できる。
- 文化芸術に関するプッシュ通知として、キャンペーン参加者への「ちょいカル」情報発信は、LINEの活用が目ざましく、高く評価できる。
- 「ミニコミ紙」も目標を超えて年間約50万部を発行することで、情報発信の強化を図ったことは評価できる。

(2)「今後の方向性」への評価
- コロナ禍の影響により、ＳＮＳ等のオンラインの発行が多くなる一方で、R3年度のように、情報過多になったためか、アクセス数の伸び悩みも見られた。今後も、「閲覧のしやすさ」「簡便な参加申し込み」「さらなる内容の充実とデザインの向上」に向け、引き続き改善を期待する。

(3)「助言の反映状況」への評価
- 若い年齢層向けにLINEやホームページでの情報発信を増加させたこと、また、すべての世代が関心を引くよう声掛け実施による情報発信を強化をしたことは評価できる。さらなる工夫を検討してほしい。
- ミニコミ紙は、発行部数のみにとどまらず、満足感の引き上げにつながるよう、引き続き内容の充実にも取り組んでほしい。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
3	3	3	3

5　推進委員会による評価（令和４年８月記載）

(1)「現在の達成状況」への評価
ア　情報発信の回数、部数自体は多いにも関わらず、成果指標の達成率が低いのが残念。やり方自体を見直すか、成果指標を見直す必要があると思われる。
イ　ホームページのアクセス数、「ＪＯＢＡＮアートライン」の動画アクセス数、ミニコミ紙年間配布数などの数値の定義も含めて示すべきである。
ウ　文化芸術に関する区の情報発信の満足度が低いことの原因の深掘り、改善が求められる。
エ　文化を知るきっかけとなる『ちょいスポ』『ちょいカル』『ちょい読み』キャンペーン事業展開を評価できる。

(2)「今後の方向性」への評価
ア　区民とのコミュニケーションのあり方は最重要課題である。ＬＩＮＥのプッシュ通知やＳＮＳでの展開などのデジタル情報発信の効果の検証と紙媒体との効果的な組み合わせが必要である。
イ　行政発信というある種”堅い”イメージのものを、いかにして”エンタメ性”をもって届けるかの工夫が求められる。
ウ　ミニコミ紙は、地域学習センター以外の文化芸術行事や区がプッシュしたい情報などに一定ページを割いて、区からの情報発信も行った方が良い。

(3)「助言の反映状況」への評価
ア　助言が多数反映されている。情報発信として、情報誌の改善やＳＮＳへのチャレンジなど、前進していることが評価できる。
イ　ホームページで「プラットフォーム」を作っていくことが必要である。その際「文化に触れる機会の創出」を意識しつつ、情報誌、ホームページ、メルマガ及びＳＮＳで「区民と区の情報受発信手段」を構築されたい。なお、全体の仕組みを示していくことも必要である。

6　推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「５　推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和５年２月記載）

(1)「現在の達成状況」への評価に対する区の考え方
［アウについて（成果指標②）］
R4年度に実施した区政モニターアンケート結果から、文化芸術分野のジャンルなどによって効果的な情報発信手段が異なることが明らかとなったので、対象に合わせた情報発信手段を選んでいく。
［イについて（成果指標①）］
事業の活動指標については数値の定義について詳細を記載する。

(2)「今後の方向性」への評価に対する考え方
［アイウについて（成果指標①）］
ミニコミ紙については、デザインの改善を行い、手に取って読んでもらえることを意識して作成する。なお、引き続きホームページにもミニコミ紙を掲載し、広く区民に周知する。

(3)「助言の反映状況」への評価に対する区の考え方
［イについて（成果指標①）］
オンラインでの情報発信については、ホームページのおでかけ・イベント情報にて情報を一元化を強化し、区民の情報収集ツールとなるよう登録する情報を増やしていく。また、引き続きＳＮＳでの情報発信も活用していく。なお、ホームページでのプラットフォームは、現行のシステムで何ができるかを検討する。

文化芸術計画　施策評価シート（令和３年度実施事業分）

施策の柱	４	文化芸術の輪を広げるプラットフォームを形成する
施策名	４－２	連携及び交流の機会を充実し、文化芸術の推進を図る
担当部・課		地域のちから推進部　生涯学習支援室　地域文化課
担当部：１～３、６を記入　　庁内検討委員会：４を記入　　推進委員会：５を記入		

１　施策の方向性

国の文化芸術推進基本計画では、「文化芸術の推進のためには行政機関、文化芸術団体、文化施設、企業等の民間事業者等の関係者相互の連携及び協働が重要である」とされている。

足立区内においても、様々なジャンルのアーティストや伝統ある文化芸術団体、私設の文化施設など、文化芸術に関する専門的な知識や技術を持つ主体が活躍している。それらの主体がゆるやかにつながるプラットフォームを形成し、足立区の文化芸術の活性化を図る。

２　成果指標

※R7は目標値

指標名①	足立区の連携事業及び交流の機会が充実していると感じている区民の割合								
指標の定義	施設利用者アンケート及びイベント参加者アンケートにより実施 「足立区の連携事業及び交流の機会は充実していると思うか」という質問を、５段階評価で行い、４と５を回答した人の割合（１：充実していない ～ ５：充実している）								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	新規	－	15.2%				(70.0%)
目標値（R7）	70.0%	達成率	－	－	21.7%				

指標名②	足立区は文化芸術の推進に力を入れていると感じている区民の割合								
指標の定義	区政モニター及び３計画アンケートによる調査を実施 「足立区は文化芸術の推進に力を入れていると思うか」という質問を、５段階評価で行い、４と５を回答した人の割合（１：そう思わない ～ ５：そう思う）								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	新規	－	21.2%				(70.0%)
目標値（R7）	70.0%	達成率	－	－	30.3%				

指標名③	足立区の文化芸術の推進施策を評価できると感じている区民の割合								
指標の定義	区政モニター及び３計画アンケートによる調査を実施 「足立区の文化芸術の推進施策を評価できると思うか」という質問を、５段階評価で行い、４と５を回答した人の割合（１：そう思わない ～ ５：そう思う）								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	新規	－	19.1%				(70.0%)
目標値（R7）	70.0%	達成率	－	－	27.3%				

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	0	0	1	1	1	1	4
%	0%	0%	25%	25%	25%	25%	100%

３　担当部における評価

＜現在の達成状況＞R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①実績値（15.2%）は新規の指標であり、R7年度の目標値（70.0%）を下回った。
指標②実績値（21.2%）は新規の指標であり、R7年度の目標値（70.0%）を下回った。
指標③実績値（19.1%）は新規の指標であり、R7年度の目標値（70.0%）を下回った。

【要因分析】

- コロナ禍の影響により、文化芸術交流会の機会やイベントの実施が大きく制限され、各事業の達成度も低い結果となり、団体相互の連携及び協働が十分できなかった。

【新しい生活様式への対応やその他実績等】

- 音まち千住の縁「仲町の家」では、コロナ対策を徹底し全12事業を実施した。特に郷土博物館による村越向栄の「八橋図屏風」「四季草花人物図屏風」などの出張展示など新たな試みも展開され、コロナ禍の影響により1日のみの開催となったが、143名の来館があった。
- 文化芸術の輪を広げるプラットフォームの検討に向け、区の主な文化芸術事業の実施状況、音楽や演劇等の分野、対象年齢層などのデータを一覧表やグラフで視覚的に確認できるように整理した。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

- 東京藝術大学や文化芸術団体などとの連携により、「人と人」「人と場」「人と情報」がゆるやかにつながることで、今まで区内で開催されていない文化芸術事業などを展開する。
- 文化芸術事業の実施状況を分析し、区の強み弱みなどの濃淡を洗い出すことでプラットフォーム形成に向けた基本データとする。

【中長期の取り組み】

- 生涯学習振興公社による「アートリンクカフェ」など既存のプラットフォーム等の活用により、文化芸術に関わる人々の連携や交流を進めることで、新たな文化芸術を区民に提供する機会を創出する。

＜助言の反映状況＞助言の反映有無、その理由

- 「交流会に向けた情報収集、分析」への助言に対しては、区の主な文化芸術事業の実施状況、音楽や演劇等の分野、対象年齢層などのデータを整理し、一覧表やグラフで視覚的に確認できるようにした。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
3	3	3	3

4　庁内検討委員会による評価（２次評価）

(1)　「現在の達成状況」への評価
- R3年度に引き続きコロナ禍の影響で活動が制限され、交流の機会が失われてしまったことは大変残念である。
- プラットフォームの役割の変化に対応するための事業の取りまとめについては、膨大な事業数を集計し、分析に取り組めるまで作業を行ったことは評価できる。

(2)　「今後の方向性」への評価
- 文化芸術を楽しんでいる人々が増えることで、さらに文化芸術が推進することを期待する。
- 今後は、人々が「つながる」場の提供に期待する。
- 主な文化事業を分析し、その結果をもってプラットフォームの目的を明確化することで、区内の文化芸術活動が活性化することに期待する。

(3)　「助言の反映状況」への評価
- 「交流会に向けた情報収集、分析」への反映については、区の主な文化芸術事業の実施状況などの様々なデータを一覧表やグラフでわかりやすく可視化したことは評価できる。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
3	3	2	3

5　推進委員会による評価（令和４年８月記載）

(1)　「現在の達成状況」への評価
ア　新たな試みを実施した「音まち千住の縁」「仲町の家」と「郷土博物館」を評価できる。
イ　コロナの影響も大きいと思うが、成果指標の達成度が低いことが残念である。さらに有効な代替手段の考案ができたのではないか。
ウ　交流会およびプラットフォームの検討に向けたデータのとりまとめができたのは評価できるが、分析を進めそれを活用したメッセージ出しまでやり遂げてほしい。

(2)　「今後の方向性」への評価
ア　取り組みの数自体は少なくないものの、明確な方向性が欲しい。どのような連携や協働が必要になるのか、区がリーダーシップをもって推進してほしい。
イ　持続化可能な文化、芸術を根付かせる意味でも、文化事業から文化産業につながる施策に期待する。交流会でも「文化と地元企業などのコラボレーション」などがあると良い。

(3)　「助言の反映状況」への評価
ア　膨大なデータの整理、視覚化が評価できる。
イ　区主催の文化事業だけでなく、区民の文化活動を掌握することが必要ではないか。
ウ　データを元にした具体的な施策の展開を期待する。
エ　リアルとオンライン交流会で新たなつながりができることを期待する。

6　推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「５　推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和５年２月記載）

(1)　「現在の達成状況」への評価に対する区の考え方
［イについて（成果指標①②③）］
コロナ禍の影響により連携事業や交流の機会が中止になり、影響が大きかった。今後、デジタルを活用した交流会の開催など代替手段の構築を検討していく。

(2)　「今後の方向性」への評価に対する考え方
［アについて（成果指標③）］
3計画アンケート調査および過年度実施した事業分析の結果を踏まえ、どのような協働や協創が必要となるのか区がリーダーシップを発揮して具体的な取り組みや独自の施策を検討していく。
［イについて（成果指標①）］
「アートリンクカフェ」では、アーティスト、文化施設の経営者、地元企業等が参加し、事業連携につながった事例もある。今後は、他自治体の情報を収集し、さらなる見直しを図っていく。

(3)　「助言の反映状況」への評価に対する区の考え方
［イについて（成果指標①）］
千住を中心に事業発展している「音まちあだち」や民間文化芸術施設での個性を活かしたコンサートなど様々なパフォーマンスが展開されている。こうした様々な主体の文化活動を可能な限り情報収集し、様々な機会を通じて発信していく。
［エについて（成果指標①）］
交流会においては、アフターコロナを念頭に置き、オンライン開催も含めて検討する。

読書部会の評価総括

1　対象施策

施策 1-1 乳幼児が本に親しむ機会の充実 …6 事業
施策 1-2 子どもの読書習慣が身に付く活動の推進 …7 事業
施策 1-3 本に親しみ、学ぶための学校図書館の充実と活用 …5 事業
施策 1-4 子どもや保護者に読書の楽しさや大切さを伝える啓発活動と情報発信 …12 事業
施策 2-1 区立図書館資料の充実と活用 …3 事業
施策 2-2 障がいや言語などにかかわらず読書に親しめる図書資料などの整備 …5 事業
施策 2-3 区立図書館などの空間、サービス、情報発信の充実 …8 事業
施策 3-1 読書活動にかかわる人材の育成と団体の支援 …7 事業
施策 3-2 読書活動推進のための多様な連携と協創の推進 …3 事業

2　令和４年度読書部会からの評価

計画の改定に向けて、本部会では「新しい生活様式やデジタル化の進展などの変化への対応」「読書に関心がない層の人々に対するアプローチ」を掲げ検討してきた。その中で挙がった論点を中心に評価を総括する。

（１）新しい生活様式やデジタル化の進展などの変化に対応した読書支援活動

近年のデジタル化の進展は、コロナ禍ともあいまって人々の行動様式・生活様式を大きく変えてきた。読書活動についても、単に媒体がデジタルに変わってきたというだけではなく、電子書籍を含む種々の情報媒体の出現、読み方の変化、読書環境・読書を行う場所の多様化など広い範囲に影響を与えてきている。情操教育、情報収集など、読書活動自体についても図書や雑誌が中心であった状況はウェブ環境、検索エンジン、動画配信サイトなども含めた幅広い検討が必要となってきている。読書活動の拠点となる学校および公共図書館についても、多様な変化を見据えた幅広い活動が重要となっており、これらへの対応が求められる。既に今までの活動の中で、電子書籍の導入などデジタル化等に対する対応が進められてきていることは評価できるが、今後、より速度をあげる形で対応を進めてほしい。

ア　紙資料だけにとどまらないデジタル資料の導入を進めてほしい。ただし、紙資料の重要性にも留意し、紙資料とデジタル資料のバランスに配慮することも求められる。

イ　デジタル資料を中心とした電子図書館の特性を生かした新たな活動の展開※1を期待する。電子図書館の運営に際しては、従来の図書館の単なる拡張ととらえず、ターゲットを設定したサービス展開※1も求められる。

ウ　デジタル資料は障がい者に対する高度なサービス展開にも応用することが期待できる。情報技術の発展に常に目配りした情報提供体制の構築を急いでほしい。

※1　読書部会において、「子どもへの直接の働きかけや学校との連携について検討してほしい」との意見があったことを受け、イにおいては「新たな活動の展開」「ターゲットを設定したサービス展開」と記述している。

《評価に対する区の考え方》

出版市場における電子書籍の比率の拡大や、電子書籍サービスを導入する自治体の増など、読書分野におけるデジタル化は着実に進展しつつある。この変化に合わせ、電子書籍については、「いつでも」「どこでも」「気軽に」読書を楽しめる非来館型サービスとして、引き続き今後のサービスのあり方を検討していく。

ア　「あだち電子図書館」の電子書籍については、計画的に購入を進め、令和８年度までに８，０００タイトルの蔵書を目指していくこととしているが、紙資料とのバランスや電子書籍の普及状況に留意しながら、必要に応じて目標数値の見直しを図っていく。

イ　令和４年度に全区立中学生を対象に、登録手続きをせずに「あだち電子図書館」が利用できる「電子図書館体験キャンペーン」を実施する。また、小学生についても、比較的需要が見込まれる高学年を優先して、同キャンペーンの拡大を検討していく。

ウ　「あだち電子図書館」の蔵書には、文字の拡大や読み上げ機能により音声での利用が可能な電子書籍もラインナップしている。また、常に電子書籍の最新の情報に注目するとともに、障がい者および障がい者団体へのＰＲを強化していく。

（２）図書館を利用しない人、読書に関心がない人への効果的なアプローチ

近年の読書世論調査でも読書をしない人の割合が増加しており、また子どもたちについても中学生以上の読書率は急激に低下することが知られている。この背景には動画配信サイトやソーシャルネットワークなど多様化する情報源の存在もあげることができよう。その一方で、多くの人々が読書の重要性を認識していることも確かである。図書(電子書籍も含む)などを単に陳列するだけではなく、より積極的な読書の面白さ、有効性に関する周知・広報が求められる。

ア　図書館において、読書や図書資料への関心を高めるための選書や展示方法の工夫が望まれる。

イ　デジタル化をはじめとした新しい技術の利用も積極的に進めることが望ましい。図書館内などでの検討だけではなく、アイディアソン・ハッカソン※2なども活用して外部のアイディアを取り込むことも有効であろう。

《評価に対する区の考え方》

区のアンケート調査でも、過去１か月以内に本を読まなかった人の割合が微増した。また、小学生と中学生の不読率の差も、依然として大きく開いたままとなっている。

蔵書や利用環境を整えるだけでなく、新しい資料と出会い、学びや知識が広がるきっかけとなる取り組みを積極的に進めるとともに、広報活動を工夫し、これまで区立図書館をあまり利用しなかった区民に利用を促すことが重要である。

ア　選書の方針について、新たに学識をはじめとする専門家などの第三者の意見を取り

※2 アイディアソンとは、アイディアとマラソンをかけ合わせた造語で、新たなアイディアの創出を目的とした短期間で実施するプログラムのこと。ハッカソンとは、ハックとマラソンをかけ合わせた造語で、アイディアと技術を組み合わせた開発を短期間で実施するイベント形式のプログラムのこと。

入れる仕組みを構築する。また、展示については、テーマ別の棚づくりなど他自治体の好事例も取り入れながら、利用者の興味を引くための工夫を凝らしていく。

また、それらの書籍や展示を効果的に発信していくことも重要であるため、区のホームページやＳＮＳ、中央図書館で発行している情報紙による周知・広報の強化を図っていく。

イ　デジタル化をはじめとした新技術の利用については、選書や展示と同様に、まずは学識等の意見や先進事例の情報を収集していく。アイディアソン・ハッカソンについては、実際の事例を参考のうえ、可否も含めて検討していく。

（３）図書館と他の組織との連携の充実

ここ数年の図書館活動においても他の施設との連携など多様な方法がとられてきたことは高く評価できる。今後より積極的な活動の展開を期待する。

ア　図書館と他の施設との多様な形での連携を期待する。場合によっては、図書館や図書館サービス、図書資料自体を切り口としないアプローチ、対面とオンラインのハイブリッドなど多様な展開を期待する。

イ　ただし、長期間にわたる継続的な活動を持続することが重要であることを意識し、省力化などに配慮することも意識する必要がある。

《評価に対する区の考え方》

文化・読書・スポーツ分野計画の策定と同時にスタートした３分野連携事業（「ちょいスポ」「ちょいカル」「ちょい読み」）は、足立区独自の強みとして、引き続き３分野をはじめ様々な分野との連携を図り、図書館や読書を切り口としないアプローチとして注力していく。

ア　他の施設との連携については、複合施設内の地域学習センター、地域体育館にとどまらず、生物園や総合スポーツセンターなどの単独施設との連携の可能性も視野に入れ、オンラインも含めて多様な形で進めていく。また、連携するジャンルについても、文化芸術、運動・スポーツの３分野を中心に、健康、環境、防災など、様々な分野との関わりを検討していく。

イ　多様な活動を継続的に展開していくためには、協働・協創の理念に基づき、区のみならず様々な主体が事業に関わっていくことが重要である。

今後、イベントやアウトリーチ事業における民間施設や出版社との連携や、活躍の場の創出も含めたボランティアの活用について、他自治体の事例も参考にしながら検討していく。

（４）子どもとその保護者が身近な場所で本に親しめる機会の提供

子どもたちの読書活動には、保護者を含めた子どもをとりまく周囲の人々の読書活動が大きく影響しており、単に子どもたちだけではなく大人に対しても働きかけることが重要であると考えられる。また、子どもたちの生活時間の大きな割合を占める学校での

活動も大きな影響があることは当然であろう。子どもたちの読書に関する検討の中で、「学校での活動」と「周囲の大人も巻き込んだ活動」が特に重要と考えられる。

ア　学校での読書活動の中核を担う学校図書館の活動は非常に重要であり、学校図書館司書教諭および学校図書館支援員も含めた積極的な活動が望まれる。足立区内の現在の活動においても、学校図書館支援員を中心とした活発な活動の事例などは見られるが、現状では地域による偏りなども見られる。効果的な活動が行えている学校図書館の事例を積極的に公開するなど、区内全域に広げていく工夫がより求められる。

イ　学校図書館の利用促進、読書活動の活性化には、教員の熱意や経験が大きな影響を与えることは言うまでもない。多忙な教員をサポートする体制を充実させ、教員が読書活動に対しても目配りできる環境を整備することが必要である。

ウ　学校図書館の活動に対して子どもたちが、より興味を持つ工夫が求められる。電子資料の導入、電子図書館の普及、多様な連携サービスの検討など、従来は行われていなかった活動も含めた多様な方策の検討が望まれる。

エ　学校図書館だけではく、保育施設との連携も重要である。保育施設の職員に対しての図書館の多様な活動の紹介などにも注力すべきと考える。

《評価に対する区の考え方》

ア　教員と学校図書館支援員が一体となって学校図書館運営を推進するよう、巡回指導や外部有識者による研修等を通して活用意識の向上を図る。あわせて、学校図書館における効果的な取り組みを共有するなど、好事例の横展開を図っていく。

イ　一般教員との関わり方も含めた司書教諭の役割について、研修等を通して共通認識を図るとともに、専門知識を有する「学校図書館スーパーバイザー」の配置等により司書教諭を中心とした教員の支援の手法について検討する。

ウ　電子図書や電子資料等の活用を含めた「紙とデジタル」を融合した学校図書館活動のあり方について、区立図書館とも連携しながら検討していく。

エ　「はじめてえほん」「あかちゃんタイム」など、乳幼児世帯を対象とした施策について、所管課と連携し、園長会等の機会を捉えて積極的に情報発信を強化していく。

（５）指標に関すること

読書と関わる活動として、他の施設との連携など対面のイベントを中心とした活動が計画されていたことがあり、参加者数などをもとにした指標はコロナ禍での新しい行動様式の変化には十分に対応できていない側面もある。デジタル化の進展とウイズコロナの状況を迎えて指標の再検討も求められる。

また、読書活動の指標は図書館に来館した人を中心とした指標ではなく、図書館を利用しない人に対する働きかけが重要な意味を持つことがある。このような非来館者に対する活動も評価する指標も改めて検討を深める必要がある。さらに、ある程度読書支援活動が進んできた段階では、読書をしたかどうかという量的な側面だけではなく、読書によって人々にどのような影響がもたらされたのかというインパクトやアウトカム（短期的・長期的成果）を把握することも必要となろう。

《評価に対する区の考え方》

対面での実施が必要なイベントについては、コロナ禍の影響を踏まえ、計画の中間見直しに合わせて、指標の目標値を適宜修正していく。

読書の短期的・長期的成果を測定する指標については、国・都の指標などを参考の上、調査方法や設定の可否を検討していく。

読書活動推進計画　施策評価シート（令和３年度実施事業分）

施策の柱	１	子どもの読書習慣につながる機会の充実
施策名	１－１	乳幼児が本に親しむ機会の充実
担当部・課		地域のちから推進部 中央図書館
担当部：１～３、６を記入　　庁内検討委員会：４を記入　　推進委員会：５を記入		

１　施策の方向性

乳幼児期に本に親しむことは言葉を覚えるだけでなく、将来の読書習慣の基礎となる。加えて、本を通じて親子がふれあうことで、子どもの愛着形成等にもつながる。

区立図書館や保育園等で、乳幼児が本に親しむ取り組みを行うとともに、子育て支援事業や乳幼児健診の機会を捉え、乳幼児が本に触れる機会を作っていく。

２　成果指標　　※R7は目標値

指標名①	親子での読み語りの割合								
指標の定義	３歳児健診時に実施するあだちはじめてえほんアンケートで、「親子で一緒に本を読んでいる」と回答した方の割合								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	86.9%	実績値	86.9%	91.1%	91.5%				(97.0%)
目標値（R7）	97.0%	達成率	89.6%	93.9%	94.3%				

指標名②	１か月間に本を読んだ就学前児童の割合								
指標の定義	４～５歳児を対象とした、生活・ベジタベアンケートで、「本を一人で見たり読んだりする」と回答した方の割合								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	83.9%	実績値	83.9%	77.1%	77.2%				(88.0%)
目標値（R7）	88.0%	達成率	95.3%	87.6%	87.7%				

指標名③									
指標の定義									
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）		実績値							
目標値（R7）		達成率							

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	3	2	1	1	0	0	7
%	43%	29%	14%	14%	0%	0%	100%

３　担当部における評価

＜現在の達成状況＞R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①実績値（91.1%→91.5%）、指標②実績値（77.1%→77.2%）ともにR2年度とほぼ横ばいで、R7年度の目標値（97.0%、88.0%）を下回った。

【要因分析】

- 指標①については、図書館館内でのおはなし会を再開したことや「あだち電子図書館」の運用開始によって、気軽に絵本を楽しめる環境を提供したことが要因であると考えられる。
- 指標②については、各保育・教育施設で感染症対策を講じながら毎日のように読み聞かせをしていることや、年齢に合った本などの紹介を適時進めていること、園での本の貸出を再開し始めたことなど地道な活動の積み重ねが、本を身近に感じ、手に取る要因となっていると考える。

【新しい生活様式への対応やその他実績等】

- 「あだち電子図書館」によって、来館しなくても絵本に親しむことができるサービスを提供。4,206人が登録し、13,680冊の貸出につながった。
- 3～4か月児健診中止に伴い、絵本を受け取れなかった方には、代替措置として区立図書館での配付やオンライン申請によって受付し、郵送により配付している（R4年3月からR4年8月まで実施予定）。
- 感染症対策を講じながら、集団を作らず読み聞かせをしたり、園での本の貸し出しを実施した。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

- 感染症対策を講じながら、おはなし会やイベントを実施し、親子で本に親しめる環境を提供していく。
- 「あだちはじめてえほん」事業（3～4か月児）において、健診対象者に絵本の配付とあわせて、仮登録した貸出カード（約4,000枚）もあわせて配付し、図書館への来館を促していく。
- 「あだち電子図書館」の利用を促すため、「あだちはじめてえほん」事業（3～4か月児）においてＰＲチラシを配布するなど、ＰＲを強化していく。

【中長期の取り組み】

- 大人の読書への関心が子どもの読書習慣に影響を与えることから、大人に対しての読み聞かせの機会を作ったり、読み語りの大切さを伝えたりすることで、子どもの読書習慣形成につなげていく。
- 子育て施設や保健センターなど、図書館以外の身近な場所でも本に親しめる機会を提供できるよう、庁内の連携に取り組んでいく。

＜助言の反映状況＞助言の反映有無、その理由

- 「デジタル時代に対応した読書支援活動」に関する助言に対しては、「あだち電子図書館」にて、子育て世代をターゲットに、子どもとその周囲の大人が楽しめるよう、電子書籍の充実を図っている。
- 「保護者への働きかけ」「大人に対する読書支援」に関する助言に対して、「あだちはじめてえほん」事業の中で、新たに仮登録した貸出カードの配付や「あだち電子図書館」のＰＲを開始した。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	3	4	4

4　庁内検討委員会による評価（２次評価）

(1)「現在の達成状況」への評価
- 紙の絵本だけではなく、電子書籍を活用して、図書館に来館しなくても本に親しむサービスを提供していることは、子育てで時間のない親子が気軽に本を親しめる手法であり、評価できる。
- コロナ禍の影響による制限がある中で、各教育・保育施設が工夫し、子どもに本に触れる楽しさを伝える機会を作ることができたことは評価できる。

(2)「今後の方向性」への評価
- 電子書籍の活用などのデジタル技術を活用した読書活動支援などを子育て世代の状況を踏まえて提供していくことを期待する。
- コロナ禍の状況に応じた工夫をしながら、乳幼児の読書習慣形成のため、取り組みを継続していってほしい。
- 図書館だけではなく、身近な場所で本に親しむことができることは、子どもが本を楽しむきっかけづくりにつながるため、今後どのように増やしていくのか検討してほしい。

(3)「助言の反映状況」への評価
- 「あだちはじめてえほん」事業を子育て世代と接する機会と捉え、「あだち電子図書館」のＰＲや仮登録した貸出カードを配付していることは、子どもの頃から本に親しむきっかけとなるため評価できる。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	4	3	4

5　推進委員会による評価（令和４年８月記載）

(1)「現在の達成状況」への評価
ア　電子図書館の運用やオンライン申請を開始するなど、新しい生活様式に対応するべく工夫している姿勢は評価できる。
イ　感染対策を講じながらの読み聞かせ会など苦労もあったと思う。これまでと違う環境下で、目標数値に届かないまでも、成果指標が横ばいで推移していることは評価できる。
ウ　各教育・保育施設では、子どもだけでなく保護者にも絵本の楽しさを知ってもらうための取り組みを行い、成果につながっている。保育園での貸出しは、コロナ禍で図書館が閉鎖となった場合にも本を手に取れる取り組みとして有効である。

(2)「今後の方向性」への評価
ア　電子書籍、「あだちはじめてえほん」事業の普及、図書館以外で本に親しむ機会をつくっていくことなど、方向性は評価できる。
イ　忙しい子育て世代に向けて、電子図書館への誘導と電子書籍のさらなる充実が求められる。「はじめてえほん」を電子書籍で提供するなど、利用者増のための取組を検討してほしい。
ウ　保護者へのアプローチには、もう少し工夫を期待したい。

(3)「助言の反映状況」への評価
ア　子ども達に読書習慣を持ってもらうには、大人の読書への関心が必要である、という仮説に基づく取り組みは評価できる。今後は、本を読む意義について、保護者へのさらなる啓発を期待する。
イ　デジタルを活用し、より多くの区民に本とのタッチポイントをつくってほしい。

6　推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「５　推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和５年２月記載）

(1)「現在の達成状況」への評価に対する区の考え方
(2)「今後の方向性」への評価に対する区の考え方
［イについて（成果指標②）］
現時点では「あだちはじめてえほん」事業で配付する絵本（計9タイトル）は「あだち電子図書館」で使用するシスム上では電子書籍として提供されていないため、電子書籍化され次第購入し、紙の本と電子書籍をどちらでも楽しめるよう検討していく。
［ウについて（成果指標①）］
大人の読書への関心が重要であることをＰＲするだけではなく、大人も本を楽しめる事業の展開を検討する。
(3)「助言の反映状況」への評価に対する区の考え方
［アについて（成果指標①）］
保護者には、単に本の内容や本の楽しさだけではなく、「言葉を学ぶ」「知識を深める」「自らの考えを深める」など読書の意義や効果も含めて啓発していく。
［イについて（成果指標①②）］
ＩＣタグの活用により、複合施設内の図書館以外の場所での図書展示をさらに展開し、普段図書館を利用しない方でも本を手に取りやすい環境を整備していく。

読書活動推進計画　施策評価シート（令和３年度実施事業分）

施策の柱	１	子どもの読書習慣につながる機会の充実
施策名	１－２	子どもの読書習慣が身に付く活動の推進
担当部・課		地域のちから推進部　中央図書館
担当部：１～３、６を記入　　庁内検討委員会：４を記入　　推進委員会：５を記入		

１　施策の方向性

子どもの頃からの読書経験は習慣として将来に引き継がれる。幼児期から言葉の発達や関心の広がりに応じて読書を楽しむことで、読書習慣を身につける機会を作っていく。

そのために区立図書館や幼稚園、保育園、こども園、小中学校、児童館などの子育て施設で、おはなし会や朝読などの読書活動を推進する。また、図書館の利用を通じて将来にわたる読書機会の提供に努める。

２　成果指標　　※R7は目標値

指標名①	１か月間に本を読まなかった児童の割合【逓減目標】								
指標の定義	１か月間に本を読まなかった小学校５年生の割合								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	23.7%	実績値	23.7%	未実施	24.2%				(23.0%)
目標値（R7）	23.0%	達成率	97.0%	－	95.0%				

指標名②	１か月間に本を読まなかった生徒の割合								
指標の定義	１か月間に本を読まなかった中学校２年生の割合【逓減目標】								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	39.5%	実績値	39.5%	未実施	38.7%				(39.0%)
目標値（R7）	39.0%	達成率	98.7%	－	100.8%				

指標名③	児童書の貸出冊数								
指標の定義	区立図書館における、児童書の貸出冊数								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	1,187,936冊	実績値	1,187,936冊	873,624冊	1,227,774冊				(1,280,000冊)
目標値（R7）	1,280,000冊	達成率	92.8%	68.3%	95.9%				

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	2	1	3	1	0	0	7
%	29%	14%	43%	14%	0%	0%	100%

３　担当部における評価

＜現在の達成状況＞R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①実績値（23.7%→24.2%）はH30年度とほぼ横ばいで、R7年度の目標値（23.0%）を下回った。

指標②実績値（39.5%→38.7%）はH30年度とほぼ横ばいだが、R7年度の目標値（39.0%）を上回った。

指標③実績値（873,624冊→1,227,774冊）はR2年度を大きく上回ったが、R7年度の目標値（1,280,000冊）は下回った。

※　指標①、②は逓減目標。

【要因分析】

・　指標③については、R3年度はコロナ禍の影響による臨時休館等がなかったこと、また、「あだちはじめてえほん事業」など、乳幼児期からの読書習慣の定着に向けた取り組みの成果があらわれ始めていることが要因であると考えられる。

【新しい生活様式への対応やその他実績等】

・　出張おはなし会（275回・4,992人参加）や読み語り講座（4回･84人参加）などは、コロナ対策を講じながら開催し、前年度実績を上回った。

・　「あだち電子図書館」のサービスを開始し、ターゲットを「子ども」「子育て世代」に絞り、絵本や図鑑などを積極的に導入するなど、いつでも、どこでも読書に触れられる環境を整備した（4,206人登録、13,680冊貸出）。

・　校長会にて小学生への「あだち読書通帳」のＰＲを行った結果、19,986冊の配布につながり、R2年度の配布実績（5,400冊）を大幅に上回った。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

・　子どもの読書習慣の定着を図るため、「あだちはじめてえほん」事業、おはなし会、出張おはなし会等については、引き続き感染症対策に留意しながら実施していく。また、電子書籍についても蔵書を計画的に拡大し、利用者の利便性の向上に努めていく。

【中長期の取り組み】

・　図書館だけでなく子育て施設や学校と連携し、年齢に応じた本の紹介やおはなし会を行い、読書習慣の定着へとつなげていく。

＜助言の反映状況＞助言の反映有無、その理由

※　令和3年度に委員会の助言を受けていない施策（重点項目外の施策）は、令和4年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて評価を受けるため、空欄となります。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	3	4	―

4　庁内検討委員会による評価（２次評価）

(1)　「現在の達成状況」への評価

・　コロナ禍の影響によりイベントの中止が相次ぎ、R3年度も子どもが直接本に触れにくい環境だった。そのような中でも、「あだちはじめてえほん事業」における本の郵送や、「あだち電子図書館」の運用開始などにより、本に触れる機会を提供する工夫を行ったことは評価できる。

(2)　「今後の方向性」への評価

・　図書館だけでなく、保育園や児童館などの子育て施設や学校と連携し、子どもへ働きかけを行っていくことは、子どもにとって本が身近なものとなるきっかけとなり、評価できる。

・　子育て世代に直接本を届ける「あだちはじめてえほん」事業や、コロナ禍においても本を楽しめる「あだち電子図書館」の拡充など、様々な角度からアプローチしていることも評価できる。

(3)　「助言の反映状況」への評価

※　令和3年度に委員会の助言を受けていない施策（重点項目外の施策）は、令和4年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて評価を受けるため、空欄となります。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	3	4	―

5　推進委員会による評価（令和４年８月記載）

(1)　「現在の達成状況」への評価

ア　コロナ禍で活動自体が困難な中でも、できることを探して取り組み、目標が概ね達成できたことは評価できる。幼少期から本に接する環境づくりに取り組んできた成果の現れではないか。

イ　図書館に行けない親子が身近なところで本を借りられる場の拡充に期待する。

ウ　読書通帳の配布実績が読書習慣にどう結びついているかの分析をしてほしい。

エ　子どもの電子図書館活用については、今後の課題である。

(2)　「今後の方向性」への評価

ア　対面や人が集まる活動は、感染防止に努めながら再開してほしい。一方、Ｗｅｂ等を使って興味を引くおはなし会の実施や電子図書館など、デジタル化の推進も期待する。

イ　おはなし会のような一方通行の読書会だけでなく、読書にまつわる対話会など、双方向の啓発にも努めてほしい。

ウ　図書館だけではなく、子育て施設や学校との連携が打ち出されている。様々なアプローチで読書習慣を身に付ける仕掛けが必要である。

(3)　「助言の反映状況」への評価

※　令和3年度に委員会の助言を受けていない施策（重点項目外の施策）は、令和4年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて評価を受けるため、空欄となります。

6　推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「５　推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和５年２月記載）

(1)　「現在の達成状況」への評価に対する区の考え方

［イについて（成果指標①②）］

「読む団地」や綾瀬小学校地域開放型図書室と連携した読書の場を親子に提供している。今後も商業施設でのイベントを実施するなど、より多くの身近に本に親しめる場を提供していく。

［ウについて（成果指標①）］

読書通帳がどのように配布先（学校、子育てサロン等）で活用され読書機会の提供につながっているかを分析するとともに、効果的な活用事例を配布先と共有し、さらなる活用につなげていく。

［エについて（成果指標②）］

令和3年7月に開始した「あだち電子図書館」は、全登録者数に対して小中学生の登録者は1割未満に留まっていたため、令和4年11月から全区立中学生約13,700人に対して体験用ＩＤを配付する「中学生体験キャンペーン」を開始し、令和5年1月末時点で1,148冊の貸出につながった。今後も、登録者数の増加に向けて取り組んでいく。

(2)　「今後の方向性」への評価に対する区の考え方

［アについて（成果指標③）］

感染症法上の分類の見直しに合わせて、「あだちはじめてえほん事業」での読み語り事業などを再開していく。デジタル化については、電子図書館のほか、貸出カードの電子化など利便性の向上に向けた取り組みを検討していく。

［イについて（成果指標①②）］

「あだちはじめてえほん」事業では、本の使われ方や感想など区民の反応をアンケートで把握しており、本の選び方がわからない保護者のために、その結果をホームページ等で周知していく。また、イベントにおいても、読書対話会など、区民の反応を確認しながら実施する手法を研究していく。

［ウについて（成果指標①③）］

学校への団体貸出、調べ学習用図書の配送などで、学校などと連携し、年齢に応じたおすすめ本の紹介や出張おはなし会の実施など、本に親しむ機会を充実させていく。

読書活動推進計画　施策評価シート（令和３年度実施事業分）

施策の柱	１	子どもの読書習慣につながる機会の充実
施策名	１－３	本に親しみ、学ぶための学校図書館の充実と活用
担当部・課		地域のちから推進部 中央図書館
担当部：１～３、６を記入　　庁内検討委員会：４を記入　　推進委員会：５を記入		

１　施策の方向性

学校図書館は、読書活動や読書指導の場である「読書センター」としての機能、学習活動の支援や、授業の内容を豊かにしてその理解を深める「学習センター」としての機能、情報の収集・選択・活用能力を育成する「情報センター」としての機能を有する。

また、今後の学校図書館には、様々な場面での利活用を通じて、「主体的・対話的で、深い学びの実現」や「言語能力や情報活用能力、問題解決能力等の育成」を支える役割が期待される。

２　成果指標　　※R7は目標値

指標名①	小学生一人当たりの本の年間貸出数								
指標の定義	学校図書館での小学生一人当たりの本の年間貸出数								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	30冊	実績値	30冊	40冊	41冊				(36冊)
目標値（R7）	36冊	達成率	83.3%	111.1%	112.8%				

指標名②	中学生の学校図書館の利用割合								
指標の定義	1か月の間に学校図書館を利用している生徒の割合 （重複あり　延べ利用者数÷生徒数）								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	141.0%	実績値	141.0%	106.1%	85.7%				(170.0%)
目標値（R7）	170.0%	達成率	82.9%	62.4%	50.4%				

指標名③									
指標の定義									
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）		実績値							
目標値（R7）		達成率							

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	5	0	0	0	0	0	5
%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	100%

３　担当部における評価

＜現在の達成状況＞R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①実績値（40冊→41冊）はR2年度とほぼ横ばいで、R7年度の目標値（36冊）を上回った。

指標②実績値（106.1%→85.7%）は減少し、R7年度の目標値（170.0%）を下回った。

【要因分析】

- 指標①については、コロナ禍の影響により学校図書館の利用制限が引き続き実施される状況であったが、学校図書館支援員の派遣事業が2年目を迎えたことにより、支援員と教員とが一層の連携を図り、工夫をしながら読書活動推進に向けた取り組みを進めることで、微増ではあるが貸出冊数をさらに伸ばすことが出来たと考えられる。
- 指標②については、コロナ禍の影響により、授業時や休み時間の利用を制限している学校も多く、R2年度に引き続き、学校図書館を利用する回数が減少している。また、臨時休業や短縮授業が続いたことから、学習内容の履修を最優先に教育活動を進めたことも図書館利用の減少につながった。

【新しい生活様式への対応やその他実績等】

- コロナ対策（3密の回避、導線確保や待機列表示、シールド設置等）を踏まえた学校図書館運営を行った。
- コロナ禍であっても子どもが本に触れる機会を確保できるよう、移動図書館、読書みくじ、本の福袋等、密を避けながら工夫を凝らした読書イベントを実施した。
- 教育指導課と連携し、教員向けに「図書館を使った調べる学習コンクール」の研修会を実施予定であったが、コロナ禍の影響により中止となった。代替措置として、学校図書館支援員の研修会や校長会を通して調べ学習用の図書配送をＰＲした。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

- 生徒が利用したくなる魅力的な学校図書館づくりを進めるため、研修や職員・指導主事の巡回による学校図書館支援員の資質向上に取り組む。あわせて、利活用の進んでいる学校の好事例を他校へ横展開をすることなどにより、学校間格差の平準化に努める。

【中長期の取り組み】

- ＰＤＣＡサイクルによる学校図書館運営の継続的な改善を図るため、各校が設定した目標及びそれに対する評価を適切に行っているかを検証し、学校図書館基本計画の効果的な活用を促していく。

＜助言の反映状況＞助言の反映有無、その理由

※　令和3年度に委員会の助言を受けていない施策（重点項目外の施策）は、令和4年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて評価を受けるため、空欄となります。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	4	4	―

4　庁内検討委員会による評価（２次評価）

(1)　「現在の達成状況」への評価

・　小学校については、コロナ禍でありながら、貸出冊数を伸ばすことが出来ており、支援員と教員が連携した学校図書館の活用が進んでいると評価できる。

・　中学校については、コロナ対策の影響はあると思われるが、学校間格差の平準化に向けて学校への啓発や図書館支援員の資質向上に向けた取り組みを進めてほしい。

(2)　「今後の方向性」への評価

・　学校図書館の活用が進んでいない学校を中心に、教育委員会との連携によるきめ細かい指導支援を重点的に行い、学校図書館の利活用の底上げに努めてほしい。

・　多くの児童・生徒が本に親しみ、「主体的・対話的で深い学び」を実現できるよう、さらなる支援体制の充実や環境整備を進めてほしい。

(3)　「助言の反映状況」への評価

※　令和3年度に委員会の助言を受けていない施策（重点項目外の施策）は、令和4年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて評価を受けるため、空欄となります。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	4	3	―

5　推進委員会による評価（令和４年８月記載）

(1)　「現在の達成状況」への評価

ア　コロナ禍の影響で図書館活動が制限されていたことを考慮すると、概ね目標値に近づいていることは評価できる。一方で、学校間格差の解決は急務である。

イ　小学校では、貸出冊数の目標は達成しているが、本を読む楽しさを伝える支援もしてほしい。

ウ　中学校では、小学校のように定期的に図書室を利用する機会が少ない。まずは、生徒全員が利用できる機会を設けて図書室の良さを体感してもらい、その中で、改善点を見つけてほしい。

エ　読書だけでなく、勉強もしやすい環境整備に期待したい。

(2)　「今後の方向性」への評価

ア　学校間格差をどのように埋めるかの課題認識は非常に重要であり、その点が今後の方向性に反映されていることは評価できる。その中で、学校独自の施策が増えてくることにも期待したい。

イ　「読書センター」「学習センター」「情報センター」の方向性は理解できる。今後、ＰＤＣＡサイクルを具体的にどう回していくか整理してほしい。

ウ　図書館支援員の資質向上についての具体策が求められる。支援員を活用できる体制づくりも進めてほしい。

エ　司書教諭がやるべきことの整理が必要ではないか。

(3)　「助言の反映状況」への評価

※　令和3年度に委員会の助言を受けていない施策（重点項目外の施策）は、令和4年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて評価を受けるため、空欄となります。

6　推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「５　推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和５年２月記載）

(1)　「現在の達成状況」への評価に対する区の考え方

［アについて（成果指標①②）］**※(2)アとも共通**

活用が進んでいる学校が独自に行っている好事例等の共有をさらに強化するため、これまで行ってきた研修での意見交換会に加え、定期連絡会の開催や情報共有ツールを活用するなどして、学校図書館利活用の格差の解消に取り組む。

［イについて（成果指標①）］

支援員配置の拡充を進めるとともに、「読書みくじ」や「本の福袋」などの図書館へ足を運びたくなるイベントをより多くの学校で実施し読書習慣の定着につなげていくことで、子どもたちが本に触れ新たな気付きを得る機会を増やし、読書の魅力を伝えていく。

［ウ、エについて（成果指標②）］

学校図書館の利用方法や本を読む楽しさを伝える機会を確保するため、図書館支援員が各クラスの生徒に説明するオリエンテーションを全校で実施するよう、支援員や学校へ働きかけていく。あわせて学校図書館の学習スペース利用等、活用の幅を広げる取組みについても、図書館支援員への活用事例の横展開や校長会への周知等により各校に広げていく。

(2)　「今後の方向性」への評価に対する区の考え方

［イについて（成果指標①②）］

各校が作成した学校図書館基本計画・評価シートを基にＰＤＣＡサイクルの進捗管理を行い、達成状況が低い学校に対する学校図書館スーパーバイザー等による巡回指導の回数を増やしていく。

［ウについて（成果指標②）］

図書館支援員への研修回数増や質の向上に加え、日々の業務に関する支援や助言を行う「学校図書館スーパーバイザー」を令和5年度から配置する。

［エについて（成果指標①②）］

「足立区学校図書館ガイドライン」に記載されている司書教諭の役割について、研修等を通して司書教諭への共通認識を図りそれが達成されているかを学校図書館スーパーバイザー等の巡回指導で確認し、学校長へも徹底する。

読書活動推進計画　施策評価シート（令和３年度実施事業分）

施策の柱	１	子どもの読書習慣につながる機会の充実
施策名	１－４	子どもや保護者に読書の楽しさや大切さを伝える啓発活動と情報発信
担当部・課		地域のちから推進部 中央図書館
担当部：１～３、６を記入　　庁内検討委員会：４を記入　　推進委員会：５を記入		

１　施策の方向性

区立図書館や幼稚園等の施設で、子どもに読書の楽しさを伝えるとともに、保護者にも自らが本を楽しむことや読書に関心を持つことが子どもの読書習慣に影響することを伝えていく。また、親子で読書に親しめるよう、成長や発達段階に応じた本や子育て期に読める本の紹介を進めていく。さらには出産前の保護者への情報提供など、場や機会、インターネットの活用など多様なチャンネルを通じた取り組みを工夫し進めていく。

２　成果指標　　※R7は目標値

指標名①	子どもの読書と保護者の読書の関連を知っている保護者の割合								
指標の定義	1歳6か月児及び3歳児健診に実施する、あだちはじめてえほんアンケートで「子どもの読書冊数が、母親など身近な大人の読書冊数と関係があることを知っている」方の割合								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	41.6%	実績値	41.6%	51.1%	51.7%				(80.0%)
目標値（R7）	80.0%	達成率	52.0%	63.9%	64.6%				

指標名②	親子で絵本を読む割合								
指標の定義	４～５歳児を対象とした、生活・ベジタベアンケートで、「親子で絵本を読む」と回答した方の割合								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	75.5%	実績値	75.5%	77.1%	79.6%				(80.0%)
目標値（R7）	80.0%	達成率	94.4%	96.4%	99.5%				

指標名③									
指標の定義									
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）		実績値							
目標値（R7）		達成率							

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	7	0	0	3	1	2	13
%	54%	0%	0%	23%	8%	15%	100%

３　担当部における評価

＜現在の達成状況＞R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①実績値（51.1%→51.7%）はR2年度とほぼ横ばいだが、R7年度の目標値（80.0%）は下回った。

指標②実績値（77.1%→79.6%）はR2年度を上回ったが、R7年度の目標値（80.0%）は下回った。

【要因分析】

- 指標①については、「あだちはじめてえほん」事業でのＰＲや、学校だより等で読書の大切さを保護者に伝える取り組みを行っているものの、本に興味のない保護者へ向けたＰＲが十分に進んでいないことが要因と考えられる。
- 指標②については、各教育・保育施設で発行しているクラスだよりや図書コーナーにおいて、おすすめの絵本や年齢に適した本を紹介することが、親子で読む絵本を選んだり楽しんだりするきっかけになっていることによるものと考えられる。

【新しい生活様式への対応やその他実績等】

- 区で作成した読み語り動画で紹介している絵本の一部を、あだちはじめてえほん事業（1歳6か月児）で配付する絵本に加え、連携した取り組みを行った。さらに、あだち子育てガイドブックに、読み語り動画のＱＲコードを掲載し、自宅からでも絵本に触れられる機会を提供した。
- 例年、子どもの読書週間に合わせて講演会を実施していたが、R3年度は、中央図書館と生物園が連携し、生き物と関連する本を楽しめるイベントを開催。今まで中央図書館を利用していなかった親子（64組中、21組）の参加につながった。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

- 乳幼児については、おはなし会の実施や親子で楽しめる本の紹介により、親子で読書に親しめる機会を増やしていく。
- 小学生については、読みやすい本を中心に本を紹介し、読書へのきっかけづくりを行う。

【中長期の取り組み】

- 本に興味のない保護者にも「身近な大人の読書冊数との関連性」が伝わるよう周知を強化していく。
- 子どもや保護者が本に関する情報を得やすいよう、図書館ホームページやＳＮＳによる情報発信に加え、小・中学生に配布されたタブレットなども活用して情報発信をしていく。
- コロナ対策を講じながら、地域の乳幼児や保護者に向けて、読み聞かせのポイントなどを含めた内容のおはなし会を再開していく。

＜助言の反映状況＞助言の反映有無、その理由

- 「保護者への働きかけや大人に対する読書支援を」との助言について、3分野連携事業の継続実施や複合施設内の図書館以外の場所での図書展示など、他分野との多様な連携により読書のきっかけづくりを行った。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	3	4	4

4　庁内検討委員会による評価（２次評価）

(1)「現在の達成状況」への評価
- 「身近な大人の読書冊数との関連性」を周知し、周りの大人が読書に関心を寄せることは、子どもの読書習慣の定着につながっていくため、さらなる周知を図ってほしい。

(2)「今後の方向性」への評価
- 保護者への働きかけが特に重要な施策であり、様々な広報媒体による情報発信やアウトリーチ事業などを通して、保護者へのアプローチに特に注力してほしい。
- 年齢や発達段階に応じた本を紹介するなど方法を工夫し、子どもや保護者の読書のきっかけ作りを充実させる取り組みを期待する。

(3)「助言の反映状況」への評価
- 既存の読書活動支援に加え、3分野連携事業や複合施設の活用による資料展示など、多様なアプローチにより本に親しむきっかけを提供することは、子どもやその周囲の大人が気軽に本に親しむきっかけとなる可能性があり、評価できる。
- 体育館での本の展示や、図書館でのスポーツグッズの展示など、分野を越えて区民の新たな関心を喚起する取り組みを実施してほしい。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	3	4	4

5　推進委員会による評価（令和４年８月記載）

(1)「現在の達成状況」への評価
ア　4～5歳児への取り組みの成果は上がっている。1歳児など幼稚園や保育園に通う前に、親子での読書時間や読み語りのさらなる取り組みが必要である。アプローチの工夫に期待したい。
イ　コロナ禍において、「あだちはじめてえほん」事業や動画配信などが、保護者の利用しやすいものとなっており、評価できる。
ウ　子どもの読書習慣と保護者の読書の関連性についての周知については、従来と別の角度からの検討もしてほしい。
エ　子どもの読書習慣につなげる前に、大人に対する読書への関心喚起も必要である。

(2)「今後の方向性」への評価
ア　時間に余裕のない子育て世代に対して、電子図書館のさらなる周知や推進が必要である。その中で蔵書数の検討も課題である。
イ　啓発活動の大切さは共有することができており評価できる。今後は、本を読まない人へのアプローチとして、対象者の仮説や分析を行い、誰に何を周知したいのかを固めていく必要がある。
ウ　これまでの枠組みの外に情報を届けるには何ができるかを検討してほしい。外部との連携を図った取り組みに期待する。

(3)「助言の反映状況」への評価
ア　体育館の本の展示だけでなく、オンラインを活用して本の読み語りをしていた図書ボランティアもいた。あらゆる場所でのオンラインの推進も良いのではないか。
イ　3分野連携における取り組みは評価できる。今後も継続・拡大を期待する。

6　推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「５　推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和５年２月記載）

(1)「現在の達成状況」への評価に対する区の考え方
［アについて（成果指標①）］
妊産婦への情報発信には保健センターとの連携が有効であるとのアンケート結果を踏まえ、綾瀬小学校地域開放型図書室のＰＲにあたって、令和4年11月から東部保健センターとの連携を開始した。この効果を分析していくとともに、他の事業においても同様に早期のアプローチを検討していく。
［ウ、エについて（成果指標②）］**※施策2-1の(2)ウとも共通**
3分野連携事業での読書のきっかけづくりとともに、読書に関心を持つようなＰＲを行っていく。

(2)「今後の方向性」への評価に対する区の考え方
［アについて（成果指標②）］
電子図書館については、引き続き様々な機会を捉えて周知に努める。蔵書数については、令和8年度末までに8,000冊を収集する目標を令和3年度に立てたが、目標策定時よりも登録者数が増加している（令和3年11月：3,027人→令和5年1月：5,279人）ことから、目標数値についてはあらためて検討していく。
［イ、ウについて（成果指標①）］**※施策3-1の(1)アとも共通**
子どもに対しては引き続き発達段階に応じた情報発信を進めていく。大人に対しては「本を読む人」「本を読まない人」「子どもに読ませたい人」など対象ごとにアプローチを変えていく。特に本を読まない人への働きかけはハードルが高いため、他自体の事例などを参考に、インパクトや意外性のある企画で本に興味や関心を持ってもらえるよう工夫していく。

(3)「助言の反映状況」への評価に対する区の考え方
［アについて（成果指標②）］**※施策2-3の(1)イとも共通**
オンラインの活用については、令和3年度に実施した生物園との連携イベントなどの実績も活かし、新たな事業を検討していく。

読書活動推進計画　施策評価シート（令和３年度実施事業分）

施策の柱	２	区民の読書に対する関心を高め支える環境の充実
施策名	２－１	区立図書館資料の充実と活用
担当部・課		地域のちから推進部　中央図書館
担当部：１～３、６を記入　　庁内検討委員会：４を記入　　推進委員会：５を記入		

１　施策の方向性

区民の多様な関心に応え、幅広い知識や考え方等に触れられるよう、区立図書館の資料を充実させる。
子どもに向けては児童資料や調べ学習のための資料などの充実を図っていく。
時事に合わせたテーマや地域課題の特集などを積極的に行い、区民の関心を高める工夫を行う。

２　成果指標　　※R7は目標値

指標名①	区民一人当たりの図書資料貸出数								
指標の定義	（算出式）　Ａ÷Ｂ Ａ　図書資料貸出数　　Ｂ　足立区の総人口								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	4.8冊	実績値	4.8冊	3.5冊	4.5冊				(6.0冊)
目標値（R7）	6.0冊	達成率	80.0%	58.3%	75.0%				

指標名②	展示コーナー（特集棚）の本の貸出率								
指標の定義	時事に合わせた課題や地域課題を特集した、展示コーナーの本の貸出率								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	新規	123.8%	145.0%				(85.0%)
目標値（R7）	85.0%	達成率	－	145.6%	170.6%				

指標名③									
指標の定義									
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）		実績値							
目標値（R7）		達成率							

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	3	0	0	0	0	0	3
%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	100%

３　担当部における評価

＜現在の達成状況＞R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】
指標①実績値（3.5冊→4.5冊）はR2年度を上回ったが、R7年度の目標値（6.0冊）は下回った。
指標②実績値（123.8%→145.0%）はR2年度を上回り、R7年度の目標値（85.0%）も大きく上回った。

【要因分析】
- 指標①については、コロナ対策を講じながら開館を継続したが、依然として来館を控える区民も多いことから、コロナ禍以前の水準（H30年度：4.8冊）には達していないと考えられる。
- 指標②については、庁内から特集展示のテーマを募集し、関連本の展示に加え、啓発物品やパネル展示などによりＰＲを強化したことが、関連本の貸出につながったと考えられる（展示回数のべ1,305回、展示冊数のべ41,987冊、貸出冊数のべ61,532冊）。

【新しい生活様式への対応やその他実績等】
- あだち電子図書館を開設し、非来館型のサービスの提供を開始した（4,206人登録、13,680冊貸出）。
- 図書館での展示だけではなく、身近な施設でも本に親しめるよう児童館への出張展示を開始。児童館10館から利用申込があり、573冊の貸出につながった。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】
- 綾瀬小学校図書室の地域開放事業の中で乳幼児や小学生向けの図書の出張展示を行うなど、図書館に来館しなくても本に親しめる機会を創出していく。
- 特集展示については、ホームページやＳＮＳによる庁外への発信だけでなく、庁内掲示板等の活用によるインナープロモーションにも取り組み、テーマの充実を図っていく。

【中長期の取り組み】
- 区民に読書や図書資料への関心を高めてもらうため、専門家の意見等も取り入れながら、選書や展示方法などについての調査・分析を進めていく。

＜助言の反映状況＞助言の反映有無、その理由

※　令和3年度に委員会の助言を受けていない施策（重点項目外の施策）は、令和4年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて評価を受けるため、空欄となります。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	4	4	―

4　庁内検討委員会による評価（２次評価）

(1)　「現在の達成状況」への評価

・　区民一人当たりの図書資料貸出数が増に転じたことは評価できるが、コロナ禍の影響があるとはいえ、依然として目標値を大きく下回っていることは残念である。
・　特集展示についての工夫を図り、特色を出したことで貸出が伸びたことは、区民の読書に対する関心を高めることにつながっており、評価できる。
・　非来館型サービスとしての電子書籍の提供は、区民の利便性向上につながるため、一層の充実を図ってほしい。

(2)　「今後の方向性」への評価

・　図書館以外の場所へのアウトリーチや行政サービス情報を切り口とした特集展示は、読書に関心がない人が本を手に取るきっかけとなることが期待でき、方向性は評価できる。いかに関心を引けるかがポイントとなるため、テーマ設定や展示の見せ方に工夫を図るとともに、評価や見直しを継続的に行ってほしい。
・　選書や展示方法については、先進事例等も参考の上、調査・分析を実施してほしい。

(3)　「助言の反映状況」への評価

※　令和3年度に委員会の助言を受けていない施策（重点項目外の施策）は、令和4年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて評価を受けるため、空欄となります。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
3	3	3	―

5　推進委員会による評価（令和４年８月記載）

(1)　「現在の達成状況」への評価

ア　貸出冊数の推移については、コロナ禍の影響を受けていることは明白である。その中で、展示などＰＲを強化したことが貸出冊数増につながった点は、大いに評価できる。テーマ性のある棚づくりが奏功したことがうかがえる。
イ　今後はさらに、その展示などが来館動機となるような仕掛けを検討してほしい。

(2)　「今後の方向性」への評価

ア　非来館型サービス、電子図書館の拡充、読書が楽しくなるようなテーマや展示方法のさらなる展開は、施策の実現につながる手法として期待できる。
イ　今後も庁内での連携を図りつつ、外部の力も取り入れた取り組みを期待したい。
ウ　施策1-4と同様に、情報をどのように届けるかが課題である。
エ　インターネットによる検索が主流の時代において、調べ学習資料の充実の意義を再確認すべきではないか。

(3)　「助言の反映状況」への評価

※　令和3年度に委員会の助言を受けていない施策（重点項目外の施策）は、令和4年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて評価を受けるため、空欄となります。

6　推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「５　推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和５年２月記載）

(1)　「現在の達成状況」への評価に対する区の考え方

［イについて（成果指標①②）］**※(2)イとも共通**

展示をはじめ、選書など図書館サービスのさらなる充実を図るため、新たに学識をはじめとする専門家などの第三者の意見を取り入れる仕組みを構築する。あわせて、他自治体の好事例も取り入れながら、利用者の興味を引くための工夫を凝らしていく。

(2)　「今後の方向性」への評価に対する区の考え方

［ウについて（成果指標①）］**※施策1-4の(1)ウ、エとも共通**

3分野連携事業での読書のきっかけづくりとともに、読書に関心を持つようなＰＲを行っていく。

［エについて（成果指標①）］

正確性や信憑性に優れている点や、得たい情報を体系的に得られる点など、本から情報を得ることの意義をＰＲしながら、インターネットによる検索も含めて子どもたちの情報活用能力を育成していく。なお「調べる学習コンクール」用図書セットについて、教員が望ましいとしているジャンルと実際に児童が利用したジャンルが異なっていたため、今後はアンケート結果等を参考に充実を図っていく。

読書活動推進計画　施策評価シート（令和３年度実施事業分）

施策の柱	２	区民の読書に対する関心を高め支える環境の充実
施策名	２－２	障がいや言語などにかかわらず読書に親しめる図書資料などの整備
担当部・課		地域のちから推進部 中央図書館
担当部：１～３、６を記入　　庁内検討委員会：４を記入　　推進委員会：５を記入		

１　施策の方向性

障がいのある方や高齢の方などの読書に対するニーズに対応して、資料整備やサービスの充実を図る。
外国語の本や大活字本などの充実とともに、障がいや高齢などの理由で区立図書館に足を運べない方を対象に、
図書資料の宅配サービスを拡充する。
さらに電子書籍の導入・活用も検討し、図書館にアクセスしにくい人々も本に親しめる環境を目指す。

２　成果指標　　※R7は目標値

指標名①	障がい者向け図書資料宅配サービスの冊数								
指標の定義	図書資料宅配サービスによる、貸出冊数								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	76冊	実績値	76冊	218冊	367冊				(160冊)
目標値（R7）	160冊	達成率	47.5%	136.3%	229.4%				

指標名②	種類別(大活字本、外国語図書など)の貸出冊数								
指標の定義	大活字本、外国語図書などの貸出冊数								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	22,443冊	実績値	22,443冊	20,023冊	22,241冊				(29,000冊)
目標値（R7）	29,000冊	達成率	77.4%	69.0%	76.7%				

指標名③									
指標の定義									
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）		実績値							
目標値（R7）		達成率							

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	7	0	1	0	0	1	9
%	78%	0%	11%	0%	0%	11%	100%

３　担当部における評価

＜現在の達成状況＞R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】
指標①実績値（218冊→367冊）はR2年度を上回り、R7年度の目標値（160冊）も大きく上回った。
指標②実績値（20,023冊→22,241冊）はR2年度を上回ったが、R7年度の目標値（29,000冊）は下回った。

【要因分析】
- 指標①については、読書量が多い利用者に対しての発送方法を見直した結果、R2年度よりも利用が大幅に伸びた（14人・81回・218冊　→　17人・114回・367冊）。
- 指標②については、種類ごとに新たな資料を購入しているが、出版数が限られている資料もあり、大幅な貸出増にはつながっていない。

【新しい生活様式への対応やその他実績等】
- 音声読書器の導入により、活字図書の読書が困難な方に対して読書の機会を提供する環境を整備した。
- 障がい者サービスの普及啓発の一環として、職場体験に訪れた小学生に対して、音声読書器の操作の実演などを行った。
- 「足立区地域自立支援協議会権利擁護部会」において、「あだち電子図書館」や図書館の障がい者サービスについてＰＲを行った。
- 中央図書館の子どもを対象にした読書週間のイベントにおいて、図書館バックヤードツアー内で障がい者サービスの紹介や、点字を使った名刺を作成するワークショップを開催した。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】
- 「あだち電子図書館」の音声読み上げ対応の電子書籍や、日本点字図書館が管理するサピエ図書館の録音図書(デイジー版)のダウンロード等、ＩＣＴ活用による利用者のサービス向上を目指して、ＰＲの強化を図るとともに、ＩＣＴを活用できない人のフォローを行っていく。

【中長期の取り組み】
- 大活字本、ＬＬブック、マルチメディアデイジー図書の購入を計画的に進めて、一般的な活字図書による読書が困難な方でも読書に親しめる環境の充実を図る。

＜助言の反映状況＞助言の反映有無、その理由

※　令和3年度に委員会の助言を受けていない施策(重点項目外の施策)は、令和4年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて評価を受けるため、空欄となります。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	4	3	―

4　庁内検討委員会による評価（２次評価）

(1)　「現在の達成状況」への評価

・　障がいなどを理由に図書館に足を運べない方へも読書を楽しめる機会を提供することは、だれもが身近に読書に親しむための効果的な手段として評価できる。ほかに何ができるか継続して検討してほしい。

・　種類別（大活字本、外国語図書など）の貸出冊数が増加に転じたことは、図書館の障がい者サービスが徐々に普及してきていることのあらわれとも言え、評価できる。引き続きＰＲを図ってほしい。

(2)　「今後の方向性」への評価

・　ＩＣＴ化を進めて、利便性の向上を図ることは、新しい生活様式やデジタル化の進展といった社会情勢の変化に対応するために必須である。多くの方の読書活動を推進していくためにも、さらなるＰＲの強化を期待する。

(3)　「助言の反映状況」への評価

※　令和3年度に委員会の助言を受けていない施策（重点項目外の施策）は、令和4年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて評価を受けるため、空欄となります。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
3	3	3	―

5　推進委員会による評価（令和４年８月記載）

(1)　「現在の達成状況」への評価

ア　発送方法を見直したことで、宅配サービスの利用者が大幅に増えた点は評価できる。潜在読者層に効果的にアプローチできたことが見て取れる。

イ　図書資料宅配サービスの対象者は区内で1万人以上いるが、利用者が17人では活用が進んでいるとは言えない。ＰＲや登録、利用しやすい環境づくりによって、もっと成果が出ることに期待する。

ウ　目標は冊数で見るのでなく、対象者数に対する利用者数で見てはどうか。

エ　大活字本や外国語図書の貸出については、資料数に対して目標値が適切なのか検討してほしい。必要としている方へ周知が難しい点が今後の課題である。

(2)　「今後の方向性」への評価

ア　今後の方向性と取り組みについては適切であり、評価できる。

イ　どれだけのニーズがあるのか、当事者の声の把握を最優先し、その上でニーズに対して受け皿となるソフトをどう増やしていくかを検討してほしい。

ウ　障がい者の方には、電子書籍が最も使いやすいと思われる。図書配送資料サービスと同時に推進してほしい。

エ　視覚障がい者の方へのサービスの周知や活用方法の改善を検討してほしい。

(3)　「助言の反映状況」への評価

※　令和3年度に委員会の助言を受けていない施策（重点項目外の施策）は、令和4年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて評価を受けるため、空欄となります。

6　推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「５　推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和５年２月記載）

(1)　「現在の達成状況」への評価に対する区の考え方

［イについて（成果指標①）］**※(2)イとも共通**

関係団体や障がい者施設への聞き取り調査を実施し、使いやすい図書資料宅配サービスの改善を図る。

［ウについて（成果指標①）］

令和7年度までは、経年変化の把握の観点から現在の指標による評価を継続しつつ、サービスの利用率など、貸出冊数以外の傾向を指標化することも検討していく。

［エについて（成果指標②）］

目標値については、令和5年度の中間見直しに合わせて適切な数値を設定していく。周知については、団体や施設の意見を聞きながら、効果的な方法を検討していく。

(2)　「今後の方向性」への評価に対する区の考え方

［ウについて（成果指標①）］

引き続き関係機関と連携して、非来館型サービスとして「あだち電子図書館」のＰＲを行い、利用促進に努めていく。

［エについて（成果指標②）］

関係団体や障がい者施設への聞き取り調査を実施し、ニーズを踏まえて、視覚障がい者サービスの改善を図っていく。

読書活動推進計画　施策評価シート（令和３年度実施事業分）

施策の柱	２	区民の読書に対する関心を高め支える環境の充実
施策名	２－３	区立図書館などの空間、サービス、情報発信の充実
担当部・課		地域のちから推進部 中央図書館
担当部：１～３、６を記入　　庁内検討委員会：４を記入　　推進委員会：５を記入		

１　施策の方向性

乳幼児コーナー、閲覧スペース、書架等の空間上の工夫や、レファレンスをはじめとするサービス、Wi-Fiや利用者向け電源の設置など情報環境の充実を図る。また、ICタグを活用し、複合施設の機能を活かして、図書館機能の拡大を図り、誰もが利用しやすい環境づくりに取り組み、居場所としての図書館の役割を高めていく。

さらに、公共施設や区民・団体等との連携を図り、図書受渡窓口の整備など図書館外で区民が本を身近に手に取れる環境整備を目指すとともに、様々な媒体や関係する施設を活用し、本に関する情報発信を積極的に行う。

２　成果指標　　※R7は目標値

指標名①	人口に占める登録者割合								
指標の定義	（算出式）　Ａ÷Ｂ Ａ　区立図書館登録者数計Ｂ　足立区の総人口								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	26.1%	実績値	26.1%	24.5%	23.9%				(35.0%)
目標値（R7）	35.0%	達成率	74.6%	70.0%	68.3%				

指標名②	１か月に本を読んだ区民の割合								
指標の定義	３計画アンケートにて、本を読むと回答した方の割合								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	54.3%	実績値	54.3%	未実施	52.9%				(60.0%)
目標値（R7）	60.0%	達成率	90.5%	—	88.2%				

指標名③	Webを活用した図書の予約貸出冊数								
指標の定義	パソコンやスマートフォン等インターネットを活用した、図書の予約貸出冊数								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	684,099冊	実績値	684,099冊	722,618冊	781,795冊				(888,000冊)
目標値（R7）	888,000冊	達成率	77.0%	81.4%	88.0%				

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	10	2	0	0	0	0	12
%	83%	17%	0%	0%	0%	0%	100%

３　担当部における評価

＜現在の達成状況＞R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①実績値（24.5%→23.9%）はR2年度を下回り、R7年度の目標値（35.0%）も下回った。
指標②実績値（54.3%→52.9%）はH30年度を上回ったが、R7年度の目標値（60.0%）は下回った。
指標③実績値（722,618冊→781,795冊）はR2年度を上回ったが、R7年度の目標値（888,000冊）は下回った。

【要因分析】

- 指標①については、コロナ対策を講じながら開館を継続したが、来館を控える区民も多く、登録者の割合が伸びなかったと考えられる。
- 指標②については、コロナ禍前後の読書活動について「特に変化はない」が最も多かったものの、多忙や加齢を理由に本を読まない人が依然として多かった。
- 指標③については、いつでも気軽に予約ができるインターネット予約の需要が着実に増えているためと考えられる。コロナ禍で来館を控える区民が多かったことも一因と思われる。

【新しい生活様式への対応やその他実績等】

- 図書館システムの更新に合わせ、ＩＣタグによる資料の管理を開始した。これに伴い、区立図書館全館に図書の自動貸出機を、また中央図書館に予約本コーナーを設置して、図書貸出・返却及び予約図書の受け取りの自動化し、利用者サービスの向上を図った。
- ＩＣタグの導入と合わせて、資料持出防止ゲートを図書館の入口から複合施設の入口へと移設したことにより、貸出手続きをせずに図書を持ち出せるエリアが拡大したため、複合施設内の図書館以外の場所でも図書の展示が可能になった。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

- 地域学習センターのロビーや地域体育館の入口付近など、複合施設内の図書館以外の場所での図書展示をさらに展開し、普段図書館を利用しない方でも本を手に取りやすい環境を整備していく。

【中長期の取り組み】

- 引き続き、インターネット上でレファレンス（読書相談）のＷｅｂ受付を行い、レファレンス事例の公開内容を充実させていく。

＜助言の反映状況＞助言の反映有無、その理由

※　令和3年度に委員会の助言を受けていない施策（重点項目外の施策）は、令和4年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて評価を受けるため、空欄となります。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	3	4	―

4　庁内検討委員会による評価（２次評価）

(1)　「現在の達成状況」への評価

・　コロナ禍の影響による来館数の減はやむを得ないが、区立図書館の登録者割合や本を読んだ区民の割合が下がったことは残念である。

・　インターネットを活用した予約貸出冊数が年々伸びていることは、区民の利便性の向上につながっており、評価できる。

(2)　「今後の方向性」への評価

・　ＩＣタグの活用により、図書館内だけでなく図書資料が複合施設全体で活用が可能となった点は、読書に関心がない区民や図書館に来館しない区民への働きかけの一つとして評価できる。

・　レファレンスのＷｅｂ受付については、利用者の増加に向けて、広く区民への周知を図るとともに、定期的に利用状況の確認や分析を行ってほしい。

(3)　「助言の反映状況」への評価

※　令和3年度に委員会の助言を受けていない施策（重点項目外の施策）は、令和4年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて評価を受けるため、空欄となります。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	3	4	―

5　推進委員会による評価（令和４年８月記載）

(1)　「現在の達成状況」への評価

ア　コロナ禍の影響を最も受けた施策だと思われるが、新しい生活様式に対応するべく様々な取り組みをされてきた点については、目標値云々よりも意味があることだと思われる。

イ　Ｗｅｂを使った取り組みに関しては成果が現れているため、新しい生活様式に則ってさらに充実させてほしい。一方で、Ｗｅｂでは対応できない居場所としての役割も重要である。

ウ　コロナ禍の影響で成果は上げにくいが、図書館以外での図書利用には期待したい。

エ　多忙や加齢を読書をしていない理由に挙げる区民に読書の魅力を伝えるため、どのようなアプローチができるのかを丁寧に探ってほしい。

(2)　「今後の方向性」への評価

ア　施策の方向性とその実現に向けた手法は、本とのタッチポイントを創出しようとする意欲が感じられ、評価できる。今後は、これまでにないスペースの利用など、大胆な発想の転換で施策がスピード感をもって実現に向かうことに期待する。

イ　レファレンスの場所、時間、手段、人材など、より効果が見られる取り組みに期待する。そもそも図書館にレファレンス機能があることを知らない人も意外に多いため、周知も必要である。

ウ　図書館以外に駅中や子育てサロン、公共施設、書店や喫茶店と連携するなど、図書コーナーや図書受渡窓口を設けて、身近な場所で本に親しめる工夫が必要ではないか。

(3)　「助言の反映状況」への評価

※　令和3年度に委員会の助言を受けていない施策（重点項目外の施策）は、令和4年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて評価を受けるため、空欄となります。

6　推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「５　推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和５年２月記載）

(1)　「現在の達成状況」への評価に対する区の考え方

［イについて（成果指標③）］**※施策1-4の(3)アとも共通**

令和3年度に実施した生物園との連携イベントでは、事前に材料を郵送し、生き物の毛や皮などに触れる体験やオリジナル絵本を制作するワークショップを、リアルタイム配信で実施した。このような実績を生かし、Ｗｅｂを活用した新たな事業を検討していく。

［ウについて（成果指標②）］

乳幼児や小学生向けに綾瀬小学校地域開放型図書室を開設したほか、シアター1010で「あだち絵本シアター」を開催した。引き続き、図書館外での図書利用を進めていく。

［エについて（成果指標①②）］**※施策1-4の(2)イとも共通**

3計画アンケートや世論調査の結果を分析し、本を読まない人への効果的な情報発信について検討する。

(2)　「今後の方向性」への評価に対する区の考え方

［アについて（成果指標②）］

ＩＣタグを活用し、引き続き複合施設内の図書館以外のスペースの利用を検討していく。

［イについて（成果指標③）］

レファレンス事例をＷｅｂで公開することで、図書館にレファレンス機能があることを広く区民に周知していく。

［ウについて（成果指標①②）］

図書館以外の読書については、民間施設との連携も含め、他自治体の事例などを参考に検討していく。図書受渡窓口については、読書活動推進計画の改定に合わせてあらためて検討する。

読書活動推進計画　施策評価シート（令和３年度実施事業分）

施策の柱	３	読書活動を通じた人と人とのつながりの形成
施策名	３－１	読書活動にかかわる人材の育成と団体の支援
担当部・課		地域のちから推進部 中央図書館
担当部：１～３、６を記入　　庁内検討委員会：４を記入　　推進委員会：５を記入		

１　施策の方向性

読書活動推進の事業・サービスにかかわるボランティアを育成するとともに、様々な活躍の場を設けることで、読書活動を地域全体で活性化していくことを目指す。
また、読書活動に取り組む団体等を積極的に支援する。
区立図書館の職員、保育園や幼稚園の職員、学校図書館の運営・活用に関わる教諭などを対象とした研修を行い、読書活動スキルの向上を図る。

２　成果指標　　※R7は目標値

指標名①	読み語り講座等の参加者のうち読書推進活動を参加希望する方の割合								
指標の定義	読み語り講座等の参加者のうち、アンケートで「読書推進活動に携わりたい」と回答した方の割合								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	新規	58.0%	71.0%				(50.0%)
目標値（R7）	50.0%	達成率	―	116.0%	142.0%				

指標名②	図書資料の団体貸出点数								
指標の定義	団体への図書資料貸出点数								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	120,840点	実績値	120,840点	163,517点	227,201点				(143,000点)
目標値（R7）	143,000点	達成率	84.5%	114.3%	158.9%				

指標名③									
指標の定義									
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）		実績値							
目標値（R7）		達成率							

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	4	1	1	0	0	1	7
%	57%	14%	14%	0%	0%	14%	100%

３　担当部における評価

＜現在の達成状況＞R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①実績値（58.0%→71.0%）、指標②実績値（163,517点→227,201点）ともにR2年度を上回り、R7年度の目標値（50.0%、143,000点）も大きく上回った。

【要因分析】

- 指標①については、講座実施後のアンケートからは「今後の読み語り活動に活かしたい」「子ども時代の読書の大切さを再認識した」などの反応があり、講座の実施が受講生の読書推進活動へのモチベーション向上につながっていることが要因と考えられる。
- 指標②については、区立小・中学校の「図書館を使った調べる学習コンクール」の応募数の増加に合わせて図書配送サービスの利用も増加している。調べ学習への取り組みが強化されていることが一つの要因と考えられる。

【新しい生活様式への対応やその他実績等】

- 秋の読書週間イベントとして、中央図書館で読み語り講座の受講生によるおはなし会を開催した。
- 夏休み期間中、区立図書館全館で小・中学生を対象に「図書館を使った調べる学習コンクール」用図書の貸出を実施した。
- 身近な場所で本に親しむことができるよう、区内児童館の要望に応じて図書配送を新たに開始した。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

- ボランティアなど読み語りを行う人材のスキルアップとして、引き続き読み語り講座を実施していく。
- 教育指導課や住区推進課と連携し、子どもの読書活動や身近な「居場所」で本を楽しむための支援をしていくとともに、図書配送サービス等の利用促進に向けてＰＲを強化していく。
- 小・中学校への図書配送サービスについては、ニーズや学習指導要領に沿ったテーマを用意していく。

【中長期の取り組み】

- 読み語り講座の受講者を読み語りボランティアグループにつなげるなど、活動できる機会を提供し、活動の定着を図っていく。

＜助言の反映状況＞助言の反映有無、その理由

※　令和3年度に委員会の助言を受けていない施策（重点項目外の施策）は、令和4年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて評価を受けるため、空欄となります。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	4	4	―

4　庁内検討委員会による評価（２次評価）

(1)　「現在の達成状況」への評価

・　読書活動に関わる方のモチベーションの向上は、特に子どもに読書の楽しさや大切さを伝えていく中で重要なことであり、評価できる。

・　区内小・中学校へのＰＲと児童館への図書配送を通し、本に親しみ、学ぶための団体貸出が増えていることは評価できる。

(2)　「今後の方向性」への評価

・　読み語りボランティアや周りの大人が、読書の楽しさや大切さを伝えていけるように、読書活動に関わる人材の育成や活動の場を提供し、さらに読書活動が広がっていくことを期待する。

・　区民の読書活動を推進するためには、身近な場所などで本を手に取りやすくすることが重要である。
図書館だけではなく、関連する施設と連携し、読書環境の充実を図ってほしい。

(3)　「助言の反映状況」への評価

※　令和3年度に委員会の助言を受けていない施策（重点項目外の施策）は、令和4年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて評価を受けるため、空欄となります。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	4	4	―

5　推進委員会による評価（令和４年８月記載）

(1)　「現在の達成状況」への評価

ア　読み語りに対しての興味を深める取り組みが、読書推進へのモチベーションの向上につながっている点は、成果の現れであり評価できる。次のステップとしては、本の周辺にいなかった人にどのように読書に興味を持ってもらうかが重要である。

イ　読み語り講座などは動画配信でも実施できるため、コロナ禍においても成果を上げているのではないか。

ウ　コロナ禍で活動の機会が減ったボランティアが、活動しやすくなる工夫が必要である。

エ　調べ学習をきっかけに読書を習慣化できるような仕掛けもほしい。

オ　コロナ禍で難しいことは理解しているが、他分野との連携に期待したい。

(2)　「今後の方向性」への評価

ア　方向性に添っており、実現に向けての取り組みが検討されている。

イ　活躍の場として、Ｗｅｂを使った読み語りなど、どこでもボランティアが活動できる工夫もしてほしい。

ウ　読み語りにのみ依存、執着することなく、より幅広い形での読書普及人材の育成が望まれる。

エ　「親子で絵本を楽しむ」という点を重視して取り組んでほしい。

(3)　「助言の反映状況」への評価

※　令和3年度に委員会の助言を受けていない施策（重点項目外の施策）は、令和4年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて評価を受けるため、空欄となります。

6　推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「５　推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和５年２月記載）

(1)　「現在の達成状況」への評価に対する区の考え方

［アについて（成果指標②）］**※施策1-4の(2)イとも共通**
アンケートや世論調査の結果を踏まえ、本を読まない人へのアプローチを検討していく。

［ウについて（成果指標①）］
いわゆる「５類化」が予定される一方、ボランティアの行動意識がすぐにはコロナ前の水準に戻らないことも懸念される。活動再開に向けて、ボランティアとの連絡や調整を丁寧に行っていく。

［エについて（成果指標②）］
調べ学習で人気となっているテーマを図書館のイベントで取り上げるなど、調べ学習から読書に興味を持つようつなげていく。

［オについて（成果指標②）］　**※施策3-2の(2)イとも共通**
3分野連携事業を中心に、健康、環境、防災など、多様な分野との連携を図っていく。

(2)　「今後の方向性」への評価に対する区の考え方

［イについて（成果指標①）］
Ｗｅｂを活用した読み語りなどの実施に向けて、スキルアップ講座を検討する。

［ウについて（成果指標①）］
従来の読み語りボランティアの養成だけではなく、他自治体の事例も参考にしながら、子どもの読書活動のリーダーを育成する仕組みづくりについても検討していく。

［エについて（成果指標②）］
あだち絵本シアターや読む団地での読み語りなど、引き続き親子向けイベントを企画していく。

読書活動推進計画　施策評価シート（令和３年度実施事業分）

施策の柱	３	読書活動を通じた人と人とのつながりの形成
施策名	３－２	読書活動推進のための多様な連携と協創の推進
担当部・課		地域のちから推進部 中央図書館
担当部：１～３、６を記入　　庁内検討委員会：４を記入　　推進委員会：５を記入		

１　施策の方向性

読書が個人の楽しみに終わることなく、各人の多様な関心と活動につながることを目指す。
そのため区立図書館においては、本や読書活動をきっかけに利用者同士がコミュニケーションを図れるような事業展開を進めるとともに、区立図書館、地域学習センター、生涯学習振興公社、民間事業者などが連携し、区民の交流を促し、多様な活動につながるような取り組みを行っていく。また、読書をきっかけとして、文化やスポーツをはじめとする異なる分野への活動にもつながるような機会提供にも取り組む。

２　成果指標　　※R7は目標値

指標名①	３分野連携事業への参加により、新たに読書を始めた区民の割合								
指標の定義	３分野連携事業の参加者アンケートにおいて、「定期的ではないが、読書をしている。」以上を選んだ区民の割合								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	新規	79.8%	75.7%				(50.0%)
目標値（R7）	50.0%	達成率	－	159.6%	151.4%				

指標名②	アウトリーチ事業の参加者数								
指標の定義	図書館の外で、読書活動推進事業に参加した方の人数								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	新規	576人	620人				(1,800人)
目標値（R7）	1,800人	達成率	－	32.0%	34.4%				

指標名③									
指標の定義									
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）		実績値							
目標値（R7）		達成率							

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	2	0	1	0	0	0	3
%	67%	0%	33%	0%	0%	0%	100%

３　担当部における評価

＜現在の達成状況＞R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】
指標①実績値（79.8%→75.7%）はR2年度を下回ったが、R7年度の目標値（50.0%）は上回った。
指標②実績値（576人→620人）はR2年度を上回ったが、R7年度の目標値（1,800人）は下回った。

【要因分析】
- 指標①については、3分野連携事業のアンケートにおいて、参加のきっかけとして「職員の声かけ」が最も多かったことから、参加者への丁寧なアプローチが効果的であったと考えられる。
- 指標②については、コロナ禍の影響によりイベントの中止が相次ぎ、参加者数が伸びなかった。
  〈中止した主なイベント〉
  本の交換会（ジェイヴェルデ大谷田）、あだち絵本シアター（アリオ西新井・シアター1010）

【新しい生活様式への対応やその他実績等】
- 中央図書館と生物園が連携して、障がいのある方を対象に生物園内で生き物に触れる体験やおはなし会を実施する予定だったが、コロナ禍の影響によりオンラインイベントに切り替えて開催した。事前に材料を郵送し、生き物の毛や皮などに触れる体験やオリジナル絵本を制作するワークショップを、リアルタイム配信で実施した（28人参加）。
- 中央図書館と地域調整課が連携して、外国にルーツを持つ児童・生徒を対象におはなし会を実施し、本の楽しさ伝えた（13人参加）。
- 舎人図書館では、参加者が同じ1冊の本を読んで感じたことを語り合うイベント「本とおしゃべりと」を対面からオンラインに切り替えて開催した。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】
- コロナ対策を講じながら、読み語りイベントなどを商業施設など図書館以外の場所でも実施していく。
- 対面でのイベントに加え、オンラインの活用も図りながら、コロナ禍でも気軽に本に親しめる事業を検討していく。

【中長期の取り組み】
- 民間施設や出版社、書店などとも連携した活動を検討し、読書に興味がない人や図書館に来ない人が本にふれ、読書の楽しさを知ることができる機会を提供していく。

＜助言の反映状況＞助言の反映有無、その理由
- 「幅広い観点からの協創活動の検討が望まれる」との助言に対して、出版社及びジェイヴェルデ大谷田と連携したイベントを企画したが、コロナ禍の影響により中止となった。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	4	4	4

4　庁内検討委員会による評価（２次評価）

(1)　「現在の達成状況」への評価

・　3分野連携事業では、指定管理者が参加者との対話からニーズを把握することで成果につながっており、評価できる。今後もニーズを踏まえ、ＰＤＣＡサイクルを意識した事業展開を期待する。

・　オンラインイベントへの切り替えなど、工夫を凝らして柔軟に事業を実施した点は評価できる。

(2)　「今後の方向性」への評価

・　アウトリーチ事業については、図書館以外の場所への事業実施の働きかけを積極的に行うだけでなく、分野を越えた連携事業を手法を工夫して行うことで、読書に親しむポイントを数多く提供できるよう努めてほしい。

・　イベントについては、ウイズコロナを念頭に置いて、オンラインで実施した事例などを積み上げていき、区民の読書活動の機会を創出していってほしい。

(3)　「助言の反映状況」への評価

・　コロナ禍の影響により、企画したイベントが中止になったことは残念である。引き続き、連携する主体の多様化を図りながら、様々な切り口から読書のきっかけづくりを進めてほしい。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	3	4	4

5　推進委員会による評価（令和４年８月記載）

(1)　「現在の達成状況」への評価

ア　コロナ禍でいくつかのイベントが中止になり、目標値には達しなかったが、本の交換会や絵本シアター、生物園との連携など、従来なかった新たな発想により多岐にわたる実績ができた点は評価できる。

イ　特に生物園との連携事業はインパクトがあった。意外性を持った組合せや、今まで本とは関わりのなかった分野との連携は、新しい本の提供の仕方として期待できる。

ウ　アウトリーチ事業が功を奏しているため、もっと広げてほしい。

(2)　「今後の方向性」への評価

ア　コロナ禍の影響を多分に受けており、今後の方向性については工夫が必要である。

イ　多様な連携はこの施策のみならず、全施策において意識していく必要があると感じる。失敗を恐れず、どんどんチャレンジしてほしい。その際は、パッケージ化して省力化するなどの工夫も必要である。

ウ　出版社や書店を巻き込んだ取り組みなど、民間施設との連携による図書館の新しいあり方に期待する。発想を広げることで、十分実現に向けられるのではないか。

(3)　「助言の反映状況」への評価

ア　アウトリーチ事業が功を奏している。３分野連携事業に活かしてほしい。

イ　本や読書の普及に関わりたい区民・専門家・有識者と広く連携を図ってほしい。

ウ　コロナ禍の影響で反映が難しい部分もある。今後も実施のタイミングの難しさはあるが、次々に新しいことを考えて実現してほしい。

6　推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「５　推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和５年２月記載）

(1)　「現在の達成状況」への評価に対する区の考え方

［ウについて（成果指標①②）］**※(3)アとも共通**

生物園との連携事業など、本に親しむ機会として効果的な事業はアウトリーチ事業として検討し、読書へのきっかけ作りを充実させていく

(2)　「今後の方向性」への評価に対する区の考え方

［ア、ウについて（成果指標②）］**※(3)イとも共通**

シアター1010で開催した「あだち絵本シアター」では、劇場のイベントと同日開催としたことで多くの集客につながった。商業施設などの民間施設の集客力を活用して、必ずしも図書館に来なくても本の楽しさに触れてもらえるよう、引き続きアプローチの拡大を検討していく。

［イについて（成果指標①②）］　**※施策3-1の(1)オとも共通**

3分野連携事業を中心に、健康、環境、防災など、多様な分野との連携を図っていく。

(3)　「助言の反映状況」への評価に対する区の考え方

［ウについて（成果指標②）］

生物園との連携事業など、普段読書に興味がない人でも参加してみたくなるような、インパクトや意外性のある企画を積極的に検討していく。

また、専門家などとの連携については、選書・展示において、新たに学識をはじめとする専門家などの第三者の意見を取り入れる仕組みを構築していく。

運動・スポーツ部会の評価総括

１　対象施策

施策 1-1 子ども・成人・高齢者・ 障がい者が運動・ スポーツを楽しむ きっかけづくり …29 事業
施策 1-2 だれもが運動・スポーツ を「する」「みる」機会 の充実 …10 事業
施策 1-3 運動・スポーツに関する 情報の効果的な発信 …4 事業
施策 2-1 身近な場所における 運動・スポーツの推進 …6 事業
施策 2-2 協働・協創による他分野 との連携の仕組みづくり …3 事業
施策 3-1 運動・スポーツを ささえる組織の支援と 連携強化 …4 事業
施策 3-2 運動・スポーツを ささえる人材の育成と マッチング …7 事業

２　令和４年度運動・スポーツ部会からの評価

計画の改定に向けて、本部会では、「誰一人取り残さない　スポーツで叶える共生社会」を掲げ検討してきた。その中で挙がった論点を中心に評価を総括する。

（１）パラスポーツを障がい者とのコミュニケーションツールとして普及

パラスポーツは、障がいに合わせて開発されたスポーツであるが、障がい者のみでなく、スポーツの得意不得意や、年代に関わらず誰もが参加できるスポーツである。パラスポーツへの理解、参加をきっかけに、障がい者や多様な立場の人とのコミュニケーションツールとして活用してほしい。

ア　教育現場の体験実施率を上げるなど、教育現場での普及への期待

障がい理解、生涯スポーツという視点からも、教育現場で積極的にパラスポーツを取り入れて頂きたい。パラスポーツが身近なものになることで、関心も高まるであろう。

イ　関心から一歩踏み込んだ行動へ

パラスポーツの普及には、「障がい者と対戦する」だけでなく、健常者の審判やサポートが不可欠である。パラスポーツへの関心を高めることをゴールにするのではなく、一歩踏み込んだ主体的かつ積極的な参加を期待する。

《評価に対する区の考え方》

平成２９年度（２０１７年）からスタートした共生社会先進国であるオランダ王国との連携事業から学んだ「スポーツを通じた共生社会の構築」の考え方の定着についての取り組みは、東京２０２０オリンピック・パラリンピックのレガシーとして、これからも引き続き注力していく。

障がい者だけでなく多様な立場の人が、スポーツに参加できる環境を整えるとともに、パラスポーツへの理解を深め、ともに楽しむコミュニケーションツールとしてのパラスポーツの活用に取り組んでいく。

ア　教育現場で、児童・生徒が、パラスポーツを自ら体験することで、障がい者の立場や考え方だけではなく、障がい者をささえる方の立場や考え方の理解を深めることができる。障がい理解、生涯スポーツという観点からも、学校教育の中で体験授業が継続して実施できる仕組みづくりに取り組んでいく。

イ　パラスポーツの体験などへの健常者の参加機会を増やすことと並行して、障がい者がパラスポーツに取り組むためには、健常者が障がい者をささえる事柄を増やすことが重要である。

パラスポーツの審判や同行支援、大会運営補助、大会要綱やルールブックの音読など、必要とされるサポートについて情報を集約し、希望者へメルマガ等で情報提供を行い、「ささえる行動」の喚起につなげていく。

（２）誰もが「身近」で「気軽」に「個人」でも参加できる事業の充実

コロナ禍が長期化するにあたって、従来のスポーツ実施方法のみでは限界が見られる。また、昨今の気象状況を鑑みると、特に真夏の屋外スポーツには危険が伴う。

今後、様々な原因で我々の生活にいつでも行動制限が起こりうることを想定し、長期的な視点から新たな運動・スポーツの実施方法の検討が求められる。

ア　身近な公園のさらなる活用

コロナ禍の影響で、室内で遊ぶ子どもたちが増えている。子ども時代の体験が今後の運動・スポーツの実施率にも影響することを鑑み、身近な公園で身体を使って遊べる場（ボール遊び、冒険遊び場（プレイパーク）、インクルーシブ遊具など）の設置を期待したい。

一方、場の設置だけでは遊び方の理解や周知に限界があるため、公園で親子体験を実施したり、教育の場として近隣の公園や広場を使えば、外遊びや身体運動の機会も増えるのではないか。

また、パークで筋トレの後に公園の一角で野外勉強会を行ったり、子どもが身体を使った遊びができるスペースに移動図書館の設置や、読み聞かせを実施できる場をつくるなど、誰もが身近に利用できる公園を拠点とした他分野とのタッチポイント※1を意識した多様な活動を期待する。

イ　異常気象のもとの運動・スポーツの在り方

今後も、過酷な気象状況（高温、豪雨等）が想定されるため、気象条件に左右されない運動方法として、早朝ウォーキングの推奨、年間を通じた室内プール活用の推奨、熱中症のリスク管理など新たな対策が必要となる。今までの考え方※2とは違った視点で、運動・スポーツの取り組み方、あり方を検討してほしい。

※1　他分野とのタッチポイントとは、運動・スポーツ以外の活動で興味を持った方を、運動・スポーツに誘導できるような機会をいう。

※2　今までの考え方とは、 競技により活動場所を「室内」「屋外」のみとする、といった固定観念などを指す。

ウ　多文化共生の視点

誰もが「身近で気軽に運動・スポーツを楽しむ」ことを実現するためには、多文化共生の視点も不可欠である。足立区は、２３区内で３番目に外国人が多い地域である。スポーツ施設やイベントにおける通訳や周知のための広報物への表示言語の問題など、配慮ある環境整備が求められる。

エ　インクルーシブな視点からの既存の施設活用

障がい者が気軽に安心して運動できるためには、環境整備も必要である。既存の施設を活用し、例えば週１回など特定の曜日に年代や障がいの種別で場所指定や利用枠を設定するなどの工夫をすることで、多くの方がスポーツに触れる機会を創出してほしい。

《評価に対する区の考え方》

体育館や広いグラウンドや広場といった施設に頼ってきた競技が中心であったが、新型コロナウイルスの感染拡大によって、「身近で」「気軽に」「個人でも」「継続して」取り組める運動・スポーツに注目が集まっている。

ア　最も身近で、活用が期待されているのが、区内に多くある公園・広場である。一定エリア内の公園ごとに役割を振り、地域の意見を聞きながら、「児童向け遊具」「高齢者向け健康遊具」「ボール遊びコーナー」などの施設をバランスよく設置するよう計画的に進めていく。

「パークで筋トレ」では、参加者へのミニ講座や啓発パンフレット（栄養アドバイス、熱中症予防、詐欺防止等）の配布はすでに実施している。このような気軽に立ち寄れるところで行う他分野の事業を入口とした運動・スポーツ事業への展開など、対象年代を広く捉えて充実させていく。

イ　豪雨、酷暑といった過酷な環境の中では、従来と同じ取り組み方では、運動・スポーツを楽しむことができないだけでなく、運動・スポーツの実施方法によっては、命の危険を伴う。

区施設利用時間の前倒しといった変更や、民間スポーツ施設との連携による屋内スポーツ施設の利用拡大など、新たな視点で区民の安全なスポーツ施設利用に向けた検討を行う。

ウ　誰もが「身近で気軽に運動・スポーツを楽しむ」環境とするためには、外国にルーツをもつ方や外国人居住者への配慮も重要である。運動・スポーツのきっかけとなる「情報」が正しく伝わるよう、ＱＲコードがついた多言語表記によるチラシにより、多言語に翻訳可能な区ホームページに誘導する。

エ　今後は、区の既存のスポーツ施設について、障がい者が安心して利用できる時間枠やスペースの確保など体制を整備するとともに、民間のスポーツ施設に対して、協力を働きかけながら、障がい者が気軽にスポーツに触れる機会を創出できるよう工夫していきたい。

（３）民間や大学との連携による運動・スポーツ活動の広がり

運動・スポーツ活動の広がりのためには、民間事業者と学術研究機関である大学との連携が不可欠である。区の基本理念である「協働・協創」を念頭に行政、民間、大学と力を合わせて魅力ある運動・スポーツ環境を作り出してほしい。そのために下記の点を期待する。

ア　民間トレーナーや民間施設の活用

パークで筋トレは区民のニーズとマッチしており、年々参加者が増えている。パークで筋トレをはじめとした身近な場所での活動に対し、民間トレーナーの派遣を行うことで、より専門的な指導が受けられ、運動へのモチベーションも高まるであろう。

また、区のスポーツ施設のみでなく、民間のスポーツ施設活用も検討の余地がある。民間施設の休館日や、利用者が少ない時間帯などに場所を借り、区の事業を実施することも可能であり、身近で運動できる場の選択肢の広がりにつながるであろう。

イ　大学との充実した連携や学生等ボランティアが活躍できる仕組みづくり

大学が持つ人的資源（教員の専門性、学生）を活用することで、科学的根拠に基づいたプログラムの受講が可能となる。また学生ボランティアが活躍できる仕組みを作ることで、足立区のスポーツをささえる人材確保につながるのみでなく、学生のエネルギーは、活動や多世代交流の活性化の起爆剤となろう。そのためには足立区への事業参加を授業に組み込んだり、有償ボランティアにしたりなど、大学生にとっても活動のメリットを感じさせる仕組みづくりの検討をすすめてほしい。

ウ　民間の好事例の情報収集

他分野の連携事業としてすでに民間では様々なことが実施されている。例えば、「ツタヤ conditioning」（電子図書を読みながらランニングマシーンを使う）などがその一つである。すでに実施されている事例を集め、足立区内での応用可能性を検討してほしい。

また、実業団の指導者とオンラインでつないで指導を受けるといった遠隔指導も始まっている。今後の展開に期待する。

エ　カルチャー（映画や映像等）との組合せ

東京 2020 大会の記録映画の上映があった。このような区が制作した映像以外の映画や映像といったカルチャーを活用し、スポーツへの興味関心を高める取り組みの検討が望まれる。

《評価に対する区の考え方》

民間事業者が持つ専門性、人材、施設といった多くの資源や、大学におけるスポーツに関する研究や調査結果、それに携わる方たちに対するガバナンス・コンプライアンス等の専門的見地や情報、学生の活動など、様々な力を借りながら、区民の運動・スポーツ活動をさらに広げていく必要がある。

ア　令和４年３月に東京ヴェルディ㈱と「区民の運動・スポーツに関する連携協定」を締結した。有資格者による障がい者運動教室の実施をはじめ、イベント協力、「観る

スポーツ」の充実（サッカーのプロリーグの試合観戦の区民招待デーの実施）などの協力を得ている。

今後は、連携協定に基づく活動を広げることに加え、区内にある民間事業者が運営するスポーツ施設との連携について働きかけ、指導者の専門的な指導やトレーニング機器などの利用といった力を活用させていただきながら、区民の運動・スポーツに取り組むきっかけや場づくりの充実に取り組んでいく。

イ　東京未来大学こども心理学部の令和４年の後期授業のカリキュラムに、区が実施する「障がい者運動教室」への参加が組み込まれた。区が実施する運動・スポーツ事業を大学の授業に活用いただく好事例となった。

今後も区内大学の人的資源、特に、学生ボランティア参加について、学生側のニーズを把握し、区民の運動・スポーツ活動につながる活動につなげていきたい。

また、大学における研究成果や専門性を生かしたエビデンスに基づくプログラムの提案などを受け、今後の事業に活かしていく。

ウ　コロナ禍以前は当たり前であった集合練習等が困難となり、従来の運動・スポーツ活動が制限される一方で、ウェブを活用したリモート指導など、新たな練習方法が進んできた。

提言にあった他分野との連携事業や、民間事業者が仕掛ける新しい運動・スポーツへのアプローチ方法について情報を収集し、区の事業に取り入れていけるよう検討していく。

エ　平成２９年度（２０１７年）からスタートしたオランダ連携の記録映像を４月２９日に実施したスペシャルクライフコートフェスティバルのステージで放映し、多くの方がじっくりと鑑賞する姿がみられた。

コロナ禍で最も困難となった不特定多数の方を対象とした「観るスポーツ」について、区の制作したもの以外の映画や映像も活用することで、多くの区民の運動・スポーツへの興味を引き出すことができると考える。まずは、イベントへの取り入れや、紹介方法の検討から始めたい。

（４）ささえる人材の育成

スポーツを通して「誰一人取り残さない共生社会」を実現するためには、それをささえるための人材が重要である。区民一人一人が、スポーツを通じて社会をささえる意識を形成するために、以下の点を提案したい。

ア　参加のしやすさをささえる合理的配慮や多文化共生の視点

障がい者スポーツには、サポート人材が不可欠である。また外国人や外国人障がい者をささえるには、通訳の課題なども挙げられる。スポーツボランティア育成には、障がい種別ごとの配慮や理解、多文化理解の視点を取り入れることが求められる。

現在行われている初級障がい者スポーツ指導員養成講習会の修了者等が、スポーツボランティアとしてステップアップするためには、競技技術の向上以外に、様々な視点でプレーヤーをささえる配慮や理解を深める講習会の開催が望まれる。また、学

んだことを振り返ることができるようなガイドブックの作成などを期待する。

イ　部活動の支援者育成、指導者の質向上

国は、令和５年度の開始から３年後の令和７年度末を目途に段階的に部活動の地域移行を行っていく予定である。

教育現場で行われている部活動は、子どもたちのスポーツの大きな受け皿であり、それをささえる指導者には技術向上のみでなく、子どもの発達・発育の理解、障がい理解、多文化理解、安全管理などの視点を持ってほしい。部活動指導に対する支援者や指導者となる方の人材確保、育成に関する仕組みに関する検討を深め、地域に任せるのではなく、行政が関わりながら指導者の質を担保していってほしい。

ウ　多様な方法で「ささえる」を検討

コロナ禍の影響を受け、スポーツの現場で「ささえる」活動を行う機会が急減した。ウイズコロナを鑑み、多様な「ささえる」方法の検討が望まれる。スポーツに関する情報発信をすることや全国の好事例の情報収集をするなど、今までになかった方法で「ささえる」活動を広げる工夫が求められる。

特に、情報発信の方法の検討は重要である。足立区独自に取り組むスペシャルクライフコートの活用、スポーツコンシェルジュの運用、地域スポーツミーティングで培った考え方の広がりなど、足立区の施策の区内外への発信に力を入れることや、「自分でもできるかな」「参加したい」「見て、応援してみたい」と思わせる情報発信の工夫に期待する。

エ　地域スポーツミーティングのさらなる展開

地域スポーツミーティングは、区民のスポーツへのニーズを理解したり、スポーツを核とした様々な立場の人の相互理解が促される場である。オランダ連携事業で深まった「スポーツを通した社会変革」を目指す一助として、ニーズや課題に合わせた形に変えるなど、改めて地域スポーツミーティングの活用を期待する。

《評価に対する区の考え方》

「誰一人取り残さない　スポーツで叶える共生社会」を築くために、「ささえる人材」として、合理的配慮や理解、安全に関する知識をもったスポーツに関与する区民、団体を増やす活動が重要となる。

ア　スポーツボランティアには、スポーツのルール習得や競技指導技術だけではなく、障がい種別ごとの配慮や多文化理解、他者理解の視点を持ち、プレイヤーの立場に立った対応が求められる。指導者、関係者に対して「合理的配慮」を学ぶ場を定期的に実施し、啓発を行っていきたい。

イ　スポーツ庁から令和４年３月に示された「第３期スポーツ基本計画」によると、学校教育に位置付けられていた部活動が、令和５年度より段階的に社会教育で担うこととされている。現在、国や都でモデル的な取り組みが始まっているが、足立区の子ども達、地域の活動にあった安全と指導の質を確保できる方法を検討していく。

ウ　障がい者スポーツに関するイベントや大会といった多くの健常者のささえが必要な事業が、新型コロナウイルス感染症の影響で中止や縮小を余儀なくされてきた。ささえる活動の裾野を広げていくために、イベントや大会に留まらず、健常者のパラスポーツ体験や、障がい者の生活の中でできる運動・スポーツを提案するアウトリーチなど、様々な形で障がい者スポーツに触れる機会を増やしていきたい。

足立区独自の取り組みも含めた情報発信の方法も、ホームページやチラシといった定番の媒体のみならず、メルマガやＳＮＳといった違った媒体での情報発信を心掛けたい。

エ　地域スポーツミーティングは、平成２９年度（２０１７年）からはじまったオランダ連携事業で学んだ「共生社会の構築」の考え方をより強固にし、実践につなげていくアイデアを生み出してきた会議体であった。今後もパラスポーツ普及の課題解決のために、年数回程度、スポーツミーティングを実施し、障がい者や関係団体などの意見をつなぎ、集約しながら運動・スポーツ推進計画等に反映させていく。また事業実施にあたっては、ＰＤＣＡサイクルによる評価・検証を検討する。

（５）指標に関すること

本計画は、コロナ禍以前に作成されたものであり、各施策および各施策の目標となる指標もコロナ禍以前を想定していた。しかし、ウイズコロナの時代を迎えて施策内容の再検討とともに指標についての再検討も求められる。また国の第三期スポーツ基本計画の内容も踏まえながらの指標の見直しが必要となろう。

特に、全国との比較が可能となる指標として子どもの体力調査を指標として導入することを提案したい。現時点では、足立区の子どもの体力は全国平均を下回っているという実態から、現状を踏まえ各施策を実施し、その効果を検証していってほしい。

《評価に対する区の考え方》

本計画の中間見直しにあたっては、今後の変化を踏まえ、一部の事業と指標を見直していく。

子どもの体力状況については、指標に盛り込み、各施策の検証時に活用していく。

運動・スポーツ計画　施策評価シート（令和３年度実施事業分）

施策の柱	１	運動・スポーツを気軽に楽しむための機会づくり
施策名	１－１	子ども・成人・高齢者・障がい者が運動・スポーツを楽しむきっかけづくり
担当部・課		地域のちから推進部　生涯学習支援室　スポーツ振興課
担当部：１～３、６を記入　　庁内検討委員会：４を記入　　推進委員会：５を記入		

１　施策の方向性

年齢や生活環境、健康状態、障がいの有無等によって取り組みたいと思う、または取り組むことができる運動・スポーツは異なる。こうした状況をふまえ、ライフステージや個々の状況に応じた、きめ細やかな施策・事業を展開する。

２　成果指標　　※R7は目標値

指標名①	区民のスポーツ実施率								
指標の定義	３計画アンケートにて、運動・スポーツを「週に１日以上実施している」と回答した方の割合【令和３年度実施】								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	35.9%	実績値	35.9%	－	35.2%				(50.0%)
目標値（R7）	50.0%	達成率	－	－	70.4%				

指標名②	イベント後に運動・スポーツへの意欲が向上した区民の割合								
指標の定義	スポーツ振興課所管イベントの参加者アンケートにて、運動・スポーツを「ほとんどやらない」と回答した方のうち、イベントに参加して運動・スポーツをやりたいと「思った」「やや思った」と回答した方の割合								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	70.7%	86.7%	82.6%				(80.0%)
目標値（R7）	80.0%	達成率	－	108.4%	103.3%				

指標名③									
指標の定義									
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）		実績値							
目標値（R7）		達成率							

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	13	2	3	5	2	4	29
%	45%	7%	10%	17%	7%	14%	100%

３　担当部における評価

＜現在の達成状況＞R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①実績値（35.9%→35.2%）はH30年度とほぼ横ばいだが、R7年度の目標値（50.0%）を下回った。

指標②実績値（86.7%→82.6%）はR2年度を下回ったが、R7年度の目標値（80.0%）を上回った。

【要因分析】

・　指標①については、区が実施した事業への参加申し込みが、どの年代層を対象としたものであってもほぼ定員を上回っていることから、運動・スポーツに取り組む機会を楽しみに、工夫をしながら実施していた区民が多かったと推察できる。

・　指標②については、コロナ禍の影響によりイベント内容の縮小や参加人数の制限によって、運動・スポーツの「次」への楽しみや意欲が持てなかったことが要因と考える。

【新しい生活様式への対応やその他実績等】

（１）身近な場所での運動・スポーツの実施

・　コロナ禍でも屋外で取り組める事業への参加者が増加した。特に「パークで筋トレ」は、1回あたりの平均参加者数が上昇した（R2年度：24人/回、R3年度：35人/回）。

（２）人数を制限して実施するスポーツ体験教室の実施

・　人数を制限した親子参加型の体験教室を実施した。人数を絞ったことにより、「具体的なアドバイスが聞けた」「じっくり体験に参加できた」と実施後のアンケートが好評であった。

（３）時間や場所に縛られないイベントの実施

・　誰でもいつでも取り組める「あだちウォーキングチャレンジ」を糖尿病月間に合わせて実施した。運動スポーツ実施率が低い働き世代の参加につながった。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

・　区主催事業への参加をきっかけに、運動・スポーツ活動を自宅で一人もしくは家族で楽しく継続できるよう、事業プログラムには「家でもできるアドバイス」を組み込む。

・　始めてみたい「初心者」、一人でも参加できる「個人向け」プログラムを充実させる。

【中長期の取り組み】

・　運動・スポーツの習慣化のため、幼少期から高齢者までの各世代で、楽しく身近に感じることができるプログラムや、誰でも利用できる公園遊具の活用など、施設や競技スポーツにとらわれない事業に取り組む。

・　障がい者や高齢者の運動・スポーツ習慣化のため、身近で気軽に参加できる事業の充実に取り組む。

＜助言の反映状況＞助言の反映有無、その理由

※　令和3年度に委員会の助言を受けていない施策（重点項目外の施策）は、令和4年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて評価を受けるため、空欄となります。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	4	4	―

4　庁内検討委員会による評価（２次評価）

(1)　「現在の達成状況」への評価

・　ターゲットを絞るなど、コロナ禍でも取り組める事業を企画・実施した点は評価できる。
・　身近な場所で気軽に参加できるイベントの実施により、運動・スポーツの実施率の低い働き世代へのアプローチを可能としたことは評価できる。
・　コロナ禍での事業実施は、中止や縮小を余儀なくされるが、運動・スポーツの楽しみが伝わるような企画内容を期待する。

(2)　「今後の方向性」への評価

・　事業参加者が、その後の運動・スポーツをやりたいと思う割合が高い点は評価できる。
・　本計画策定時にアンケート等から導き出した「子どもの頃から」という視点を踏まえた事業の更なる充実に期待する。
・　「パークで筋トレ」は、高齢者だけではなく、運動能力が落ちていると言われている小中学生世代や高校生以上の若年層など、様々な年代が身近な場所で気軽に継続して運動・スポーツに取り組める仕組みとなるよう期待する。

(3)　「助言の反映状況」への評価

※　令和3年度に委員会の助言を受けていない施策（重点項目外の施策）は、令和4年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて評価を受けるため、空欄となります。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	3	4	―

5　推進委員会による評価（令和４年８月記載）

(1)　「現在の達成状況」への評価

ア　身近な場所での運動・スポーツの実施事業により、指標②の「イベント後のスポーツ意欲」実績値がH30年度より10ポイント上がり、目標値を上回ったことは評価できる。
イ　「パークで筋トレ」の平均参加者数の上昇や親子参加型の体験実施など、イベントの内容の工夫や充実が見られた。
ウ　指標①が目標値を下回ったのは残念である。しかし、H30年度とR3年度を比較すると、両者とも35%程度で横ばいなので、目標には届いていないが、コロナ禍の中、実績値を維持できたことは評価できる。

(2)　「今後の方向性」への評価

ア　コロナ禍において「実施できる事業」と「実施が難しい事業」が明らかになりつつある。その中で全ての人を取り残さないように、気軽に参加できる事業の拡充や自宅でもできるプログラムの拡大、個への取り組みの充実に関しては、大変評価できる。
イ　願わくは、今までコロナ禍前に実施できていた団体などのスポーツも、工夫をこらした取り組み方を検討するべきと考える。その際、ターゲットとなる対象者へのより丁寧な配慮を期待する。
ウ　今後は、運動・スポーツをするきっかけを実際の行動に移していく動きにも期待する。

(3)　「助言の反映状況」への評価

※　令和3年度に委員会の助言を受けていない施策（重点項目外の施策）は、令和4年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて評価を受けるため、空欄となります。

6　推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「５　推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和５年２月記載）

(1)　「現在の達成状況」への評価に対する区の考え方

［ウについて（成果指標①）］

コロナ禍で指標①が目標値を下回ったが、身近な場所で、気軽に参加できる事業を工夫をしながら取り組むことで、さらに運動・スポーツに親しむ区民の裾野を広げていく。

(2)　「今後の方向性」への評価に対する区の考え方

［イについて（成果指標①②）］

団体スポーツの大会も感染対策をとりながら開催できるようになった。今後も、ターゲットとなる対象へのより丁寧な配慮を工夫し、多くの方が運動・スポーツに取り組めるよう働きかけていく。

［ウについて（成果指標②）］

大きなイベントや体験会を通じて「きっかけづくり」に取り組んできたが、「健康」や「仲間づくり」といった運動やスポーツを通じて得られるものもPRしていくことで、継続するモチベーションを高め、「ウォーキング」や「パークで筋トレ」、「スポーツ広場」など、幼少期から高齢者までの幅広い世代が身近な場所で参加できる事業に誘導していく。

(3)　「助言の反映状況」への評価に対する区の考え方

※　令和3年度に委員会の助言を受けていない施策（重点項目外の施策）は、令和4年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて評価を受けるため、空欄となります。

運動・スポーツ計画　施策評価シート（令和３年度実施事業分）

施策の柱	１	運動・スポーツを気軽に楽しむための機会づくり
施策名	１－２	だれもが運動・スポーツを「する」「みる」機会の充実
担当部・課		地域のちから推進部　生涯学習支援室　スポーツ振興課
担当部：１～３、６を記入　　庁内検討委員会：４を記入　　推進委員会：５を記入		

１　施策の方向性

ライフステージ等に応じた運動・スポーツを楽しむ機会の充実だけでなく、世代や障がいの有無を越えて、だれもがともに同じ空間で運動・スポーツに親しみ、楽しみや喜びを共有できる機会を充実させていくことは、人と人との結びつきや地域の絆を形成していくために重要である。

区民のスポーツに対するニーズに応じて、運動・スポーツを「する」だけでなく、「みる」機会の充実を図り、運動・スポーツを通じて多様な区民が交流する共生社会の実現へとつなげていく。

２　成果指標　　※R7は目標値

指標名①	運動・スポーツを観戦した区民の割合								
指標の定義	３計画アンケートにて、頻度にかかわらず、過去１年間に運動・スポーツを「観戦した」と回答した方の割合【令和３年度実施】								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	65.9%	実績値	70.7%	－	41.7%				(80.0%)
目標値（R7）	80.0%	達成率	－	－	52.1%				

指標名②	区民のスポーツ実施率【再掲】								
指標の定義	３計画アンケートにて、運動・スポーツを「週に１日以上実施している」と回答した方の割合【令和３年度実施】								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	35.9%	実績値	35.9%	－	35.2%				(50.0%)
目標値（R7）	50.0%	達成率	－	－	70.4%				

指標名③	イベント後に運動・スポーツへの意欲が向上した区民の割合【再掲】								
指標の定義	スポーツ振興課所管イベントの参加者アンケートにて、運動・スポーツを「ほとんどやらない」と回答した方のうち、イベントに参加して運動・スポーツをやりたいと「思った」「やや思った」と回答した方の割合								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	新規	86.7%	82.6%				(80.0%)
目標値（R7）	80.0%	達成率	－	108.4%	103.3%				

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	1	0	0	2	0	7	10
%	10%	0%	0%	20%	0%	70%	100%

３　担当部における評価

＜現在の達成状況＞R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①実績値（65.9%→41.7%）はH30年度を下回り、R７年度の目標値（80.0%）も下回った。

指標②、③は再掲（施策1-1）。

【要因分析】

- 指標①については、コロナ禍の影響で、集客を主体とする「みる」事業が実施できなかったことが一因と考えられる。東京2020オリンピック・パラリンピック、冬季北京オリンピックが開催されたが、ニュースやダイジェストで触れることはあっても、会場の雰囲気を楽しむ観戦の良さが体験できなかったことも大きな要因であると考える。
- 指標②、③は再掲（施策1-1）。

【新しい生活様式への対応やその他実績等】

（１）体験会を組み合わせた観戦イベントの実施

- 「関東女子フットサルリーグ」「関東大学・社会人選抜バスケットボール大会」の観戦時に選手や監督が指導する競技体験会を実施した。

（２）試合のネット中継の実施

- 「関東女子フットサルリーグ」「関東大学・社会人選抜バスケットボール大会」では、主催団体のサイトで試合のネット中継を実施し、会場にいなくても観戦ができる工夫をした。

（３）幅広い年代層や障がいのある方など誰もが取り組める運動・スポーツ活動の実施

- スポーツ教室、スポーツ広場の実施や、ウォーキングチャレンジといった期間を長く設定し、チャレンジイベント、スペシャルクライフコートでの障がい者運動教室などを実施した。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

- 「みる」ことに焦点をあてた事業を通じて、スポーツの楽しさや喜びを共有できる新しい機会の提供方法や事業実施方法を工夫していく。

【中長期の取り組み】

- アスリートの試合やデモンストレーションを組み込んだ体験教室など、「みる」「する」を一緒に体感できる事業を充実させ、スポーツへの意欲向上を図っていく。
- 東京2020大会で新たに注目を集めた競技やパラスポーツなど、誰もが、自分にあったスポーツを楽しめる機会を創出していく。

＜助言の反映状況＞助言の反映有無、その理由

- 「指導者がいて手軽にできるスポーツの検討」という助言を受け、パークで筋トレの会場を増設し、スポーツ広場や障がい者運動教室等を実施した。世代や身体状況に合わせた事業を身近で開催した。
- 「『誰もができるスポーツ』を取り入れてみるとよいのではないか」という助言を受け、ウォーキングチャレンジの継続実施、ボッチャ広場（例月の体験会）及びボッチャ大会の実施を計画した。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	3	3	4

4　庁内検討委員会による評価（２次評価）

(1)「現在の達成状況」への評価
- 不特定多数が参加するイベントの実施が困難な状況ではあるが、感染対策や対象を絞ってできる事業に取り組んだ点は評価できる。
- 東京2020大会があったにもかかわらず、スポーツ観戦率は低くなっている。体験とセットでの事業展開や、競技解説を盛り込む等、区民の興味関心を喚起する工夫に期待する。

(2)「今後の方向性」への評価
- 単純な観戦のみではなく、付加価値を加えた事業の開催を期待する。
- 誰もが自分にあったスポーツを楽しめるよう、各種競技の魅力が伝わるような情報発信の工夫にも期待する。

(3)「助言の反映状況」への評価
- 身近で手軽に参加できる事業として、パークで筋トレの会場増設を計画的に実施していることや、スポーツ広場の継続実施は評価できる。
- 障がい者運動教室といった、今まで選択肢のなかった身体状況に合わせた事業実施を開始したことは評価できる。
- 誰もが場所や時間を気にせず気軽に参加できる事業の更なる充実に期待する。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
3	3	3	3

5　推進委員会による評価（令和４年８月記載）

(1)「現在の達成状況」への評価
ア　指標①については、東京2020オリンピック・パラリンピック等が開催されたにも関わらず、目標値を下回ったことは残念であった。コロナ禍であったため、イベント開催は難しかったと思うが、オンライン開催などコロナ禍でも充実できるような工夫を期待する。
イ　指標②については、目標を下回った。コロナ禍の影響が多くでていたので、オリンピック・パラリンピックがあったにしても、従来のようなスポーツの実施までには到達しなかったのであろう。しかし、本分科会でのテーマでもある「身近な場所でスポーツ」がもう少し普及したならば、指標②の実績値も伸びたのではないかと思われる。区民がどのようなスポーツを望んでいるのかニーズ把握が必要と考える。
ウ　指標③は目標を上回り、評価できる。スポーツ振興課所管イベントに参加していることは、少なからずある程度のスポーツへの関心はあるともいえるので、今後は、イベントに参加しない無関心層へのアプローチも求められる。

(2)「今後の方向性」への評価
ア　事業の中止が多い中で「する」「みる」機会が減少しているのは理解できる。「みる」スポーツに関しては、区が主催の行事に限らず、特に、この数年間はサッカーワールドカップやラグビーワールドカップなど世界的なイベントが続くので、観戦を促す工夫を期待する。
イ　「みる」ことに焦点をあてた事業を通じて、スポーツの楽しさや喜びを共有できる新しい機会の提供方法や事業実施方法の工夫を期待する。
ウ　障がいのある方が参加しやすいように、障がいの状況や競技レベル別にできるスポーツの種類を増やすなど、スポーツへの入口を広げることを期待する。

(3)「助言の反映状況」への評価
ア　「パークで筋トレ」や「ボッチャ広場」など身近で誰でも参加できる事業を進めていることは評価できる。
イ　公園を活用した民間との連携イベントの実施、子どもたちが思いきり遊べるエリアの設置、「パークで筋トレ」の会場増設など、公園の多角的な活用と区民へのイベント参加促進を期待する。

6　推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「５　推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和５年２月記載）

(1)「現在の達成状況」への評価に対する区の考え方
［アについて（成果指標①）］
指標①が目標を下回ったが、区有施設での開催のみにこだわらず、民間施設も含めた様々な資源の活用やオンライン配信などの工夫で充実を図っていく。

(2)「今後の方向性」への評価に対する区の考え方
［ア・イについて（成果指標①②）］
令和４年３月に「区民の運動・スポーツに関する連携協力協定」を東京ヴェルディ㈱と締結し、プロサッカーリーグの「足立区民観戦デー」が実施された。今後も、様々な競技の試合会場に足を運べる機会を設けたり、デジタルサイネージを使った映像紹介など「みる」スポーツの充実を図りたい。
［ウについて（成果指標②）］
令和７年１１月デフリンピックの東京開催が決定し、足立区では「空手」「柔道」が行われる。このような大会をパラスポーツへの理解や関心、参加の機運を高めるきっかけとしていく。また、障がいの状況や競技レベル別にできるスポーツ教室の種目を増やすなど、更なる参加の場を拡充していく。

(3)「助言の反映状況」への評価に対する区の考え方
［イについて（成果指標②）］
「パークで筋トレ」は、指導の質向上のほか、会場を令和6年度までに年2カ所増設に取り組み、全40カ所を目指す。また、公園を活用した民間事業者連携イベントなどは、関係機関と調整していく。

運動・スポーツ計画　施策評価シート（令和３年度実施事業分）

施策の柱	１	運動・スポーツを気軽に楽しむための機会づくり
施策名	１－３	運動・スポーツに関する情報の効果的な発信
担当部・課		地域のちから推進部　生涯学習支援室　スポーツ振興課
担当部：１～３、６を記入　　庁内検討委員会：４を記入　　推進委員会：５を記入		

１　施策の方向性

施設情報や利用の仕組み、講座やイベント等の情報、総合型地域クラブや競技団体等の運動・スポーツに関する情報を、区民が必要とするときに入手できるよう、よりわかりやすく発信していく。また、運動・スポーツを生活の中で身近に感じることができるようにその意義や効果を、より多くの区民に周知していく。

このほか、ホームページやＳＮＳなどを活用し、情報を充実させていくとともに、各学習センターにおいて、複合施設という特徴を活かし、文化・読書・スポーツに関する情報を、一体的に区民に届けていく。

２　成果指標　　※R7は目標値

指標名①	運動・スポーツに関心のある区民の割合								
指標の定義	３計画アンケートにて、運動・スポーツに「関心がある」と回答した方の割合【令和３年度実施】								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	70.7%	実績値	70.7%	－	69.9%				(85.0%)
目標値（R7）	85.0%	達成率	－	－	82.2%				

指標名②	運動・スポーツの機会の充実度								
指標の定義	スポーツ振興課所管イベントの参加者アンケートにて、区が実施している運動・スポーツに関するイベントや教室などについて「とても充実している」「充実している」と回答した方の割合								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	新規	65.8%	61.9%				(60.0%)
目標値（R7）	60.0%	達成率	－	109.7%	103.2%				

指標名③									
指標の定義									
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）		実績値							
目標値（R7）		達成率							

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	2	0	0	1	0	1	4
%	50%	0%	0%	25%	0%	25%	100%

３　担当部における評価

＜現在の達成状況＞R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①実績値（70.7%→69.9%）はH30年度を下回り、R7年度の目標値（85.0%）も下回った。

指標②実績値（65.8%→61.9%）はR2年度を下回ったが、R7年度の目標値（60.0%）は上回った。

【要因分析】

・　指標①については、コロナ禍で運動やスポーツに触れる機会が減少したことによるものと推察される。

・　指標②については、前年度実績を下回ったが、コロナ禍においても区の事業を感染対策を実施しながら継続して実施してきた成果によると思われる。

【新しい生活様式への対応やその他実績等】

（１）区民ニーズをとらえた情報発信

・　活動指標「区運動・スポーツ関連HPのアクセス件数」は、計画策定時より大幅に伸びた。特にウォーキングコース紹介（R2年度開設、66コース掲載）、「あだちウォーキングチャレンジ」関連など、ウォーキングに関連するページへのアクセス数は、前年比3.8倍となった（R2：5,707件→R3：21,789件）。

（２）映像による取り組みの紹介

・　オランダ連携プロジェクト「パラスポーツで社会を変える」の取り組みについて、あだち広報だけではなく、映像による広報番組を制作した。「動画deあだち」やJ：COMあだちで発信するほか、イベント時に放映するなど、広く障がい者スポーツ推進の理解に務めた。

（３）高齢者向けの情報発信

・　ネットになじみのない方も多い高齢者に対する情報発信に関しては、「パークで筋トレ」といった高齢者が集まる事業で、身近な公園でできる運動方法の紹介チラシを配布するなど紙媒体も活用した。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

・　広報媒体の特性に応じたメリハリのある情報発信に取り組む

・　スポーツを入口としない他所属の事業に「相乗り」した情報発信を行うなど、新たな視点と手法を工夫する。

【中長期の取り組み】

・　運動・スポーツの楽しさ、取り組むことで得られる効果など、区民にとって有益な情報を発信していく。

・　自分にあった運動・スポーツを楽しめるよう、多種多様な運動・スポーツの情報発信に努める。

＜助言の反映状況＞助言の反映有無、その理由

※　令和3年度に委員会の助言を受けていない施策（重点項目外の施策）は、令和4年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて評価を受けるため、空欄となります。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	4	4	―

4　庁内検討委員会による評価（２次評価）

(1)　「現在の達成状況」への評価

・　個人でできる運動・スポーツへの取り組みをサポートする情報発信をしており評価できる。
・　運動・スポーツを入口としない視点での情報発信を行い、運動・スポーツ未実施層への興味や関心を喚起することに期待する。
・　幅広い年代層に対し、誰もが無理なく継続できる情報を定期的に発信するなど、区民ニーズを意識した運動・スポーツの情報を、過不足なく分かりやすく発信していくことを期待する。

(2)　「今後の方向性」への評価

・　楽しさを伝えるという視点を重要視した情報発信の姿勢は評価できる。
・　コロナ禍でなかなか取り組めない「みる」「する」スポーツへの興味や関心を得られるような更なる情報発信を期待する。
・　様々な情報媒体がある中で、各媒体の特性を使い分け、効果的な情報発信に期待する。

(3)　「助言の反映状況」への評価

※　令和3年度に委員会の助言を受けていない施策（重点項目外の施策）は、令和4年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて評価を受けるため、空欄となります。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	3	4	―

5　推進委員会による評価（令和４年８月記載）

(1)　「現在の達成状況」への評価

ア　中止になる事業が多い中での指標①②の現状値については、ある程度評価できるのではないかと考える。
イ　ウォーキングコースを多数掲載し、運動を促していることは素晴らしい。ウォーキングに関連するアクセス数の増加は区民の関心の高さを示している。定期的なコースの見直しや更新も希望する。
ウ　広報の方法として、動画発信やツイッター等、とても工夫されている。区ホームページへの掲載は効果的で最適である。一方でSNSのみに頼るのではなく、高齢者向けの「パークで筋トレ」のチラシ配布は評価に値する。様々な対象者に応じたアプローチを今後も継続してほしい。

(2)　「今後の方向性」への評価

ア　情報発信こそが運動・スポーツに取り組むきっかけの第一歩だと思われる。今後、事業数も増やしながら、様々な角度からの情報発信の方法を期待する。多様な媒体を用いた情報発信の重要性は前述の通りであるが、得たい情報が拡散してしまうデメリットもあるため、情報が集約されたポータルサイト開設やスポーツに特化した広報誌の作成なども一案だといえる。
イ　チラシなどの広報媒体の活用について、写真などを用いた簡単なルール説明や、スポーツへの参加の仕方のアナウンスなど、事前情報で参加のモチベーションがあがるような発信を期待する。
ウ　コロナ禍でも開催しやすいあだちウォーキングチャレンジなどのイベント増設や、ウォーキングチャレンジの規模・景品の充実を期待する。

(3)　「助言の反映状況」への評価

※　令和3年度に委員会の助言を受けていない施策（重点項目外の施策）は、令和4年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて評価を受けるため、空欄となります。

6　推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「５　推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和５年２月記載）

(1)　「現在の達成状況」への評価に対する区の考え方

［ア・イ・ウについて（成果指標①②］

若者に対する手軽な周知はSNSで、高齢者に対してはチラシを活用するなど、ターゲットを意識した情報発信方法の工夫について、今後も継続して取り組んでいく。

(2)　「今後の方向性」への評価に対する区の考え方

［アについて（成果指標①②）］

事業周知に関しては、参加対象者に合わせた手法で、一つの媒体に片寄らないことを基本とする。ホームページ上のリンクや、パラスポーツに特化したメルマガ発行などの工夫に注力する。

［イ・ウについて（成果指標②）］

令和４年度のウォーキングチャレンジでは、景品数を増やし、衛生部事業でも同時にプレゼントチャンスがあるコラボ企画を実施した。また、ＯＮＥＤＡＹウォーキングは雨天中止となったが、郷土博物館の特別展への立寄りや、観光交流協会のサイトで見どころを紹介するクイズを企画するなどした結果、問い合わせも多く参加意欲を高めた。今後も参加のモチベーションがあがるようスポーツ以外の情報も活用した事業企画を継続していく。

(3)　「助言の反映状況」への評価に対する区の考え方

※　令和3年度に委員会の助言を受けていない施策（重点項目外の施策）は、令和4年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて評価を受けるため、空欄となります。

運動・スポーツ計画　施策評価シート（令和３年度実施事業分）

施策の柱	２	運動・スポーツの楽しみを深める場の提供
施策名	２－１	身近な場所における運動・スポーツの推進
担当部・課		地域のちから推進部　生涯学習支援室　スポーツ振興課
担当部：１～３、６を記入　　庁内検討委員会：４を記入　　推進委員会：５を記入		

１　施策の方向性

稼働率の高いスポーツ関連施設を新規利用者にも提供できるよう利用調整などの環境改善を行うだけでなく、自宅や職場など生活に身近な場所で気軽にできる運動・スポーツを推進していく。また、地域での活動やコミュニティの拠点となる学校、区施設、総合型地域クラブと連携し、運動・スポーツをより身近に感じることができる環境づくりに取り組んでいく。

２　成果指標　　※R7は目標値

指標名①	身近な場で運動・スポーツを行う区民の割合								
指標の定義	世論調査にて、運動・スポーツを行っている場所について「自宅」「自宅周辺」「職場」「職場周辺」と回答した方の割合								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	新規	72.2%	75.2%				(50.0%)
目標値（R7）	50.0%	達成率	－	144.4%	150.4%				

指標名②									
指標の定義									
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）		実績値							
目標値（R7）		達成率							

指標名③									
指標の定義									
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）		実績値							
目標値（R7）		達成率							

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	6	0	0	0	0	0	6
%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	100%

３　担当部における評価

＜現在の達成状況＞R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①実績値（72.2%→75.2%）は令和2年度を上回り、令和７年度の目標値（50.0%）も上回った。

【要因分析】

・　指標①については、コロナ禍の影響で、自宅周辺や職場など身近なところで運動・スポーツを楽しむ区民が増加したことが一因と考えられる。

【新しい生活様式への対応やその他実績等】

（１）公園活用啓発チラシの作成・配布

・　コロナ禍で地域行事など活動の場が減少した高齢者に対し、身近な公園でできる運動方法の紹介チラシを作成し配布した。大多数の公園にある段差やベンチなどを使った運動や、公園の健康遊具を使った「ちょい足し」トレーニングを紹介するなど「一人でもできる」継続的な運動を促した。

（２）公園健康遊具の紹介

・　インクルーシブ施設（遊具）のある公園をホームページ、チラシにより紹介し、障がいのある方でも、身近な公園で身体を動かす事ができるよう普及啓発をおこなった。

（３）誰もが参加しやすい事業の実施

・　時間や場所を気にせず、自分のペースで参加ができる「あだちウォーキングチャレンジ」、いつでもだれでも参加ができる「パークで筋トレ」といった気軽に参加しやすい事業を実施した。ウォーキングチャレンジは、1,000人を超える参加があり、スポーツ実施率の低い30～50歳代の働き世代が全体の4割強を占めた。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

・　誰もが気軽に取り組め、運動の習慣化につながるウォーキングやパークで筋トレといった事業の充実を図っていく。

・　職場周辺での運動・スポーツの取り組みを増やすために、区内企業の健康経営を後押しするなど、関係所管と協力しながら普及・啓発を行っていく。

【中長期の取り組み】

・　区スポーツ施設の整備・維持とともに、民間のスポーツ事業運営事業者と連携を深め、運動・スポーツがより身近に楽しめる新たな場の展開に取り組む。

＜助言の反映状況＞助言の反映有無、その理由

・　「区の資源となる公園、民間スポーツ施設、大学等の活用で区民の運動・スポーツ事業の検討を」との助言に対し、ウォーキングチャレンジへの民間事業者単位での参加や、民間スポーツ事業者のトレーナーからの専門的なアドバイスを区ＳＮＳで発信するなど、事業協力を得て協力関係を築いた。

・　今後、民間スポーツ施設や区内大学との連携に関しては、どのような事業で対応が可能か具体的な検討を進めていく。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	4	4	4

4　庁内検討委員会による評価（２次評価）

(1)「現在の達成状況」への評価
- 身近な公園でできる活動を継続して実施し、瀬策目標達成に寄与した点は評価できる。
- コロナ禍だからこそ身近な場所で取り組み始めた運動・スポーツ習慣を継続できるよう、魅力ある事業の工夫と、場の整備に期待する。

(2)「今後の方向性」への評価
- 運動・スポーツ実施率の低い「働き世代」の取り組みの鍵として、職場という新たな運動・スポーツのフィールドの開拓を検討していることは評価できる。
- 民間企業や大学など、区内の資源となる事業者との連携によって、運動・スポーツがより身近なものとして区民に浸透していくことを期待する。

(3)「助言の反映状況」への評価
- コロナ禍での各種制限の影響を受けない形で、誰もが身近で気軽に参加できる事業を工夫して実施し、そこに民間の協力を得て事業を盛り上げた点は評価できる。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	4	4	4

5　推進委員会による評価（令和４年８月記載）

(1)「現在の達成状況」への評価
ア　指標①は150%という大幅な達成率であり、コロナ禍が続く中で、身近な所での運動・スポーツをする人の割合が増えたことは評価できる。
イ　リモート等で、通学・通勤の時間がなくなり家で過ごす時間が増えたり、公共の場が使えずスポーツが出来る場所が身近な公園に限られていたりした。このことにより、身近なスポーツに取り組む機会となったのではないだろうか。ウイズコロナでの生活を考えると、身近な場所の環境整備や充実が望まれる。
ウ　誰もが身近な場所で運動ができるよう、インクルーシブ遊具のある公園を紹介したことは、利用者にとっての利便性を高めるとともに、「インクルーシブ」という考え方の普及にもつながり評価できる。

(2)「今後の方向性」への評価
ア　スポーツ実施率の低い世代が「実施できない」理由の分析を行い、それに基づいた施策の検討が必要である。
イ　気軽に取り組める運動・スポーツの場所を引き続き拡充してもらいたい。区の施設に関しては限りがあるため、今後も民間事業者との連携を深め、スポーツの場の確保に努めてもらうと共に、誰でも安心して施設利用ができるよう、施設利用者に偏りが出ないように工夫してほしい。
ウ　ウイズコロナの時代を鑑み、生活に密着した空間である地域の「公園」を利用して、「パークで筋トレ」をはじめとした、公園の活用を検討してほしい。

(3)「助言の反映状況」への評価
ア　民間事業者を積極的に活用していることは評価できる。今後も民間スポーツ事業所のトレーナーの活用なども含め、民間事業者・区内大学からのアイデア等も受け入れながら進めてもらいたい。また、他の区の素晴らしい事例などから情報を得て、実際に施設見学や利用者からのヒアリングなどを行い、取り入れることが出来ることは足立区でも積極的に取り入れてほしい。

6　推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「５　推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和５年２月記載）

(1)「現在の達成状況」への評価に対する区の考え方
［アについて（成果指標①）］
「パークで筋トレ」など身近な場所で気軽に参加できる事業に注力した結果である。今後も工夫しながら継続していく。

(2)「今後の方向性」への評価に対する区の考え方
［アについて（成果指標①）］
令和３年度アンケートで運動をしなかった理由は、運動実施率の低い30代～50代男性は「新型コロナウイルスのため」「面倒くさいから」が大きな比率を占めており、30代女性は「子どもに手がかかるから」という理由が突出している。普段の生活の中で歩くことを意識する「ウォーキングチャレンジ」や、子どもと一緒に参加する「親子体験教室」など、気軽に参加できて「気づいたら運動・スポーツにつながる」取り組みを充実させていく。
［イ・ウについて（成果指標①）］
民間スポーツ施設との連携を深め、スポーツの場の拡充に取り組んでいく。また、誰でも安心して利用できる環境整備に取り組んでいく。

(3)「助言の反映状況」への評価に対する区の考え方
［イについて（成果指標②）］
今後も民間事業者との連携について働きかけ、施設運営に関する専門的、先行的な事例などについて受け入れながら、積極的に区事業に反映させていく。

運動・スポーツ計画　施策評価シート（令和３年度実施事業分）

施策の柱	２	運動・スポーツの楽しみを深める場の提供
施策名	２－２	協働・協創による他分野との連携の仕組みづくり
担当部・課		地域のちから推進部　生涯学習支援室　スポーツ振興課
担当部：１～３、６を記入　　庁内検討委員会：４を記入　　推進委員会：５を記入		

１　施策の方向性

運動・スポーツだけでなく文化活動や体験・学習を行うことができる複合施設であるという地域学習センターが区内に13館あるという強みを生かし、文化・読書分野と連携し、運動・スポーツへの関心喚起、活動の実施につながる様々な取り組みを推進していく。

また、庁内の他部署、民間団体や事業所など、運動・スポーツ分野だけでなく、他分野との連携を積極的に推進していく。

２　成果指標　　※R7は目標値

指標名①	運動・スポーツに関心のある区民の割合【再掲】								
指標の定義	３計画アンケートにて、運動・スポーツに「関心がある」と回答した方の割合【令和３年度実施】								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	70.7%	実績値	70.7%	－	69.9%				(85.0%)
目標値（R7）	85.0%	達成率	－	－	82.2%				

指標名②	３分野連携事業への参加により、新たに運動・スポーツを始めた区民の割合								
指標の定義	３分野連携事業の参加者アンケートにおいて、「定期的ではないがスポーツをしています。」以上を選んだ区民の割合 ※行動変容ステージモデル…「無関心期」「関心期」「準備期」「実行期」「維持期」で構成								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	新規	44.6%	55.1%				(50.0%)
目標値（R7）	50.0%	達成率	－	89.2%	110.2%				

指標名③									
指標の定義									
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）		実績値							
目標値（R7）		達成率							

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	2	0	0	0	0	1	3
%	67%	0%	0%	0%	0%	33%	100%

３　担当部における評価

＜現在の達成状況＞R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①は再掲（施策1-3）。

指標②実績値（44.6%→55.1%）はR2年度を上回り、R7年度の目標値（50.0%）も上回った。

【要因分析】

・　指標①は再掲（施策1-3）。

・　指標②については、始めてみようと思ったきっかけで最も多かった回答が、３分野連携事業を実施した地域学習センターの「職員の声かけ」という結果に表れているように、参加者への丁寧な声かけが意欲を引き出した。

【新しい生活様式への対応やその他実績等】

（１）参加者ニーズを捉えたプログラム

・　「親子一緒に」「気軽に」「製作」「持ち帰ることができる」といった地域学習センターを利用する主な年代層（親子連れ、高齢者等）に合わせた体験プログラムを中心に展開した。身近な場所で、「ちょいスポ」事業のメニューが増えたことで、スポーツにあまり興味のなかった方が自然に受け入れていただける結果につながった。

（２）他所属事業との連携

・　パークイノベーション担当課と地域包括ケア推進課とともに、公園における高齢者の運動紹介パンフレットの作成と、「パークで筋トレ」参加者への配布をおこなった。

・　衛生部と糖尿病月間居合わせたコラボイベントを実施した。衛生部の「食」の取組みに、「運動」するイベント（あだちウォーキングチャレンジ）期間を合わせることで、相乗効果を狙った事業展開を図った。チラシの配布先も合わせることで、幅広い対象者への周知が図れた。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

・　運動・スポーツを入り口としないアプローチから、自然に運動・スポーツに取り組める「ちょいスポ」の考え方を生かし、情報発信や事業構成の工夫をおこなう。

・　スポーツをツールとした共生社会の構築のために、スポーツコンシェルジュを核とした福祉部、教育委員会等関係部署との連携、パラスポーツに関する協働・協創パートナーとの繋がりを広げていく。

【中長期の取り組み】

・　民間事業者との連携により、より専門的な知識や、人材資源の交流、物的資源の活用を図り、区民ニーズに対する複層的なアプローチをおこなう。

＜助言の反映状況＞助言の反映有無、その理由

・　「スポーツ所管以外からの様々な情報を連携し、幅広い興味関心を広げる取組みを」という助言についてウォーキングマップの掲載ＨＰに公園管理課からの情報を生かし、「花」がみられるコース表示に取り組んだ。

・　「区内にある民間スポーツクラブをもっと活用するとよい」との助言については、民間スポーツクラブにおける「ちょい読み」の取り組みを検討する。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	4	4	3

4　庁内検討委員会による評価（２次評価）

(1)「現在の達成状況」への評価
- ３分野連携では、地域学習センターでの事業参加者との対話からニーズを把握し、成果につなげている点が評価できる。
- 他分野への興味関心を入り口とする手法は、区関係各課に好事例を共有し、他事業でも取り入れてほしい。
- 糖尿病月間における衛生部との「食」、スポーツ振興課の「運動」といったコラボ事業のような、各分野の相乗効果を見込める事業企画を今後も期待する。

(2)「今後の方向性」への評価
- 区民が取り組みやすい「ちょいスポ」情報の発信に力を入れる方向性は評価できる。
- あだちスポーツコンシェルジュの活動でつながったパラスポーツに関する協働・協創パートナーとの繋がり、連携を強化し、共生社会の構築という大きな目標の実現に期待する。
- 民間事者の強味や資源を生かしつつ、区民への事業提供の方向性は評価できる。

(3)「助言の反映状況」への評価
- 他所属の情報を加えることで、より多くの区民が興味をもっていただける結果となったことは、評価できる。
- スポーツを入り口としない考え方が広がり、民間事業者との連携や資源の活用といった取り組みが進むことに期待する。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	3	3	4

5　推進委員会による評価（令和４年８月記載）

(1)「現在の達成状況」への評価
ア　指標①は目標を下回っており、今後さらなる検討が求められる。
イ　他分野から運動・スポーツをするきっかけを作る指標②が目標値を上回ったことは評価できる。区のあらゆる施設で「ちょいスポ」の声かけがとても重要であることが確認されたので、今後とも声かけを継続してほしい。また様々なメディアを活用した事業の紹介などは今後も続けていくことを期待する。

(2)「今後の方向性」への評価
ア　地域学習センターの職員もこの事業への協力者になってアイデアを出したり、声かけをしたりと関わりを持って進めてもらえたことは評価できる。３分野に限定するのではなく、今後も様々な分野連携により、運動・スポーツをするきっかけ作りに期待する。
イ　スポーツに「ちょい」参加することは広がってきた。ここからは、どのように継続して生涯スポーツにつなげることができるか、またより高い技術を目指すためのフォローアップなど、次のステージでの検討が求められる。
ウ　スポーツコンシェルジュを核として他分野に関する情報を提供するためには、福祉部、教育委員会関係部署など庁内連携が不可欠であり、それぞれの立場からどのような活用ができるのか共に議論し合うことが求められる。

(3)「助言の反映状況」への評価
ア　ウォーキングマップを活用した「花」を見られるコース表示は素晴らしく、次回（第２弾）を含めた今後の展開に期待する。
イ　民間スポーツクラブとの取り組みの検討が始められたことは評価できる。区の各所管はもちろん、民間事業者や大学などとの広い視点での連携も今後期待する。例えば、施設利用として民間スポーツクラブの休館日等を利用した施策を提案したい。

6　推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「５　推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和５年２月記載）

(1)「現在の達成状況」への評価に対する区の考え方
［アについて（成果指標①）］
ちょいスポなどの身近な場所で手軽に運動・スポーツを始めるきっかけづくりを継続することで、関心に繋げていく。

(2)「今後の方向性」への評価に対する区の考え方
［イについて（成果指標①②）］
生涯学習センターの「ちょいスポ」事業では、対象とした参加者の年代が参加できる類似事業を講座内で周知することで、様々な年代で継続できる活動に繋げている。また、多世代で無理なくできる「ボッチャ」などの競技体験会を定期的に実施するなど、生涯スポーツにつながる事業にも取り組んでいく。
［ウについて（成果指標②）］
障がい者が運動・スポーツをスムーズに取り組むためには、教育現場や福祉部、協働・協創パートナーに情報を共有し、連携を取りながら課題に向き合っていく。

(3)「助言の反映状況」への評価に対する区の考え方
［イについて（成果指標②）］
民間や大学等が持つ資源（施設、人材、専門性等）を活用することで、これまで以上に機会の充実や区民サービスの向上が期待できる。機会を捉え、積極的に検討していく。

運動・スポーツ計画　施策評価シート（令和３年度実施事業分）

施策の柱	３	運動・スポーツをささえる人材の育成と活躍の場の創出
施策名	３－１	運動・スポーツをささえる組織の支援と連携強化
担当部・課		地域のちから推進部　生涯学習支援室　スポーツ振興課
担当部：１～３、６を記入　　庁内検討委員会：４を記入　　推進委員会：５を記入		

１　施策の方向性

体育協会やスポーツ推進委員会など、運動・スポーツをささえる組織を支援し、運営基盤を強化していく。また、地域において組織として期待される役割を意識共有し、組織間の交流を促すなど、連携強化に努めていく。

２　成果指標　　※R7は目標値

指標名①	関係団体との連携事業の実施回数								
指標の定義	「体育協会」「スポーツ推進委員」「総合型地域クラブ」のスポーツ関係団体のほか、民間企業などとの連携により実施した事業の実施回数（※　事業数）								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	24回	実績値	24回	7回	10回				(35回)
目標値（R7）	35回	達成率	－	20.0%	28.6%				

指標名②									
指標の定義									
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）		実績値							
目標値（R7）		達成率							

指標名③									
指標の定義									
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）		実績値							
目標値（R7）		達成率							

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	3	0	1	0	0	0	4
%	75%	0%	25%	0%	0%	0%	100%

３　担当部における評価

＜現在の達成状況＞R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①実績値（7回→10回）はR2年度を上回り、R7年度の目標値（35回）は下回った。

※　各団体、民間企業への委託事業は連携活動に含まない。

【要因分析】

・　コロナ禍の影響で、多くの事業が中止となったことが主な要因である。そうした中でも、スペシャルクライフコートにおけるパラスポーツ体験会や、感染対策をおこないながらできる大会の実施、スポーツ推進委員の出前事業など工夫をしながらおこなった活動により昨年を上回った。

【新しい生活様式への対応やその他実績等】

（１）出前事業の実施

・　集客イベントが実施できない状況が続く中、スポーツ推進委員は、地域や学校におけるパラスポーツ教室（住区センター1か所、児童館1か所、学校５校）など、スポーツ推進委員が出向くことで活動の場を広げた。

（２）体育協会加盟団体による大会実施

・　区及び体育協会による区民大会等大規模な大会は中止となったが、体育協会加盟団体が感染防止対策を取りながら大会を実施した（18競技、大会16回）。

（３）総合型地域クラブにおける地域スポーツの実施

・　感染対策をとりながら様々な委託事業や自主事業を実施した（124事業、参加者15,902人）。

（４）パラスポーツミーティングの実施

・　パラスポーツ活動における協働・協創パートナーを集め、情報交換会を開催して課題の共有を図った。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

・　今までの活動に加え、総合型地域クラブによるパラスポーツ普及事業を令和4年度より事業委託した。障がいのある方を含め誰もが地域で運動・スポーツに取り組める環境を整え、活動を広げていく。

【中長期の取り組み】

・　地域におけるスポーツ関連団体や、パラスポーツ活動における協働・協創パートナーと情報交換や相互交流の機会を提供し、ネットワークづくりに力をいれていく。また、誰もが運動・スポーツを楽しめる支援の輪を広げることで、共生社会の実現を目指していく。

＜助言の反映状況＞助言の反映有無、その理由

※　令和3年度に委員会の助言を受けていない施策（重点項目外の施策）は、令和4年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて評価を受けるため、空欄となります。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
3	2	4	―

4　庁内検討委員会による評価（２次評価）

（1）「現在の達成状況」への評価

・　スポーツ推進委員会をはじめとする区内スポーツ団体の活動について、コロナ禍でありながらも、感染対策を取りながら工夫をして活動を継続したことは評価できる。

・　区内スポーツ団体の活動についても、コロナ禍における対応だけでなく、社会変化に応じた対応ができるよう人材の育成、新たな活動者の獲得に期待する。

（2）「今後の方向性」への評価

・　共生社会構築のために、パラスポーツ普及事業に新たに取り組むことは評価できる。

・　パラスポーツに限らず、区内のスポーツ関連団体の連携、交流の場を設け、地域における課題の共有や、区民が誰でも楽しめるスポーツの機会の提供に果たす役割を意識した活動に期待する。

（3）「助言の反映状況」への評価

※　令和3年度に委員会の助言を受けていない施策（重点項目外の施策）は、令和4年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて評価を受けるため、空欄となります。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
3	2	3	―

5　推進委員会による評価（令和４年８月記載）

（1）「現在の達成状況」への評価

ア　指標①はコロナ禍でも出来る事業を徐々に増やし、オンライン開催などの工夫やスポーツ推進委員等を活用していることは評価できる。しかしながら、目標値を下回っているため、引き続きの努力を期待する。

イ　コロナ禍の影響が大きく、イベント中止で人材が育たない。知識から実践へという流れや人と人との交流が進まず、とても残念であるが、その中でスポーツ推進委員の活躍は目を見張る。ぜひ今後ともスポーツ推進委員の活躍の場の拡大に期待する。

（2）「今後の方向性」への評価

ア　人材の育成や確保は引き続き行いながらも、今後は共生社会やウイズコロナを見越し、運動・スポーツを支える人材が活躍できる場の提供も同時に進めてもらえるよう期待する。活動をより広げるために、総合型地域クラブによるパラスポーツ普及事業の委託を行った点は評価できる。

イ　障がい者のスポーツを支える人材を育成するために、まずは障がい者のスポーツに関心を持ってもらい、障がい者（身体・知的・盲・ろう者）当事者から話を聞いたりして、支援方法などの簡単なマニュアルやガイドブックを作成することを提案したい。

（3）「助言の反映状況」への評価

※　令和3年度に委員会の助言を受けていない施策（重点項目外の施策）は、令和4年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて評価を受けるため、空欄となります。

6　推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「５　推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和５年２月記載）

（1）「現在の達成状況」への評価に対する区の考え方

［ア・イについて（成果指標①）］

コロナ禍で実施できなかった事業が増え、体育協会やスポーツ推進委員会などの運動・スポーツを支える人材が実践的な経験を積む機会が減少した。今後は、支える人材が参加する研修の開催など、関係スポーツ団体の活動を引き続き支援していく。

（2）「今後の方向性」への評価に対する区の考え方

［アについて（成果指標①）］

地域におけるスポーツ推進委員や総合型地域クラブ、体育協会加盟団体などと連携した事業は、コロナ禍以前は大規模イベントに頼っていた。現在は、住区センターや学校などに出向き事業を展開するなどの地域での活動が広がった。今後も新たな活動の場を拡充していきたい。

［イについて（成果指標①）］

スポーツを「支える」活動を広げるためには、プレイヤーが求めている活動を知ることが大切である。パラスポーツ体験事業や、パラスポーツイベントで、「障がい者の立場」「サポートの大切さ」を学ぶ機会を増やし、パラスポーツへの関心の裾野を広げていく。また、イベント従事者に対し、初級障がい者指導者講習会実施時に利用している障がい者理解のためのガイドブックの周知を図りたい。

※　令和3年度に委員会の助言を受けていない施策（重点項目外の施策）は、令和4年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて評価を受けるため、空欄となります。

運動・スポーツ計画　施策評価シート（令和３年度実施事業分）

施策の柱	３	運動・スポーツをささえる人材の育成と活躍の場の創出
施策名	３－２	運動・スポーツをささえる人材の育成とマッチング
担当部・課		地域のちから推進部　生涯学習支援室　スポーツ振興課
担当部：１～３、６を記入　　庁内検討委員会：４を記入　　推進委員会：５を記入		

１　施策の方向性

運動・スポーツを通して人と人とのつながりや、地域のコミュニティを醸成していくために、区民の運動・スポーツをささえていく多様な人材の育成支援に取り組んでいく。

また、地域のニーズを把握し、こうした運動・スポーツをささえる人材が、適切な場で活躍できるようマッチングする仕組みを整えていく。

２　成果指標　　※R7は目標値

指標名①	運動・スポーツをささえる活動を行った区民の割合								
指標の定義	３計画アンケートにて、過去１年間に運動・スポーツをささえる活動をしたことが「ある」と回答した方の割合【令和３年度実施】								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	16.8%	実績値	16.8%	－	11.4%				(35.0%)
目標値（R7）	35.0%	達成率	－	－	32.6%				

指標名②	スポーツボランティアの地域イベントへの協力人数								
指標の定義	運動・スポーツをささえる活動に従事した「公認スポーツボランティア」「障がい者スポーツボランティア」などの延べ従事人数								
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	新規	0人	32人				(820人)
目標値（R7）	820人	達成率	－	0%	3.9%				

指標名③									
指標の定義									
			H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）		実績値							
目標値（R7）		達成率							

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	3	2	1	0	1	0	7
%	43%	29%	14%	0%	14%	0%	100%

３　担当部における評価

＜現在の達成状況＞R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①実績値（16.8%→11.4%）はH30年度も下回り、R7年度の目標値（35.0%）も下回った。

指標②実績値（0人→297人）はR2年度を上回り、R7年度の目標値（820人）は下回った。

【要因分析】

・　指標①、②ともに、コロナ禍の影響で、支える活動として参加ができるイベントが減少したことが主な要因である。３計画アンケートにおいて、「支える活動をしなかった理由」は「特にない」を除くと「新型コロナウイルスの影響のため」が最も多く24.8%を占めた。

【新しい生活様式への対応やその他実績等】

（１）障がい者福祉サービス事業所へのアウトリーチ

・　R3年度から、あだちスポーツコンシェルジュがパイプ役となり、障がい者福祉サービス事業所へのアウトリーチ（出前事業）に初級障がい者スポーツ指導員の派遣を開始した（2回、6人）。

（２）ささえる人材の育成

・　初級障がい者スポーツ指導員養成講習会を実施した（22名受講）。日常の関わりにおける障がい者理解やスポーツの楽しさ、重要性を学んだ。

・　令和3年3月に初めてパークで筋トレ指導員に対する指導者講習会を実施した。理学療法士や栄養士による高齢者の体と運動、食との関連性を学んだ（21名受講）。

・　体育協会所属のジュニアスポーツ指導者、スポーツ推進委員、保護者に対するコンプライアンス研修会を実施した。指導時における禁止行為などの理解促進を図った（305名受講）。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

・　支える人材の活動の場を拡充していく。令和4年度から、これまでの取り組みに加え、新たに初級障がい者スポーツ指導員養成講習会受講者の運営による「ボッチャひろば」を開始する。

・　支える人材の資格、能力を活用できる場と、ボランティアとしてお手伝いから始めていただける場など、人材の活動の場を切り分け対応していく。

【中長期の取り組み】

・　指導者のスキルアップに取り組む。区公認スポーツサポーター、体育協会等、現行の制度、組織の垣根を超えた連携と、安全に配慮できる専門的な指導者育成と活躍の場の再構築を行う。

＜助言の反映状況＞助言の反映有無、その理由

※　令和3年度に委員会の助言を受けていない施策（重点項目外の施策）は、令和4年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて評価を受けるため、空欄となります。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
3	2	3	―

4　庁内検討委員会による評価（２次評価）

(1)　「現在の達成状況」への評価

・　指標②の目標値については、コロナ禍の影響前の大規模イベントを制限なく行えた場合を基準に策定されている。今後については、イベント以外での活動の場も増やすなどの工夫で目標値に近づけるよう期待する。
・　支える人材の活動の場については、適切な人材を適切な場に派遣することが望ましい。人材の育成に合わせた活動の場の更なる開拓を期待する。
・　各種研修を実施し、パークで筋トレの個人講師の育成、障がい者団体へのアウトリーチのボランティア派遣などを行ったことは評価できる。

(2)　「今後の方向性」への評価

・　資格や能力を発揮したいと考える方と、まずはお手伝いから始めたいという方に対し、様々な関わり方ができる場を提供する方向性は評価できる。
・　指導者育成の仕組みづくりは急務である。社会情勢の変化に合わせた学びと専門性をどのように担保していくか、現在の制度の再構築に期待する。

(3)　「助言の反映状況」への評価

※　令和3年度に委員会の助言を受けていない施策（重点項目外の施策）は、令和4年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて評価を受けるため、空欄となります。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
3	2	3	―

5　推進委員会による評価（令和４年８月記載）

(1)　「現在の達成状況」への評価

ア　指標①②ともに目標を下回った。指標①はコロナ禍で運動・スポーツを支える人材が活躍できる場がなかったことと関連するであろう。スポーツボランティアや初級障がい者スポーツ指導員の登録人数がＨ30年度と比較して増えていることは評価できる。パークで筋トレの指導者講習会の実施やスポーツ指導者へのコンプライアンス研修は充実しており評価できる。

(2)　「今後の方向性」への評価

ア　運動・スポーツをささえる人材になるためには、活動の場の確保が不可欠である。「ボッチャ広場」など取り組みやすい事業を進めているのと同時に、指導者のスキルアップに取り組んでいることは評価できる。
イ　支える人材の研修や学びの意欲を高めるために、リモートでの講習（大学教授、アスリートなど）を取り入れることを提案したい。
ウ　支える人材としては、ボランティアセンター登録の人や福祉を学ぶ大学生、民間インストラクターやトレーナー等、埋もれている人材が多数いるであろう。彼らのニーズを踏まえ、どのようにコーディネートしていくかが課題である。
エ　コンシェルジュの活用は都内でも珍しい。スポーツコンシェルジュの今後の活動の幅を深く広く進めていくことが重要である。コンシュルジュが、スポーツをしたい人だけでなく、お手伝いしたい人の情報も把握し、両者がマッチングできるような工夫を期待する。
オ　運動・スポーツを支える人材として部活動指導員に着目したい。今後部活動の地域移行は確実であり、民間や地域の方が部活動指導員を担っていくであろう。その際、障がい者スポーツをはじめとした合理的配慮の視点を研修に取り入れることで、部活動を通した障がい理解も可能になる。

(3)　「助言の反映状況」への評価

※　令和3年度に委員会の助言を受けていない施策（重点項目外の施策）は、令和4年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて評価を受けるため、空欄となります。

6　推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「５　推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和５年２月記載）

(1)　「現在の達成状況」への評価に対する区の考え方

［アについて（成果指標①）］

支える人材の活躍の場を広げる活動と並行し、さらに人材育成に注力していく。

(2)　「今後の方向性」への評価に対する区の考え方

［ア・イについて（成果指標①②）］

スポーツのルール習得や競技指導技術だけではない、プレイヤーの立場に立った対応、合理的配慮や安全に関する講習会・研修会を実施してきた。今後もより多くの方が様々な知識を習得し、意欲を高められるような研修について、リモート受講など多くの参加者が受講できるような工夫をしながら、継続して実施していく。

［ウ・エについて（成果指標①②）］

人材のコーディネートについては、支える側として関わることのできる人材の発掘も含め、スポーツコンシェルジュを中心とした関わりの中で対応していく。

［オについて（成果指標②）］

部活動の地域移行については、現在、土・日の部活動の地域移行に向けて国や都でモデル的な取り組みが始まっている。今後、障がい者スポーツをはじめとした合理的配慮等を備えた研修方法についても検討していく。